5861
2144
no.13

LA SEMANTO

種蒔く人

行動と批判

第二年 第三巻 第十一號

大正十年十二月一日（第三種郵便物認可）
大正十一年七月廿八日（印刷納本）
大正十一年八月一日發行（毎月一回一日發行）

自由主義の段階

撤兵と飢饉

ロマン・ロオラン對アンリ・バルビュスの論争五通

社會主義講座

シベリア通信

BERKELEY LIBRARY UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◇八月特別號◇

種蒔き社

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

NIA DEKLARO

Iam antaŭe homoj kreis diojn. Sed homoj nun estas ilin mortigintaj. La destino de l'kreitaĵoj estas facile divenebla.

Nuntempe ne sintrovas dioj. Tamen ĉie aliformigaĵoj de dioj estas plenaj. Dioj devas esti mortigataj. Kiuj ilin mortigas, estas ni; kaj kiuj ilin aprobas, estas la malamikoj. Du kampadejoj kontraŭstaras unu la alian. Dum ĉitiu stato daŭradas, homoj estas malamikoj de homoj. Neniam estas inter ili la vojo de kompromiso; tie nur estas „jes" aŭ „ne," „vero" aŭ „malvero."

Vero estas absoluta. Ni do diras pri la Vero, kiun aliuloj ne diras. Homoj estas lupoj kontraŭ homoj. Landoj aŭ rasoj estas en nenia rilato por ili. Sub la lumo de Vero okazas unuiĝo kaj apartiĝo.

[illegible] —kune kun la kamaradoj el la tuta mondo!

La Semanto. (*TANEMAKIŜA*)

種蒔く人八月號目次

自由主義への段階（題言）……………………………
世界平和・人類愛・撤兵と飢饉…………………………（社　論）
ロマン・ロオラン對アンリ・バルビユスの論爭（五通完譯）……………
ごろつき食倒し論…………………………中西伊之助
中西氏に答ふ……………………………平林初之輔
シベリア通信……………………………
猶太人と世界革命（小牧）――實感主義者林未夫君（日之樹）――新進戲曲作家總評（孝丸・洋文）――才人佐野袈裟美君の小說（三郎生）――有島谷崎兩氏の藝術を評す（光造）――村の反逆者を讀む（洋文）――地平社と四十年社（弘二）――映畫人生の行路（賢三）
‖世　界　欄‖
飢えたるロシアの救濟と虐構事實――エス、エル黨四十七士の裁判――赤色スポートインターナショナル
□地方欄――犇人――赤葬――靜動
□社會主義講座□エスペラント講座
表紙繪・カツト・及び漫畫…………………柳瀨正夢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自由主義は崩壊原理である。それは決して建設原理でない。しかしながらこの同じ自由主義はその意味に於て崩壊原理と同じなのである。

古代ギリシヤに於ける共和主義對獨裁主義の爭ひは必然自由民間の爭であつて、決して奴隷のあづかり知るところでなかつた。奴隷にとつては、アテーナイの如き共和國家も、スパルタの如き君主國家も、その生活に何の關するところはなかつたのである。しかしながら自由民の國にあつてはそれは大問題であつた。共和主義とは即ち自由主義である。この自由とは結局自由民の內部に於ける自由主義である。ここに自由主義の一段階がある。さうして獨裁主義にも。

自由主義の段階

今日政友會と憲政會と相爭ふ。しかもその爭ひが同一水平線上の爭である限り、その政爭は日本の無產者に何の關することでない。その自由主義の一目標としての普通選擧は憲政會と政友會との間にあつては大問題となるが、一般の無產者の與り知るところでない、この自由主義もその限界を有してゐる。さうして獨裁主義もまた。

かくしてある一段階の內部には必然的に、獨裁主義と自由主義とが存してゐる　一段階の內部には、崩壊原理としての自由主義と、建設原理としての獨裁主義とがある。この二つは相反するものであり、さうしてその意味は同じなのである。

無政府主義は共產主義に對してのみ意味がある。同樣にしてロマン・ロオラン對アンリ・バルビユスの論爭も一段階中の論爭である。この段階を混じてはならない。この段階にも達せざる日本の反動主義者がいたづらにロマン・ロオランをかついで自らを辯護するのは、ロオランを汚すものであり、また自らを知る明なきものである。ロオランは日本の「藝術」のための藝術論者以上である。同樣にしてバルビユスはロオランの崩壊原理の基礎の上に立つところの建設原理は考へても、決して日本のある種の階級文學者のやうな無理解なものでない。

共同戰線は必要である。しかし馬獨を斷つた例もある、しかも「泣く」必要もない。

東167813

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世界平和、人類愛 撤兵と飢饉

二つのロシアが僕らの眼の前にある。資本主義國が根本から覆そうとしても犯すことの出來ない共産ロシア。そして、そのロシアは飢饉といふ天災と死力をつくしてゐる。もう一つは極東ロシアのシベリアである。そこには軍國主義の[illegible]が、兵隊を繰り出してありとあらゆることをした。シベリアに出兵した理由は反革命者を援けて利權を得ることにあつたことは確かだ。[illegible]その證據に、最近のある地方新聞によると、シベリアに在住の日本人は食物に全く窮し、さりとて歸國するに金なく、輕うじて日本軍の殘飯で生命をつないでゐるそうだ。シベリアの日本人に殘飯を與へることだけが保護であるとすれば、何にも兵隊を繰込すにも限るまい。尼港事件だつてそうだ。僕らは果してその眞相を知つてゐるのだらうか。

僕らはもう少し冷靜に考へて見よう。[illegible]。僕らの手をしつかり見る時に、僕らの手にも多量の血痕[illegible]ついてゐることの否定が出來ない。そうときまると遲蒔きでも何でもいい一日もながくこんな狀態をつづけることが出來ない。われわれに、他の國の實行したやうな眼醒し、

い運動の準備が未だ出來てないとすれば、[redacted]、赤色ロシア及びその友邦國の障害を一日も早く驅逐する運動を起さなければならぬ筈のものだ。種蒔き社がこんど勞働團體及び思想團體によつて組織された對露非干渉同志會に加盟した理由はそこにある。(事務所東京芝新櫻田町 山崎今朝彌方)

加藤内閣はシベリア撤兵を聲明したのであるが、これまでの前例から見ても撤兵が即時に斷行されない以上僕らはそこに絶對に信用を置くことが出來ない。その上、僕らの要求は全シベリアからの撤兵である。それが、浦鹽とか乃至尼港とかに限られた撤退であるならば意味をなさない。更らに僕らの要求は無條件無賠償である。常に私有財産の强奪に反抗する[redacted]。僕らは、對露非干渉同志會の運動が全日本の運動に具體化することを希望してやまないものである。

ロシアの飢饉は本誌の創刊當時よりしばしば繰返へされた。そして、今日ではその被害が取返へしのつかぬまでに發展してゐる。ロシアの市民は八年も戰ひつかれてゐるのだ。資本主義の戰爭にいや應なしに捲き込まれたロシアの農民、勞働者は、聯合國の走狗である反革命主義者と戰はねばならなかつた。そして、その上、今日天災と死力をつくしてゐる。しかし、アンリ・バルビユスも云つてゐる通り、たとへどうあらうとも飢えたるロシアは尚且つ起つて彼等の主張を枉げまいとしてゐるのだ。世界革命の先驅者、飢えたるロシアを見殺すことと、手をかけて殺すことの間にどれだけの差があるか。バルビユスはまた、言つた。ロシアがあつて思想が生きた。そして、そのロシアが今や死のうとしてゐる。この上、僕らが殺人の下手人になることはあまりに慘忍である。それは、主義に反逆すると同様だ。僕らが常に如何に主義主張を稱へても、かうした當面の實際問題を忘却するやうでは何にもならない。「種蒔く人」は最上の努力を集中して僕らの兄弟雜誌である「前衛」社の事業を極力援助することにしてゐる。讀者諸君、「前衛」社の事業を成功させるために、到るところに種を蒔いてくれ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ロシアがあつて思想が生きた。そして、今やそのロシアが死のうとしてゐる。もしも、飢饉が尙も遠い無數の兄弟たちを喰ひつくすことがあつては、その思想も、我らのそれもともに亡ぶことになる。

人類のあらゆる不幸の原因は特權の獨占といふ慘忍性であることを知つてゐる君たち、飢ゑたるロシアでは例へどうあらうとも、尙ほ且つ起つて彼等の主張を拄げないことを知つてゐる君たち、見殺すことゝ、手をかけて殺すことの間に大差のないことを知れ。アンリ・バルビュス

露國飢饉救濟金募集

一、本社は左の方法により、露國飢饉救濟金を募集します。奮つて御援助を願ひます。

一、金額には制限はありませぬ。勿論多いに越したことはないが、十錢二十錢の少額でも構ひませぬ。

一、送金は成るべく振替（又は郵便爲替）にて本社に御拂込みを願ひます。少額の場合は郵便切手（五厘切手に限る）でも差支へありませぬ。

一、御寄附に對しては、受領書を差出すか又は誌上で報告をします。姓名の公表を憚られる場合は匿名、又は其由を御附記を願ひます。

一、寄附は個人でも團體としてでも構ひませぬ。

一、集まつた金額は便宜の爲め、大規模に露國救濟資金や物資の募集をしてゐる外國の確實な機關（例へば米國の勞農露西亞友人會等の如き）に寄贈すること。

一、寄附金の精算と處分に就ては、追つて社外から、信用すべき數名の人を選んで監督を受けてゐます。

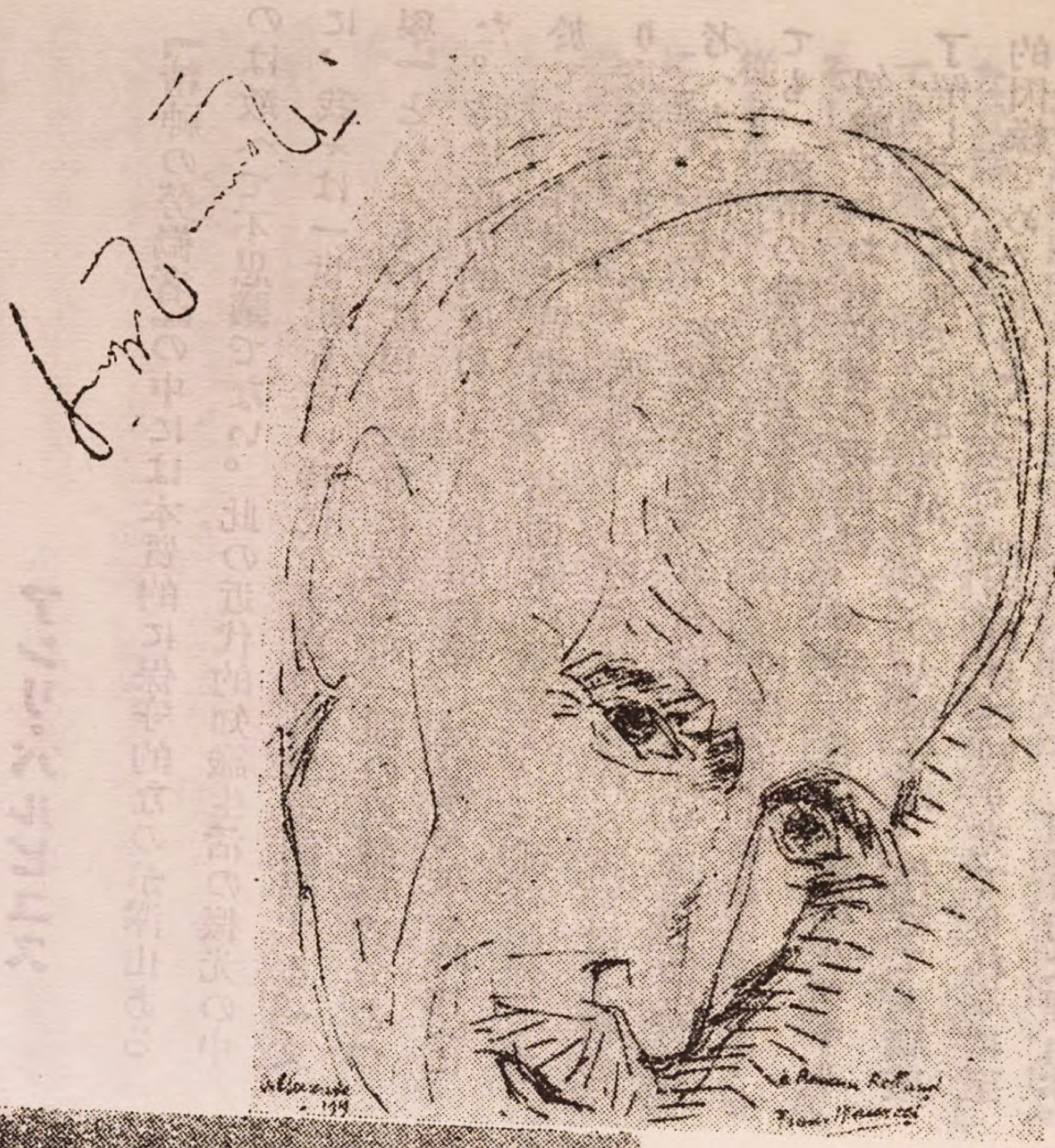
東京 大森新井宿
振替東京五四七七 前衛社

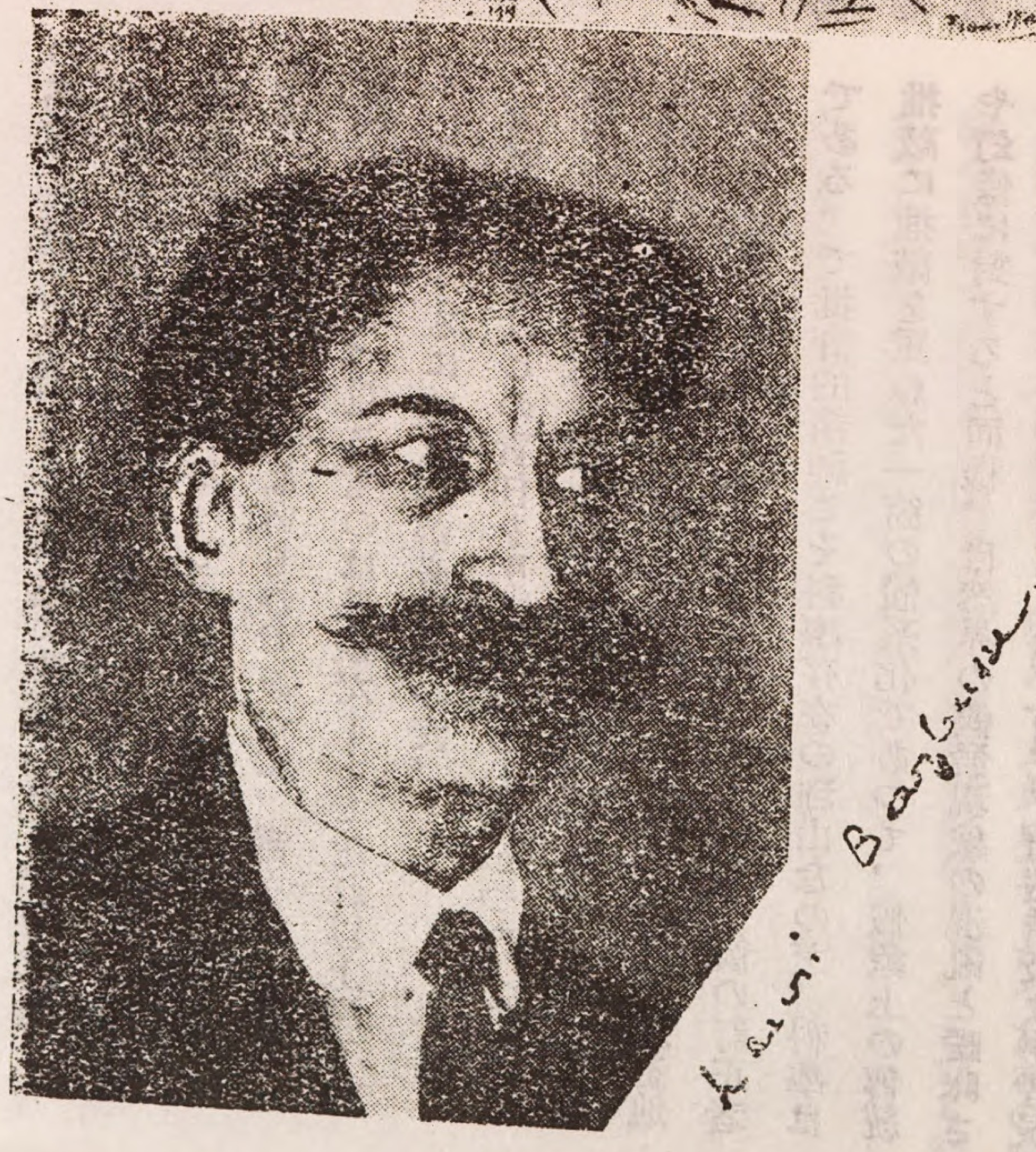
早ければ早い程救はれる。援助したくとも其方法を知り得なかつた[illegible]ち、前衛社の事業を成功させて下さい。種蒔き社で御寄附の取次を喜んでいたします。

東京市外代々木大山一〇四四
振替東京五九三八七 種蒔き社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ロマン・ロオラン對アンリ・バルビユスの論争（五通全譯）





I

アンリ・バルビュス

『精神の勞働者』の中には本質的に保守的なのが澤山あるのは敢へて不思議でない。此の近代的知識生活の微光の中に、我々は一世紀も古い時代の事實の再生を洞察する。『文學』といふものは恒に時好に投じた一種の奴隷形式であつた。特に政治的成功のその極點に達した『偉大なる時代』に於ては、作家、思想家・藝術家の職分は、一種の裝飾であり誇示であつた。彼等は、一般に認められた諸習慣や物の考へ方と同樣、支配の諸形式や神聖化された諸制度に對しても、衆俗の尊信の念を引つけるに役立つた。

勿論このお追從者の役割は、一番有名な作家程ハツキリ了解してゐた所ではあるが、その大部分は、作家てふ職業的因縁でめぐりめぐつて、彼等自身に割り充てられるに至つた。作家達のこの傾向には、他にもつと原始的な理由がある。波瀾重疊たる人生の彫刻家は、殆んど生れつき過去を重ずるものだ。藝術には保主主義に流れんとする本能的傾向がある。何故なれば、現在及び過去の光景は準備濟みであるから、塑造上豐富さを示すもので、從つて未來追求の高遠な悟性の推測よりも、遙に彫塑し易すいからだ。

藝術的生活力のこの自然的傾向から、この議論上屢々見る所の詭辯が生じてくる。この傾向を煽り立てる諸種の理由は、寧ろ見掛にすぎないものであつて、實在的ではないが然し、人が先づ見るものは外觀だ――でそれ以上深く探究しやうとするには意志が必要なのだ。

大概の作家はこの責任を引受け樣としなかつた。我々が云はんとするのは只創作家のことであつて學者のことではない。科學は、その精密な固有の本分上、他の良き道を辿ることを强ひられてゐる。即ち科學は本質上一箇の訂正者である、で批評的精神こそ科學存在の理由なのだ。科學は推敲に推敲を重ねた一箇の體系化であつて、假象上の傳統や幻像に對すると同樣、自然界の偶發現象の混亂と曖昧さに對しても、確固たる規範を示すのだ。知識階級は學者振らんがための僧侶の眞似を已めるに從つて、次第に彼等自身の獨創性を育ててきた――そして彼等は甘んじて破門を受けた――と云つてもいい。併し乍ら大體に於て、知識階級にはあの危險な放れ業は、殆んど趣味にも合はず又彼等の力のよくする所でもなかつたのだ。そして二十世紀最初の二十五年間、佛蘭西の知的中心には、三十九名の最も名

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

譽ある文學的裝飾家達が一團となり、ここに反革新の古典的宣傳の勢揃ひを見たのである。がこんな有りふれた事實は大した邪魔にもならない。右に關して無智と奴隷根性とがどんなに酷いかは、殆んど問題にならない。が只こう云ふ事だけは明かだ、即ち現存諸權力は、丁度俗世間の色々な武器（見苦しい手段であれ高尚な手段であれ）を獨占してきた樣に、種々精神的武器をも獨占するに至つたこと、そして又表現法もその壯嚴な發表を因襲に奉仕せしめ、服從を是認せしむるだしにされた點に於て、大體商業化するに至つたと云ふことだ。現在では少數の非反動的知識階級の間に種々重大な誤解が發生し、そしてこれらの誤解が益々甚しくなる樣な形勢がある。そしてここに正しく我々の當面しなければならない一問題がある。何故なればそれは左の如き人達の態度の問題であるから。即ち彼等こそは正直と眞實の念に動かされて、彼等の非難の矢を、かの今や我々を壞敗より死滅に墜さんとする舊い多樣な制度に放つてきたに係はらず、今日では我が徹底共和主義の敵對者流の外見を呈してゐるから。これらの作家、思想家、藝術家には、多くの朦朧とした弟子どもがゐるのだが、彼等はロマン・ロオランの典據や規範を利用し或は又濫用――私の意見では――してゐるのだ。

と云つて我々は、クラルテの私の同志や私自身が、多くの點で現代の誇たるかの人に對する誹謗の仲間入りをしてゐるのだいふことを、敵に早呑み込みさして嬉ばさせはしない。我々はロマン・ロオランの道德的勇氣や文學的才能について兎や角云ふのでもなければ、或は又、彼只一人、人類の蠻性の上に超越し、彼只一人眞に正しかつたあの時彼の投げつけたあの戰爭反對の叫びの反響を、少しでも貶さうとするものでもない。我々が彼の如き名前を持ち出すといふのは、こうでもしなければ、我々が、今暴露せんとする社會的危險や知識者の誤謬を指摘し得ないからに過ぎない。自分達の先生を何でもかんでも無茶苦茶に崇め奉る『ロオランディスト』の仕業が、主としてこの危險を釀したのだ。

正直で聰明でそして勇敢な人が、自己の理性によつて、狂猛な戰爭の上に超越し、以て最も立派に精神の自由を發輝するのだ。一切の人爲的苦艱、一切の勝手な不幸をしかく容易に惹き起す如き、一種の祟りに對するこの理性と憐愍の情から逆つた攻擊程、世に崇高なものはあるまい。考へ深い人なら、よしそれが一般に行き亘つてをるものとし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

でもあの怖ろしい狂氣染みた有様はどうしても是認出來ない。それは、他の人々が敢へて『理想』などと稱するものと、人類の眞の理想とを肩並べさせるものだ。それは、一切の思想及び人間の心情の匡正てふ仕事を、それ自ら擔つてゐる。そしてそれは、萬人が軋轢衝突をさけて、人類愛の一大平面と、共同生存てふ不拔の目的に到達せしむる道を指示するものだ。

種々な事情によつて『只一人萬人に逆ふて』身を立ててゐる彼は、かの賢しい人達常套の勿體振つた哀哭等は、眼中に置かないのだ。彼にとつては、人間の不運や狂氣等に對する祖先傳來の詩的ではあるが影の薄い色々な祈禱文等はどうでもいいのだ。彼は虚妄と罪惡とを連結する共通の羈絆は、何であるかを啓示するのだ。否彼は、戰爭といふこの頻發するそして益々增加せんとする殺戮は、萬物を意の儘にあやつり、民衆を自分の目的を達する手段として利用する、國際的少數者の、事實上の仕業だとまでも云放つてゐるのだ。

既に出來上つてしまつた事實に對して心の反逆を企て、かくも批難の矢を放つと云ふには何か益する所があるのか？　然りそれはロマン・ロオランが既に云つた樣に精神の『獨立』と思想の權利の急を救ふに役立つのだ。即ちこの世の破滅に際して、過去の偉大な良心の所有者達の遺產であり、加之その一人一人によつて力付けられてきた所の精神的財寶を保存するに役立つのだ。尙又それは、この道德的財寶を增大し、それを民衆の心中に擴大させてゆくものだから一つの積極的行爲だ。虚僞と錯覺に反抗する術を辨へてゐる確つかりした人格を惹きつけるあの崇拜の念は、至純な感激によつて當然その歸依者を倍加するものだ。だがそれだけでいいのか？　斷じていけない。それでは万事依然として同じだ。我々は最早胸中に橫溢するあるやむにやまれぬ氣持をどうする事も出來ない。即ち新しい戰爭を抑止しやうとする氣持、或は少くともその目的に向つて奮闘しやうとする氣持だ。正義と憐愍の上にたつ英雄たちの放つ呪咀が如何に反響を惹き起し、如何に立派なものでも、これらの呪咀が消え去ると共に戰爭は再び勃發するであらう何故なら戰爭の社會的諸因が依然としてあるから。精神を現す言葉といふものは直接生活には何等の効をなさないものだ。相關聯して起る諸種の事件と、例の偉大な抗議者の公然詰問するあの傲岸な否定の間には眞の接觸點がない。單なる道德者流の演ずる役割は否定的だ。彼等は問題が一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

度突發してから舞臺に現れ出る。そして災厄が甚しきを加へ軍隊の殺戮が次から次へと恐ろしさを加へて來る時にたゞ永久にその後に隨いてゆく許りである。世界の貿易關係者たちはこの道德的儀禮を鼻でせゝら笑ひ何等共れに煩はされない。儲ける奴等は依然全世界の富を積み重ねてゆく。外交及び議會——資本家の秘密警察と公然たる憲兵隊——は條約と法律によつてどこまでも利子をしつかりお互ひの間に結び付けやうとしてゐる。

此の高尙な怖るべき無力さは棄てねばならない。それを免がれるためには、我々は社會の虛僞な法律に對する鬪爭には二つの段階即ち破壞的及び建設的段階の必要でありそしてこの双生兒は不分不離の關係にあるてふことを認めねばならない。『人は只その置き換へんとするもののみを破壞す』とオウギュスト・コムトは斷言してゐる。積極的計畫の力を借るに非ずんば、如何に力強い如何に堂々たる批判といへどもそれは浮雲の如きものだ。現存秩序に對して、如何にデモステネスの辯を揮るふとも、もしそれが同時に新秩序を表示するものでないなら、只空々漠々たる一個の愚痴に過ぎなくなる。

茲に知識階級の第二の任務がある。即ち現實のこの社會秩序に反對して一つの理想的秩序、最初は只理論的眞理、精神の一作用に過ぎない理想的秩序を一個の科學——固執的な實證的な且つ應用的な科學——の如くに建設せんとする任務だ。蓋し美しい靈魂の所有者があの人間に對する不公正增大の光景によつて受ける苦惱は、法律の改正者を擇びそして仕事をさせて行くといふことが事實だとしても、彼等は先づ個人的及び集合的生活條件を現實的に檢討し、以てその上に彼等の新觀念の構造を築き上げるからだ。

社會主義的理論家たちは、ある奇體な偶像崇拜から世人が『既成秩序』と稱する勝手な概念を、いはば彼等自身の論據に引き戾したのだ。彼等のこの秩序存在の唯一の理由は『既成』といふその事實であり、そしてそれは物質上道德上共に一切の束縛を與へるものだ。殆んどすべての生產力の奴隸化を神聖視し、地上一切の重大な場所を反目と破壞の巷と化し去る事によつて無限の殺戮を企てる寡頭政治と特權制度は、只その制度自身によつて組織された對立分子によつてのみ人間の理性から放逐されべきものだ。この合理的秩序は諸社會の力であり法である所の個人並に生活そのものの下から生れ出づる。それは生活の全合成機關を通じて革新を促すものだ。それは又、凡ゆる方面に於て專制的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なもの因襲的なもの迷信的なものを破壞して一個の完全な有機體を創造するのだ。何故なれば只完全な有機體にのみ生活の希望を抱けるから。

かくてこれら精神の從僕たちは彼等の先輩たちとは遠く離れてゐる。彼等が、現在その中にあつて我々が抱いてゐる色々な結果を粗雜に論證してゐる著書を讀んだのは、彼等の爲になり同時に重要な事であつた。で彼等は、互に殺戮し合つてゐる人々は何人にまた何事にその眞の敬意を表すべきかそして如何なる忠誠を守らねばならぬかを指摘した。彼等は連帶と平和の大なる目標――只徒に反響として耳に殘つてゐる單なる宣言――と現代の混沌との間に敎理と行動との計畫を楔子とした。彼等はあるところのものとあるべきところのものとの間の間隙を絕えず充塡してきた。この間隙は、大砲や傳說以上に、從來特權と神聖化された兇猛性とを擁護してきたものだ。彼等は現存諸法律の錯雜した喧しい領域内にあつて、全然新しく始め樣とする事業が如何に困難を極めるかに失望するを許さない。そしてこれらの人たちこそ一切の避け得べき公の不幸や一切の避け得べき集合的苦艱に唯一の解決策を提供したものだ。

理想的解決策を提供することとそれを實地應用することとは確に違ふ。凡ゆる場合にそれに着手するといふことが必要なのだ。問題の實質に適應せる改造案にはそれ自身一種の力があつて單にそれを宣傳するだけで行動を移入することになる。蓋し、かの最高權力を有するにも拘らず、自己の不安定と團結力の缺乏のために、從來失敗の苦を嘗めて來た大衆が、一度決心の臍を定めたなら、自分の欲することを爲すであらう。新觀念は單なる駁論ではない。それは事物についての一個の計畫だ。

さて我々はここに悲しむべき同時に驚くべき宣言をしなければならぬ、即ち『ロオランディスト』は論理家や社會改造論者から組織的に超然として『問題の實行的方面』には何等の考慮も拂はないといふ事を。之は『政治』に關係しなければならないすべての人に對する反感からであるのか？それは又卒直な肯定を大膽に表現するに躊躇し、そして「これは眞理だ』と敢へて斷定せんとするあの勇敢さに逡巡するからであるか？或は又それは暴力といふが如き底のある觀念を恐れてゐるからであるか？それとも他の違つた手段で救治の効果をあげ人間性を變革せしめ得るといふ希望からであるか？、此等の理由のどれもこれも薄弱なものであり幼稚なものである。『政治』といふ語をどの一角からで

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も眺めてみよ、然らば何人もそれは實現を意味するといふこと、即ちこの場合實現することが萬事であつて、純粹觀念なるものは依然單に一觀念に止るなら、霧の如くに消滅し去るものだといふ事實に氣付かずにはゐられまい。

社會主義的改造案は精神と良心の欲求に如何なる保證を提供するか？、それはかの共同信條たる恒久的眞理を論理的に適用せんとするに存しないか？ 我々は魔術的錬金術的處方を發見し、或は神秘的に製作し、以つてそれを調合せんとするものではない。理想的再建の全構造は變則からの解放によつて支配される。クラルテの原理が以つて限定し以つて會得する社會革命幾何學の計算には何の誤謬もあり得ない。右の事を宣言するのは、あの著しく局限された實行的方面に於ける應用科學の根本的諸法則の權威ある確實性を宣言する場合、學者たちが『眞理』といふ偉大な言葉を用ひると同樣少しも潛越ではない。

他に解決策があるか？ 斷じてない。均衡のとれた經濟的力學内の一切の個人的努力を一般に調整するの方法は、たんとあるものではない。利己主義者が變じて良き人間となり善を行ひ理想に合致した生活をなすために最早組織とか集合的規律とかが不必要となる樣に人間を個人的に革新してゆくのも一方法であらう。けれども我々はこの奇蹟的解決策の幻像の前に眞面目に立止まるを許さない。危機は正に生ける現代人をどたんばに押へつけてゐるのだ。我々は頑強な内亂によつて汚辱し盡されてゐるのだ。人道は高利貸の手に移り底しれぬ淵に叩き込まれやうとしてゐる。そして我々に暗示するものは、人間といふものは、彼等自身並はずれた例外に外ならない連中の雛型に倣つて一人殘らず變り得るものだから凡ての人々が自分自身で强くなる樣それまで待つてをれとほざくのだ！

『暴力』に就いて云へば、この言葉は極度に賤しめられ醜くされたといつてゐゝ。その結果、我々は、立派な意見の單なる結論にすぎなくそして元來自己のあるべき所にちやんとしてゐねばならない或るものに就いて、無秩序な影像を抱くに至つた。何人も殘忍な血腥い行動を頌揚するものはあるまい――尠くとも科學的知識によつて社會組織を暴力の無秩序から救ひ出さんと決心した人々の中には。理性と正義の規範は――それは今確立せんとする問題だ――もし共通利害を有する人々にして、それを要求し以て維持せんとするならばもうそれだけでも權威を保つてゆけるだらう即ちそれは、もし彼等にして一切を要求し、一切を維持す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

べき唯一手段たる權力を把握するならばといふ意味だ。暴力否むしろ制裁――何故なら犧牲者や被搾取者たちにこの必要缺くべからざる管理權を與へる事であるから――は現在暴力を簒奪してゐるものの手から離して考へれば、それ自身中立的な一要素である。その使用如何を問はない限りは善いとも惡いとも定めることは出來ないものだ。人道主義的なそしてセンチメンタルな觀念の最も極端な人といへども、制裁は共同犯罪者の害を防止するために彼等の頭上に見舞はねばならぬ事を許容するだらう。帝國主義的軍國主義的制度には共同法律に反する犯罪と見做される（時己におそしだが）多くの行爲のある事はこの制度自身から云つて明かだ。於是暴力の目的とする處は武裝解除を惜いて他にない。暴力の介在は、社會革命の一般概念に於ては――我々は言葉を用ひる時には先づその意味をよく考へてゐる――一切の目的に對する單に一つの細目（デタイユ）であり然も一時的細目に過ぎぬのだ。

　私は信ずる、ここに述べてゐる樣な彼等の精神的傾向には、事實上殆んど妥當な所も許し得る所もないといふことを。それは逃避から生れそして『象牙の塔』の傳統的法式を新式に二度の勤めをさせたものだ。精神の從僕たちは、瀰漫せる害惡に對して敵對的示威を試みるを以つて能事畢れりと考へる、で彼等は突入して以てある紛亂を輕減するだけの勞をしば〳〵惜しむ。かくして、一樣に天下に蔓る野蠻性に對して憎惡の念を抱いてゐる民衆間の渦は益々擴大してゆく。今や理想を事實に變へ、事物の秩序を改修せんとする事が問題であり、そして保守派と改革派とが同じ舞臺に並び立つてゐる場合であるから、消極的改革主義者の如きは、事實上舊秩序の保存者にあらずして何ぞやだ。彼等は、命がけで過去にしがみついてゐるグルウプにその一臂の力を借してゐる。彼等は我々に對して澁滯となり、妨害を加へ、ともすれば敵對すらせんとするのだ。彼等の一味は運良くも『進歩的』てふ一般的評判を得てゐる『進歩的』といふのはたゞ彼等の反對するものに就いてのみ云ひ得る特徴的眞理であるのだが。彼等は否が應でも、組織的な『完全に規則的な』鬪爭に參加せんと欲してゐる、但し無政府主義者と共に、即ち支離滅裂な而もその示した英雄的精神によつて有益だといふよりもむしろその個人としての行動の結果によつて有害な諸勢力と共に。どどのつまり彼等は『平和主義』と『自由主義』の間に一種の裝飾的『左翼』を形成するのだが、元來彼等は無用なのだから結局みぢめなも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のだ。

彼等は社會主義といふものを至極簡單に考へてゐる。彼等は只一途に手の着け樣もない頑迷さを以つて、昨日の歷史的挿話を回顧し、社會主義の失敗は明かだと公言する。その理由とするところは一九一四年少數社會主義者の一流（その突發事件に對して全然喰ひ止めの策を施す術も知らなかつた）の示したあの無定見と無氣力にあるといふのだ然し乍ら此の如き判斷は許すべからざる淺見であつて、此の如くしては何人も、數代に亙つた反逆精神の一切の本源一切の概觀、一切の勝利及び一切の失敗が、よつて以つて包括せられ、よつて以つて進歩せんとする社會主義の信念と、戰術の體系とを決するを得まい。現代の靑年はこの二つの傾向の間に大膽なる選擇をなさねばならぬ。今や、建設的な而も精確な努力に據らない罵り合ひは、單に裝飾的な同時に殆んど恥づべき時代となりつゝあるを考へなければならない。

革命的精神あつて、始めて反逆精神の完全を見るのである。人間の思想はそれ自身獨立を保つを要すといふのは實行に就かんがためであつて、單に獨立せんがためではない『ロオランディスト』は思想家としての義務の第一の部分だけを果したに過ぎない。道德家の非難攻擊は今度は非常に深刻であるから、實行への道をどうしても拓り開かないでは置かぬだらう。今後彼等の弟子たちがその道を踏み固めるであらう。（「ロオランディスム」に就いて と題しクラルテ誌第二號所載）

II

ロマン・ロオラン

一九二一年十二月巴里に於て

親愛なるバルビユス君

君の論文「ロオランディスムに就いて」を拜見しました私は此論文に於て、君が私に示された個人的同情と、此論爭に於ける君の節度ある高尙なる態度とに感謝します。私は、私達が政治、社會、道德或は智識の上の反動的諸勢力に面して、恒に相共に立たんが爲に、今後例へ如何なる事があらうとも決して、この態度を離れざる事を希望しますそして彼等反動主義者が壓迫すればするほど私達は更に益々團結を强くしてゆきたいと思ひます。

私は、今日詳しく君に御答へする考はありません。私の餘裕のない時間では、論文の範圍が廣過ぎて充分に御答へする事が出來ないのです。私は寧ろ暇な時、私の思想や信

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

念を概括的に述べる際に、それを爲しませう。私が今まで默して居たのは、一面に於て、君自身が君の努力に反するなからん事を希ふてゐた事實に基いて居るので、そして亦君は私が仲に立つてゐることが海外の指導者達の中に、雜誌クラルテの賛成者を出した事に與つて力なしとは云へないと云ふ事を、よく承知して居る筈です。然るに今君の『ロオランディズム』に對する慇懃なる攻擊は、私をして明確な態度に出るを止むなからしめたのであります。恐らく此の結果は今日まで曾つて存しなかつた『ロオランディズム』を將來に於て創造するでせう。私は私自身の使命の爲に、そして私は個人的發議や自由に對する試練を薄弱に導く全ゆるものを嫌惡するが故に、如斯結果を遺憾に思ひます。要するに私が以下簡單に答ふる事は『ロオランディズム』のためではなく、ロマン・ロオラン自身の爲の辯としてであるのです。

親愛なるバルビュス君、君は私が智識運動に於て、君等の團體と結ぶのを拒ばまうとする事を驚いて居られます。實際私はクラルテ發刊の當初から、其創立者達と意見が一致しない事を感じて居つたのです。併し、私は輕卒に判斷する事を欲しませんでしたので、自ら默して注意深く待つと云ふ態度を採つて居たのです。

君が私の差し扣へた事をもつてあの餘りに有名過ぎる象牙の塔への逃避であり『一の超脫』であると解された事に對して、私の遺憾を表明する事を許して戴きたい。私を知つて居る人は誰でも、私の本を一冊でも讀んだ人は誰でも其態度が果して『超脫』の人の其れであるか、或は反對に、世界苦に搔きむしられて、其苦しみを減じ和らがせやうと斷えず戰つて居る人の其れであるかを答へるでせう。私の思想を誰が何と云はふとも私には信念を否定することは困難です。私の此の信念が、私の靑年時代から斷えず、私を試練に堪らえさせ、深淵から私を引き上げなかつたならば私の運命であつた此の慘ましい道德生活の一日をさえ、生き殘つて行く事は出來なかつたに違ひないのです。君の友達の一人は、私を感傷的な、さうです!『感傷的な神秘主義者』と云つた。一の思想を形成する種々なる諸要素の平衡を說明するまでもなく私にとつては、單に快いものであるに過ぎない此の不平的代名詞は、『審美的題脫』と云ふ非難よりは遙かに眞に近いものであります。併し君の友達は今日の世界に宗敎の力(此の語の最も自由な意味に於て)は役に立たないと云ふ謬想に囚はれて居るのです。如何に互

大な地下の民が、現代人の心の中に累積せられてゐるか、そして又現代人の心理が如何に強大な力の下に動いて居るかは、殆んど念頭に置かれて居ないのです（さうです、君等の仲間では少しも念頭に於かれてゐないのです。）君等の注意は、餘りにしば／＼社會の表相に拘泥して、生活を極度に合理化せんと企て過ぎます。そして君に從へは、ユウクリツトの幾何學の問題を以つて、人類進化の謎を解かうとするのが、クラルテ運動の傾向である樣に思はれます。

私が君の論文で『クラルテの一般原理が以つて限定し以つて會得する、此の社會革命幾何學の計算には、何の誤謬もあり得ない』と云ふ句を讀んだ時、親しい微笑を洩らした事を許して戴きたい。これは又人間の――半意識的勢力の涸れざる泉であり、世界の光の原始的勢力である人間の――何といふ抽象的觀念であらう！ 君は、帝王より以上の忠君愛國主義者であり、君が君自身と比較して居る『根本的諸法則の確實性』を實際毫も是認して居ない今日の學者達より以上の合理論者である！ 併し乍ら親愛なるバルビユス君、私はといふに、私は君の『社會幾何學』の法則の『確實性』を信じもしないし、又其擁護に參加しやうともしない。

其理由は第一に理論上（併し社會的政治的事件に對する理論は何であるか？ 實現が其全てである！）理論上、共產主義、新マルクス主義の學說は、私には、（其が現在示して居る絕對的形式の下に於ては）實際眞の人類の進化に一致すると思はれないからです。（此問題は此所に展開するには大きすぎるから、後に御答へする事にします）第二に、實際の事實として、露西亞に於ける共產主義の適用に於ては悲しむ可き慘忍なる誤謬に夢中になつて居る（之に對する最も重い責任は、歐米の聯合ブルジョア諸政府の罪過が負ふ可きである）からです。そして此の共產主義の施行に際して、新組織の指導者達は、餘りにしば／＼重大な機會に最高の道德的價値、即ち人道、自由、そして、一切の最も高貴なる眞理を犧牲にしたからです。

私達は此問題を後に話さう。此の問題に就いて此所に論じるならば、私は餘りに多くのことを云はなければならないだらう。過去二年間、私は此の反駁的質問に對して、默して居ました。露西亞に於ける革命の指導者達の大多數のものにとつては、他の歐洲諸國に於けると等しく、全ゆるものが『國家意志』に服從せられて來た事は、不幸にして

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

餘りに確か過ぎる事なのです。私は一の『國家意志』の利益の爲に、他の國家と鬪はふとはしない。さうして、私にとつては軍國主義、警察の恐怖政策、及び暴力は、其が金力政治の機關である代りに、共產黨獨裁政治の機關となつたからと云ふ理由で、神聖視されはしないのです。

私は、君が『暴力の干涉は一時的の事に過ぎない』と云はれるのを悲しむ。何故ならば、私は國防大臣やブルジョアジーは容易に同樣な公式に當てはめられると信ずるからです。其は兩方の場合共に、根本的な誤りです。如斯要求が眞實な或る機會を得やうとする爲には、人間性といふものが、白墨で書いては海綿で消し去る事の出來る黑板の樣な tabula rasa の種類である事が、必要である。併し、生命ある組織體は、如何に微少なる印象でも印するところの、極度の感覺的物體より成立しさうして暴力は其處に抹殺する事の出來ない痕跡を殘します。且又こう云ふ事を記憶して戴きたい。全ての諸國に於て實際革命軍の中に、私達は再び『正義と自由の爲』の戰に爭鬪したところの、多くの舊時代の諸人物を發見して居ると云ふ事を。さうして私達はなんにも後悔して居ない彼等を見出す。なる程貼札は變つて居る。然し、其が更に又變化を蒙らないと云ふ事を證左するものは、何物もない。併も、人心の傾向は、以前よりも今日の方がより以上動搖してゐる。何故なれば、暴力の新慣習が、舊慣習の上に積み累ねられて、將來更に暴力が强められるの、如何ともし難い傾向が與へられて居るから。

私が『クレランボオ』の中で、『目的が手段を正當化すると云ふ事は眞實ではない。手段は眞の人類進化にとつて目的より尙遙かに重要である。』（そして私は以前よりもツと强く此意見を主張して居る。）と書いたのは、此の精神に基づくのです。

目的（達せられる事は極く稀れで、そして又達せられても恒に不完全にである）は人間相互間の外面的關係しか變じないのであるが、手段は之に反して正義のリズムに從ふか、或は暴力のリズムに從ふかに依つて、人間の精神を匡正する。さうして後者のリズムに從ふならば、如何なる形式の政府も、强者に依る弱者の壓制を防ぐ事は出來ない。

私が道德的價値を擁護する事を、そして恐らくは平時よりも尙一層革命の時に其を擁護する事を、緊要なことであると考ふる所以は玆に在ります。何故なれば、革命は感動の時代であつて民衆の精神が最も變化し易い時代であるからです。

亦私は、君が共產主義の問題に貢獻し得る最大の任務は主義を擁護する事ではなく、其に眞の忌憚なき批判をなすにあると、堅く信じてゐる。此共產黨に於て、自ら充分に判斷する唯一の人は、レーニン其人である。併し乍ら、此の頑健な主宰者は自分の正理主義とクレムリンの鐵壁に依つて、自分自身を制限してゐる——私は、彼が彼自身の力に依つて制限されて居ると云ふのです。彼の周圍に、私は法律の草案者以外の何人をも見ない。

共產主義者よ、自由人であれ！ 斷えず君の事業を匡正する事に努めよ。さうして其の誤謬を思ひ切つて君自身の前にさらけ出して、其濫用と戰へ！

私が一の黨の中に眞理に對する熱情、從つて自由批判に對する必然的尊敬を認め得ない限りは、又私が其處に全ゆる犧牲を拂ひ全ゆる手段に依つて征服せんとする意志と、又運動の利益と正義絶對善の要求のとの單なる混同としか見出し得ない限りは、一言にして云へば、革命信者の精神が嚴密に政治の範圍を出でずして、『無政府』や『センチメンタリズム』の名の下に、自由なる良心の擁護を輕んずる間は。さう！ 其間は、私は此の討論の係爭問題に就いては何等の幻影をも追はず、冷やかなる態度を採つて行く。差し扣えて居る事は靜止して居る事を意味しない。各人には各人の仕事がある！ 君が最も直近な危險に君自身を振り向けやうと求めて居るとき（さうして私は君の行動を稱讚する）私は世界の現在の大動亂が、人類發達の途上に於ける、長い危機の第一步であり。民衆が今まで受けて來たよりも遙か以上の襲擊を受けるであらうところの大擾亂期の、第一步であるに過ぎないと感じてゐるものです。私達は私達が目を瞑つた後の鐵鎖時代に對しても、尙自身を武裝しますが其未來にも少くとも、私達の精神の或る小部分が生き殘こる事と私は確く信じます。

私は、私達の後から來る人々に、君の信條——其を豫想する事を許して戴きたい——君の共產主義の信條が將來其事業を完ふして、不正な戰の中に妥協したり不幸にも餘りに排他的な凡ゆる政治上の勝利の後に起るところの冷淡さに惑はされたりして遂ひに暗闇の中に葬り去られた時よく彼等を助けて暴風雨に堪へさせる處のあの理性と愛と信仰の力を累積し集中する事を求めるのであります。

私を誤解しないで下さい。我が親愛なるバルビュス君、私は、君の勇氣、君の熱情、そして君の勇武なる忠誠を稱讚します。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私達の活動の二つの潮は相反しては居ないのです。私達は相共に同じ革命の潮尙更に人類革命の潮、永遠の更新の潮に導かれて居るのです。私達は相共に黎明を望み、相共に過去の道徳的羈絆と人類の行進を妨ぐる全ゆる障碍を打ち砕く事を求めます。併し私は其の羈絆に代ふるに尙烈しい新しき羈絆の來ろ事を欲しません。

過去の壓制と戰ふ君及革命主義者等と共に未來の壓制と鬪ふ未來の被壓制者と共に、シルレルの『壓制に抗して』といふ言葉こそ永遠に私の言葉であります。(自由藝術一月號所載)

III

アンリ・バルビユス

親愛なるロマン・ロオラン君

『ロオランディスム』に就いて『クラルテ』誌上に掲載した私の一文への答へとして、發表された君の公開狀を、私は『自由藝術』で拜見しました。今少し完全な答へを期待して私はこの公開狀の要點を、以下數箇所指摘して見たいと思ひます。

私は『クラルテ』の一文に於て、君の思想の淺薄な追隨者達が、世人に與へた一の變形——と私は思つてゐる——を告發する積りだつたのです。然るに私は、この告發狀のうちの或る部分を、君がはつきり君自身のことゝしてとられたのを見て、驚き且つ愁しむものです。『君達の仲間では少しも念頭に於かれてゐない』と、君はいつもの君に似ず、雅量のないことを書いてゐる。が兎に角君が君の思想を、保守的なブルヂヨワジが、自分の思想を實際に脅かされるところの思想に對して爲す、あの陳腐な斷定と、かくも相似たところへ持つて行かうなどゝは『少しも念頭に置いてゐなかつた』のです。世人の餘りに多くは、吾々——私は眞近かな私の友人達及び私自身に就いて云ふのです——に希望を持つて與れてゐます。從つて吾々は彼等に面と向ふとき、或る重大な責任を感じないではゐられません。彼等に辯明すべきことがあるのを思はずにはゐられません。彼等あるが故に、吾々は、吾々の思想及び行動の理想の上へこのやうなとんでもない議論が落下して來るのを、そのまゝ等閑にしてをく譯にはゆかないのです。そこで吾々は答へやうとするのです。そして今日君を俄辯護士たらしめた辯論の全て、現實的な、實際的な、生長的な解決の上では確かに人類の不幸を招來するに過ぎない空無であるところ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に『ローランディズム』に與へた私の根本的非難に對しては君が一語も答へられるところのなかつた――と云ふことを許して戴きたい――辯論の全てを、根底から攻撃しやうとするのです。

君は吾々が、帝國主義及び資本主義の學說を――人類の事項を取り扱ふ上に於て、それに取つて代るべく適合した一學說を、明確に駁論したといふかどで、吾々を非難される。即ち君が、『一の暴虐に代へるに他の暴虐を以てする』ことを吾々が主張してゐるかの如く、途法もない批評をされるのは、實際、根本的に、この學說が所以をなしてゐるのです。よし然らば、君の輕蔑を買つたこの簡潔主義を以て、吾々の主義であるとして置かう。吾々は實際、事物の一狀態に代へるに他の狀態を以てし、又、一の組織に代へるに他の組織を以てすることを、ほんとに尊重してゐるのです。何故といふに、社會の人爲的創痕を消滅させるには、この外に方法がないからです。そして、『暴虐』を倒さうとするならば、これに代へるに、少くともその暴虐が塞いでゐた社會的目標の一部を補ふ何物かを以てし、そしてその暴虐が負擔してゐたところの全體的管理の必須なるものを負擔せしめねばならないのは、實に明白なことです。

云ふまでもなく、全てが『言葉』によつて自ら整頓されるならば、そして人類が魔法使ひの杖によつて、徐々に調和と聰明とを以て變形し、開化してゆくならば、それは洵に望ましいことです。然しながら、恐らく人類の生活力の存續するよりも以上に、遙かに長くかゝるであらうところの自然的變化を待つ間に、先づ吾々は動かねばなりません。そして法則に代へるに法則を以てしなければなりません。この短縮された正理と合理の道こそ、プロレタリアの向ふべき道であると、吾々は解してゐるのです。

私は、『共產主義』が完全無缺なものであるとは、一度も言つたことがない。然しながら私は、君がこの共產主義なるものを變挺に見損ひして表面的な概念を作り上げ、それによつて私を奇襲してゐるやうに思はれるのです。『共產主義』は、一個の人間の腦髓細胞から割り出された、空想的所產の支配方法ではない。共產主義は何人の發明でもないのです。カール・マルクスすらも、これを發明したのではありません。それは、無智なる暴力によつて、歷史的進化の第一歩に設定された事物の不思議な狀態に對して、憤激した世界の反抗の飛躍と閃きとによつて、徐ろに下彫りされ匡正された、長い遲々たる勞作の所產なのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人をして共産主義の觀念を得させるが良い、それが何によつて作られてあるかを眺めさせるが良い。さすれば人はそれが最も合理的な組立であり、そして反對論者の聲明する――第一に君の聲明する――あらゆる論證の中から、最も良く作られてあることが分るでせう。それは、極度にまで、人間の平等といふ意味に於ける生きた確限にまで、また、世界主義の意味に於ての極限にまで、押し擴められた共和觀念です。それは、これ以外の別のものではない。そしてこの全體的共和主義の概括を釋明するためには、またその原則が社會的に確實性を包含してゐることを云ふためには、たとへ君から『親しい微笑』を洩らされても、敢へて專門家や技術家を俟つの要はないのです。

そして亦私は、法則若くは應用科學の强固さに就いて私の云つた主張を、飽くまで固守します。若し玆に或る混淆があるとしても、それは私の所屬ではない。脆弱で且つ投機的なのは形而上學的な假定であつて――それは實驗科學が餘り追及するところなく許容してゐるのです――實驗科學が現象間へ結合させる確固たる關係は、脆弱でもなく、投機的でもないのです。空間とか、時間とか、物質とか云ふが如き、自然界の本質に乘ずる理論がどうあらうとも、物理的、或ひは化學的法則の實在性は、それによつて少しも毀されることがないのです。私はこれ以外のことを云つたのではない。私はそれを斷言すると共に、社會學と他の應用科學との一致の關係に就いて私の持つてゐる觀念をも確信するものです。

君は、君が人間の苦痛から『超脱』してゐることを、君の全作品が反證して吳れると斷言してゐます。勿論私もそれを信じます。私は、君がそれを信じ得る程度に於て、亦、君がそれを宣言し得る程度に於て、それを信じます。そして私から出た文章のうちの何處かゞ、私の考へを裏切つて人類に對する君の深刻な振動的な測隱の念を、私が疑ぐつてゐるかのやうに、君に思はせたことを悲しむものです。私が超脫といふ言葉を使つたとしても、それは、實證的な直接な實現の中へ參加しやうとはせず、精神的勞働を批評と抗辯とに限界して了ふことは、餘りに早く自分の立派な役目を停止することであり、再生の悲慘の解決から脫れるものであるといふことを、單に云ひたかつたゞけなのです。

勿論吾々は、或る種の粗忽な共產主義者達の態度に就いて、如何になすべきかを知つてゐます。然し、局部的な、

又ほんの一時的な怠墮者や謬妄者等によつて・主義そのものが毒されることはないのです。それなればこそ・現代の人全てが・先づ第一に、この主義の如何なるものであるかを識らねばならないのです。一つの事實が、全てを制御します――一つの國が、人類の安穩に關する無垢の原理を壓服する法則から、脫れやうと試みたことです。露西亞人は今、詰め手に會つてゐるのです。彼等は帝國主義者の勢力に攻められてゐる上、尙ほ又・當然彼等の支持者として彼等が期待し得た筈の人々から、或ひは冷淡な態度を採られ、或ひは彼等に背を向けられてゐるからです。物事は明瞭に云はれ且つ確實にされねばなりません。

君が、或る種の責任觀念から、ブルヂョワ政府にのみ、大罪を被せることに贊成しやうとしても、それは駄目です現に、古い壓迫――それは尙ほ他の幾多の國に附着してゐる――から外へ出た一つの國の血みどろな離脫は、君にたゞ、『暴力』といふ言葉の變化と・そして畢竟ブルヂョワやア・ナルキストの批評の姉妹である批評の感興とだけしか、與へてゐないではありませんか。(クラルテ第六號所載)

IV

ロマン・ロオラン

君の前文は善く讀みましたが、あの回答で君が聊か横道に入られたのを遺憾に思ひます。相一致しない對手をブウルジョアとして仕舞ふのは便利な態度ではあるが餘りに演説屋式です。(註一)吾々は今プロレタリア的熱狂の糸を顫はせようと努めてはゐません。(それは國民的熱狂より善いものとは言へない!)バルビュス君・吾々はブウルジョアであるかないか、相對峙してゐます。吾々は自分の仕事に依つてのみその存在を決定せらるべき二人の勞働者であり互に辛苦して吾々の自由を購ひ・共に眞理を求める二人の自由人です。それ以上の何者でもなく、それ以下の何者でもありません。

君と同じ考を持たない者は、革命にあづからないと裁決すべき・如何なる權利を君はお持ちですか。革命は一黨の財產ではありません。革命は、より幸福なより善い人類を望む全ての人の家です。革命は故にまた私の物である。只私は、「ブウルジョア」とか共產主義者とかゞ、相競つて吾

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

々に强ひることを欲する樣な、さう言ふ黨派の空氣の中に生活することが出來ない。これが何故私が窓を開けるかといふ理由です。私でも、若し必要だつたら、呼吸せんが爲めに硝子を壞す位の用意はある。――何故なら吾々は革命の中に居て、自由な人間でありたいといふ意向（外觀は途方もない考）を持つて居る者だからです。

　私は第一の書翰の樣に、單に私一個のために物を言つてゐるのではない。あれ以來、行はれた論爭に於て、君の友人達は、君と同じ樣に、私の立場とロオランディスムの立場とを引き離しました。ロオランには、「ロオランディスム」は許されてゐる。「ロオランディスム」には、それは許されてゐない。――私はこんな特權を認めない。先づ「ロオランディスト」が、過去に於て蒙つた試練に因つて、私と一致したにしても、他に尙同樣の試練を受けた人があり戰爭中に戰爭に對して戰ひ、世界的な目的のためにその未來を危くした人があり、未だにその結果を重く荷なつてゐる人があることを、人々は餘りに忘れてゐる。――然しこゝでは特權が問題になつてゐるのではない。こゝで問題になつてゐるのは、萬人に屬する權利、即ち自由を完全に守るといふ權利です。

思想家にとつては、この權利は單なる權利ではなく、一個の義務です。何故なら、自ら黨派に入つて人に讓らうとする樣な思想に、如何なる價値がありますか。黨の思想、觀念の思想、族籍の思想――全ての壓制の機關！噫！吾々はそれを知つてゐる、幾世紀の間人間精神は束縛の紐を拔き取らうと努めて來た。神學と王權の古いソルボンヌの紐敎會を離れた共和的な近世大學の紐、古代制度若しくは革命の紐、靑い紐、白い紐、赤い紐――これら一つ一つ落ちて行つた紐に對して、常に紐がある。そして第一の義務、それはその紐のどれをも受けないことである。

（註一）現在の政策に從つて、無政府主義者の名をここに結びつけて見ます――すると全く、「無政府主義者」の中にもブルジョアは居ます。然し、親愛なバルビュス君、ブウルジョアは到る所に居る私は、共産黨の中にもゐるのを知つてゐる。私は共産主義者を「ブウルジョア」とかこつけて名づけようとは思はない。

　バルビュス君、君は民衆を現在の悲慘及び一層苦しい威嚇的な未來の悲慘から救ふために、全てを投げ出して行動しようと言ふ、寬い望みを持つてをられる。私は君のその飛躍を愛します。私が君の飛躍を銷沈せしめない樣に、君

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は私を守つてゐる。

然し私は、も一つ他の望みを持つてゐます。即ち現實を在るが儘に見たい、決して自分が欲する樣に見たくない、と言ふ望みです。立派な論理的な計畫は紙の上では立派ですけれども私はこの計畫がその人々のために作られた人々を求めてゐるのです。バルビユス君——（君及び少數の人を除いて）——私はその人々を見出さなかつた。佛蘭西にあつては、領袖連が示す光景は、君も承認するでせうが、餘りに無氣力である。また底の方の民衆の中では、最大多數の無感覺な大きな利己主義の中にある、粗暴なさいなまれた力——建設するためといふよりも、破壞し或は破壞されるために、作られた力を見たゞけです。「世界を變更しようと思へば、只欲するだけで十分だ。」と繰返しつゝ幻影を形造る樣な才能を私は持たない。何故なら、世界は自ら欲しない事を、私は正當に知つてゐるから。世界は——わが西洋——は傷ついた大きな野獸です。彼はその傷と流れて止まぬ血とを舐めてゐる。彼が失つた精力を回復するのは新たな傷に依つてゞあるか？　私は彼がその血の殘りをも出し盡してしまひはしないかを恐れる。確に私は、大きな革命の叙事詩的な威力を知つてゐるが故に、痙攣のために倒れんとしてゐる、消耗した國民のための、最後の絕望的な療藥が、革命の中にあるとは思はない。これは今日の革命的な最も勝れた人々の犯してゐる、重大な心理的誤謬と私は信ずる。一の革命が、勝利を得るためには、精力の廣大な貯藏と、强壯な健康の充滿した倉庫と、一人種の喜ばしい希望とを要する。これらを私は、腹を抉られた狼群が荒廢の原野を血塗れになつてさ迷つてゐる——（二つ三つは死にかゝつてゐる）——が如き歐羅巴國民に俟つ事が出來ないのです。

君は私の悲觀說(ペシミスム)を非難するでせう。——然し、先づ第一に、吾が友ギユスタアヴ・デユパンが言つた樣に、瞬きせずして現實を見る悲觀說よりも以上に惡い何物かゞありますそれは眞の苦しみと、熱い涙とを蔽ひ隱す樂觀說(オプテイミスム)である。（革命的な友よ、誰と名指しはしないが、君が頑固な確信を以て片意地になる時、私は君の眼に涙を見たのだ！）

然し否、バルビユス君、私は悲觀論者(ペシミスト)ではない。何となれば、私は自分の希望に、現在の或は近き未來の狹い限界を付しては居ないから。私は最も廣い空間を抱くことに、歷史に依つて慣らされてゐる。そして、巴里は一日で建てられたのでないことを知つて居り、人類の合一は一世紀で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

出來るものでないことを知つてゐる。私は人類の合一を信じないのではない。通りすがりの失敗が私を動揺させることの出來ない限り、それを更に一層信ずる。そして、一度も絶望の日を知らずに、吾々の思想の君臨を準備するために絶えず働いてゐるのです。

私が提出した行動に就いて、君が疑問として待つてゐられるのは、次の點であります。

吾々の共通の敵は、バルビュス君、現在ある樣な、人類社會の壓制的暴力です。然し、この暴力に對して、君は別の暴力を武器とせられる。私の考では（私は既に言つたから、再び繰返しません）この方法は相互破壞を導く計りです。戰爭中の獨逸人や佛蘭西人の樣に、若し君が敵に對して、敵に習つて行動されるなら、社會的戰爭の終結には、何か別のヴェルサィユ條約の如きものが、即ち文書に依る勝利が生ずるでせう。けれども其は事實、全ての破滅となるでせう。――が、まあ私が間違つてゐるとしませう。然し何れにしても、私には用ひたいと思ふ他の武器があります。

第一の武器は――これは私はあまり主張しない。何故ならそれは智識階級に特殊たものであるか、或は、でなければならないものであるから。――（然し吾々は君も私も智識階級です。そして他人の義務を考へる前に、自分の職分を完成することから初めなくてはならない。）――第一の武器は、眞理に對する精神の勇敢な戰ひであり、縛られた理性の全力である――それは、民主的管理同盟（Union of Democratic Control）の勇敢な友の樣に、權力の法令を見て、之を管理し批判するに役立ち、更にヴォルテエル及び百科全書派（エンシクロペヂスト）に依つて辛辣にされた皮肉、鋭利な批評の樣に惡弊を嘲笑し、痛罵し、撲滅するに役立つのである。而もヴォルテエル及び百科全書派は、バスティユを占領した一握の思慮無き者よりも、王權の失墜には遙かに力があつた。

然し、遙かに強力な、萬人に適した、貧しい者にも優れた者にも適した、今一つの武器があります。この武器は他國民にあつては既にその有效を證明した。佛蘭西で誰もこれを話さないのは驚くべきです。これはアングロサクソン人にあつては、數千の「良心に從へる反抗者」（Conscientious Objectors）が用ひた武器であり、これを以てマハトマ・ガンディが現に印度に於ける英帝國の支配を顚覆しようと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

してゐる武器であります。即ち非承認(ノンアクセプタシオン)です。私は無抵抗(ノンレヂスタンス)とは言はない。何故なら、これは最高の抵抗です。――間違つては不可ない罪悪的國家に對する承認と協力を拒絶することは、現代の一人に依つて成就され得る最も英雄的な行動です。彼には――四壁の中で、冷やかに彼を虐待することの出來る尨大な國家に、只獨りで對峙してゐる、彼一個人には精力と、死に面した時などゝ比較にならぬ程大きな犠牲の精神と、彼の苦惱の息と汗とを群集のそれに混らせてゐることが必要である。かう言ふ精神的な力は、只人間の心に――個人的に各人の心に――良心の災と、神性の半ば神秘的な感じとが、叫び醒まされた人にのみ、存在し得る。而もこの神性は誰の精神にもあり、歴史の決定的な時機に當つて、多くの大民族も星の高きにまで昇らせたものである。

然し、「君達の仲間で少しも念頭に置かれてゐない」のは、即ちこの點なのです。この言葉は、君の方の誰かゞ、吾々の内心の信念を話す時に取られた尊敬の缺乏が、吾々に――私自身に　また私の仲間の人達に――感じ易いものではなかつたらうかと、自ら顧られずに、君を跳び上らせた言葉を、ある悪戯氣を以て（勿論親しい悪戯氣で）再び取り上げて見たのです。

團體的威力（その恐しい牽引力を、誰人にも劣らず、私は知つてゐるが）に餘りに囚はれた結果、君は、孤獨な、宗教的に孤獨な裡の個人的良心に、それ程の價を付けられないでせう。――世界の起重機である良心に。この事を最も生き々々と感じてゐる一人は、君達にあつて、あの氣の毒なレイモン・ルフエエブルです。君の友であり、また私の友である彼は、革命の英雄の神秘を打ち建てんとした。――けれども、これも亦一日で出來る仕事ではない總ての深刻な人類の變革の、二個の大なる因子は、――先づ（この點で吾々は一致するでせう）自らに依つて成就せられた、この變革の英雄的標本である所の犠牲であり、――第二に苦痛と流血とを以て幾時代かを建造した、佐官の頭領である時であります。羅馬のこれ以上破壊し得ない程の荒廢の上へ、新しい基督教の世界を創り出すためには、如何に多くの犠牲の時代を――少數は赫々たる犠牲であるが、大多數は闇に葬られた犠牲である――要した事であらう！　君は、人類勞働者の友愛的一致を打ち建てるべき革命が、成就せられるには、より少い時間で十分だと信ずるために、これほど重大ではないと考へますか。……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

親しき友人諸君、年齢の上から私を君達の兄だとしないで下さい。そして、來るべき實現に對して君達よりも信じ方が少いとしないで下さい。何れにしても、到着を速めるためには一日でも損してはならないと言ふ義務を、君達は私ほど信じて居られない。否、私が自分の仲間に勸告した態度は、決して超脱とか放棄とかの態度ではない。私は全く反對にかう言ふ。「斷じて眠るな！ 斷じに妥協するな、斷じて不正と虚僞とに組するな。新しい神に席を與へるために、汝の舊い神を一つ宛取り去れ！——（人類は恐らくその最後ではないだらう。）敢てせよ！ 汝を犧牲とせよ！ 而してその犧牲の何れかになれ、汝の努力は失はれる事はないであらう。汝は幾世紀かのために働くのだ。目的を達し得ない事を歎くな。汝の生命の長さよりも遙か無限に長い仕事に參加することを喜べ。これこそ、生きながらにして、不滅を味ふ方法なのだ。」

バルビュス君 私は君がかう言ふのを聞いた。「此の間、佛蘭西は死に、歐洲は脅かされてゐる。」さらばこれ等を守り給へ、「歐洲は息づいてゐる、正義は成された」と言ふ許し難いネメシスをも私は聞いたが……然し、最後まで人間は運命と戰はねばならない。」さらば、バルビュス君、戰ひ給へ！ 吾々も君と共に、自由な人間として、吾々が正義とする者に味方し、不正とする者に對して、戰ふでせう。吾々は君の信仰を尊敬し、君の勇氣を嘆賞する。然し、君が信ずる總てを信ぜよと强ひ、君が爲す總てを爲せと强ひることはしないで與れ給へ！ 同じ義務を持つた全ての人間を、唯一の立場の枠の中に强制するのは、啻に堪へ難い要求である許りでなく、重大な政治的誤謬である。

そして、結局歐洲とその未來を守る最上の方法の一つは矢張り、自分の職分を盡すと言ふことです。若し全體が戰つたら、誰が納屋を充しますか？ そして、若し學者や藝術家がその探究を續けず、その眞理若しくは美の理想を、新しい社會的信條のために少しも犧牲にせず——またその信條が存在してゐることを思ひ出しもしなかつたら、君の革命から生れ出た世界に何程の價値がありますか。といふのは、バルビュス君、その信仰、その悲哀、その一時的勝利を持つた、一日の人類の上に、何物かゞ存在する。それは即ち永遠の人類であります。

わが同僚の作家諸君、私は君達に賴る、——君達に、特に、誰が思想の前衞を進行せんと欲しますか。

藝術家、學者、思想家の現在の義務は、一九一四年に、「正義」の軍隊に投じた樣に、一九二二年に於て「革命」の軍隊に投ずることだと、信じますか。或は、人類の目的に且つ革命にも奉仕する最上の方法は、君の自由な思想の完全性を守る事だとは、思はれませんか。若し革命が、この自由の力强い要求を持たなかつたら、それは革命自ら革命に反抗することではありませんか。何故なら、若し革命がこの要求を持たなかつたら、革命は最早革新の泉とはならないでせう。却つて革命は、百面の怪物即はち反動の新しい形態となるでせう。

追記――バルビュズ君、君の「社會幾何學」に就いて、二個の批評をなします。君は私の微笑に焦立つてをられます。あれは何の惡意もありませんでした。君の樣な偉大な藝術家は、あらゆる公式の狹少を越へてをられることを、私は十分知つてゐます。私は、君が用ひてをられた公式の危險に對して、君の注意を喚ばうと思つてゐました。而も君の新しい說明も、危險を遠ざけるのに十分でありません。

君が言はれた樣に、「脆弱で投機的なものは、實驗科學が認める形而上學的な假設であつて、科學が現象間に結合させる、確固たる關係ではない」と言ふのは完全に眞理です。

全く吾々は、感覺の力で、只現象と呼んでゐる關係しか知りません。何故なら、比較の根底である一定の單位に對する關係に依つてのみ、判斷するのですから。そしてこの單位の選定が、如何なる尺度の觀察に立つてゐるかを示すのです。斯の如く科學は事實しか知りません。そして「與へられた尺度の」この知識が眞理です。

然し君は法則の上へ科學的事實の眞理を持つて來て、兩者を混同してゐる樣に見えます。事實から法則を歸納するのは、一群の事實の上に、根本的なる形而上學的假設に關係する、抽象的組織を積み重ねることです。何故なら、一の法則を打建てるためには、與へられた全體の中から一定の關係を抽出して、一定の他の關係をのみ考察しようとしますから。この抽出は、現實に付け加へられた、吾々の腦の作用です。

從つて、「空間とか、時間とか、或は物質とか云ふが如き要素から出來てゐる、自然界の本質に乘ずる理論がどうあらうと、物理的或ひは化學的法則の實在性は、それに依つて少しも毀されることがない」と言ふのは誤謬です。その證明は、引力の法則及びエネルギイ物理學一切の法則は、アインシュタインの理論によつて修正せられたことです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

君は、これはその實在性に觸れてゐないと言はれますか。では、法則の實在とは何ですか自然界には法則はありません。自然は吾々に事實の間の關係を示すだけです。法則は吾々から、吾々からのみ出來るのです。若し君が自然法則は具體的存在を持つてゐると信じられるなら、バルビュス君、君は意識しない神秘家です。

これはまだ最も重大な事ではありません。君の文章の中に、私が今論じた所の直ぐ次に、君の推理を結ぶ文句として、次の樣なのがあります。「私はこれ以外のことを云つたのではない。私は、それを斷言すると共に、社會學と他の應用科學との一致の關係に就いて、私の持つてゐる觀念をも確信する。」

此處で、君は純粹科學から、應用科學へ一足飛びに飛び下り初められた。そして應用科學の上に、純粹科學に歸せられた眞理を移されます。物理的法則(總ての中の最も正確なもの)が正確に現實と適合することを認めませう。吾々がその中の一を應用するとき、吾々の法則には關係しない、環境の一切の作用を無視しても好いものと考へます。で、吾々は一の抽象を行ひませう。確に正當化されます。然し吾々の適用された法則は、與へられた近似價と共に、正當化されるでせう。(經驗の誤謬は問題外として!)今一つの飛躍で、君は物理的及び化學的科學から、社會學へ移られます。所で、若し物理的及び化學的法則を、孤立した生物に適用するのは既に甚だ困難だとすれば、心理學的要素が、今日に至るまで殆んど決定することの出來ない程大きな役割を演じてゐる生物の世界に、如何にしてそれを適用しますか。吾々は社會學に於いて、大きな近似價である、「頻繁の法則」しか所有しません。で、吾々が易々と適用し得る唯一の數學的法則は……蓋然性の計算の法則です!

吾々は、社會幾何學から遙に遠ざかつてゐます!

親愛なるバルビュス君、君は信仰の人であると、私は結論します。私の口では、それは確に批評ではありません。私も亦信仰の人間です。吾々の神は共に「共和國」の車につながれてゐます。君の神は、若し私にして誤らなかつたら「平等」と言ひます。私のは、「自由」です。

「そは二柱の强き神なり……」とラシイヌの中の老いたる女王が言つた樣に。彼等は常に非常に善くは協力しませんい。彼等を一致させるために努めませう。最後に、彼等が協力すると否とに拘らず、吾々は　さあ手を握りませう!(自

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

由藝術及びレセニヤ・インテルナツィヨナーレ三月號所載）

V

アンリ・バルビュス

只今受取った「レセニヤ・インテルナツィヨナーレ」で、君が私の回答に對して書かれた回答を讀みました。白狀しますと、君をこの論爭の委曲に引込むことは、餘り望ましく思ひません。最初私信を以て言ひました樣に、私は、原則として、私達の間に於けるこの公開の論爭を嫌ひました共上、既に初まりかけたやうに、論旨を逸れることに依つて、吾々の共同の目的は、益よりも害を受けることと思ひます。議論は、最初生じた主要の問題の周圍を、どう／＼廻りを初めた樣な氣がします。

そこで君の第二公開狀の終りの科學的考察を、詳細に論述としようと言ふ切望を、私は壓へました。それは少々混亂した樣に思はれます。何れにしても、この點に就いて私が齎した斷定の單純さから吾々は遠ざかつてゐます。

親愛なるロマン・ロオラン君、私が出發點へ君方を連れ戻さうと一途に努めても、怨まないで下さい。私は「ロオランディスム」と名づけた精神狀態に對して、極度に明確な單純な非難をなしたのです。「ロランディスム」が消極的要求に向ひ、實證世界に何ら事實的な、實現し得られるものを齎さないのを、非難したのです。

事實、君が使徒の如く宣言せられ、他の樣々な聲が君の大聲に從つて繰返した、諸制度の批判は、總ての點に於いて、あらゆる正しき人々及び瞞されず汚されざる人々が皆自分のものとすべきものです。捧げられた社會法則に就いて君が爲された、體系及び判斷に關して、吾々は何ら修正し、附加する所はありません。然しこの事を言つて、尙私は繰返します——君は保持すべからざる事に就いて批判せられるに止まり、打ち倒すべきものに取つて代るべき、何物をも提出せられないと。

私は言ひます——君は何ら提出せられないと。これは恐らく私が說明せねばならない樣なものではないでせう。私の言ふ意味は、生活力を備へた何物をも提出しないと言ふのです。もはや存在すべからざるものを、引き拔き得る何物をも、君は提出されません。人間の創造的意志が、その上に立つて「さうだ！」と言ひ得る、實際的な現實的な原理の體系を建設する、何物をも提出されません。——今や過

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

去に依つて奮起した人間の創造的意志は「否！」と言つてゐます。

君の信仰、君の眞理と公正との情熱は、寛やかな希望に充ちて居り、善意に滿ちてゐます。然し、それ等を以て、吾々は法則の表を作り變へることも出來ねば、社會の構造を、上から下まで、覆すことも出來ません。それをするには、偉大な勇氣が必要なのですから。

古代の法則の血なまぐさい不適當さが、無數の改良的威力を出現させるためには、善と至善の崇拜、私も君同樣信じてゐるこの公正の神秘說、時には苦痛の發作、また悲慘の陶醉さへもが、新法律の正確な明白な構案に執著し、固著することが出來ねばならなかつた。

吾々は共に惡に對する等しい憎み、共に等しい飛躍から出發しました。然し、これはなくても良いものだ。幾人かがこの現實に反對の眞理を執つた、而して彼等はこの大きな論理的な理想を叫んだ、これが、せねばならないものだ！と言つた後、君は最早、吾々と一緒ではない。

何故か？ 粗暴に言へば、（この問題は、我々が外交的辭令を採すのに時間をつぶすには、餘りに重大な問題です。）私には混亂して見え、勝手氣儘に見える理由のため、更に言へば、言葉に囚はれた理由のためです。

斯くして、暴力と言ふ言葉に關する、この混亂した怪しな議論を檢める必要が生じました。これには詭辯の臭がします。では、スコラ哲學から投げ出して、生活の中へ突き入りませう。强制——私は暴力と言ふより遙かに廣がりの大きい、正確な感じのする、この强制と言ふ言葉を用ゐます。——は如何なる種類の社會概念及び未來の組織からも理論的に除外し得られないものです。その必要が叫ばれてゐる場合から獨立して（何故なら、君は憲兵が惡人に就いて暴力を用ひるのに何時でも抗議しようとして居られない。）吾々は總體の實現に面することも出來ないし、何らの强制の要素なくしては、粘著力にも訓練さへにも向ふことは出來ません。個人主義的な「理論」と團體主義的な「理論」との差異は、後者は一團體を構成する要素を集合し一致せしめる、換言すれば、一の意向の中に强制する點であります。

君は、ガンディが英領印度に於て、孵化させようと熱中してゐるが如き、「非承認」の事を言はれました。この「非承認の思想は、同盟罷業に於ける「拱手の戰」と姉妹の思想です。「クラルテ」が團體創立の際に發表した原理の中にはこ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の思想がありました。この宣傳雜誌は同盟罷業の思想を大きな實行方法として取出してゐました。「クラルテ」の提議の一つは、事實、次の如く言つてゐます。「總同盟罷業、政治的同盟罷業は、職業的同盟罷業よりも、一層有效でありまた一層有利である。革命と進化の間にあつて、同盟罷業は平和的革命を形造る。」

この英雄的受動性が、思想の勝利の見地から、あの情況の下に於て爲し得る、主たる重大さに就いては、吾々は全く一致してゐることをこの事は示すものです。然し、全體的に一致した——或は殆んど一致した承諾があつて初めて效力を現はす、斯の如き運動が、何等かの種類の强制なくして、敢行せられると君は考へますか。若し勞働組合がなくして、勞働者にその義務も示さず、且つ勞働者に組合の完成も求めなかつたら、同盟罷業は部分的なのも、更に小さなのも斷じて起らないでせう。玆にこの問題の總ての悲調はあり、玆に於て二個の全く異つた考へが衝突するのです。そこで二個の中の一方が眞理で他方が噓僞であるといふことは、必然的に生じねばなりません。次に、靜止と、沈默とで行はれるこの戰鬪を勝利だと想像して、吾々は社會改造の完成を唯一の善き意志に任せ切らうとするでせうか。言ひ換へれば、あの考へよりこの考へで實行せよと强制しないでゐられるでせうか。若しさうであつたら、勝利は一日も續かず、總ての犧牲は全く無駄となるでせう。若しさうでなかつたら、吾々は暴力と强制の役を演じます

若しも事物の新しい狀態の準備及び建築としての暴力と强制とを排除しようと欲しながら、人類が生活のため必要とする、尨大な社會的變形を望むのは、無駄な事であり、愚な事であります。若しも暴力の最も邪魔になる敵である人々が、現實のどんな點でも十分に考慮しようと欲したなら、彼等は「如何なる形式に於ても暴力は不可ない。」とは言つてはならないことを知るに至るでせう。却つて、人が渾沌の中に止まるを欲せず、或は抽象の中に陷るを欲しなかつたら、或る物の及び或る種の强制が、絕對的に必要なるを許容しなければならないでせう。私や私の同志が斷言しようと欲してゐるのは他の事ではありません。ブルジョアの奇怪な威嚇が吾々になしてゐる如く、吾々は血を好む人間ではない。總て復讐の觀念は吾々の精神から遙かに遠ざかつてゐます。平等と博愛の社會を建設するに當つて惡法を維持せんと努めてゐる人々の側から、流血の慘を起したとしても、「非承認者」の偉大な受動的拒絕に對して課せ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

られる、刑罰執行や迫害より以上に、吾々は責任はありません。

かうも言ませう――出來ない者は倒れない……。例へばこの「非承認」の思想を、我が國及び吾々の周圍の事件に對して適用して見ませう。假に動員の場合を取つて見ると、それは吾々が「元の戰鬪員（アンシアンコンバタン）」の二個の萬國會議で論議したものです。問題の原理の應用は、動員の場合には、手に武器を執つて戰鬪部隊に參加すべき一定數の人の拒絶に依つて、直ちに出來ます。是等の反則者は、時を移さず、軍法會議に廻されて、結果は其以上の殺戮となるでせう。無暴力の感化の下に行はれる行動は最初の瞬間からして、別の意味に於て、暴力の殘虐な悲劇的な性質を持つてゐるのです。前に言つた會議で、言葉は最早問題とならず、自ら行動に現はれるべき決心が問題となつた時――元は戰鬪員であつたが、今はレツテル付の敵である吾々が、戰爭の犧牲者の萬國的友愛を組織しようと欲してゐる吾々が、吾々のインタナショナルの各國支部の會員に對して、武器を執ることの拒絶を、大いに讃美しようとする動議の原案を審議した時、如何でせう、吾々革命家は、それが流させる血を恐れて、この發議に投票することを敢てしなかつたのです而もこれは、今日君が――暴力を恐れて！――吾々の方法的組織に反對して提出せられたものなのです。

斯の如く、公共的行動に對する協働の拒絶を表白することが目的を達し得るためには、それを抑壓する事が實質的に不可能となる樣にするため、繰返すやうですが、それが著しい多數に上ることを必要とします。此等の條件の下ではこの廣大な手段は勝利の見込があります。然しこの勝利も言はば、吾々にその解決を委ねる問題です。何故なら勝利的一致に達するためには、團體的組織を必要としますから單なる個人的承認のみによつて、かう言ふ計畫の結果に到着するなどと、吾々は眞面目に主張することが出來ません。又若し、君が個人的教育と呼んで居られるものが、この無數の承認を組織するに在れば、吾々が行ふものと、君の破門に次いで、代りとして提出せられたものとの間には何等の種類の相異もないわけです。

君が吾々の危險な誹謗せらるゝに値する方法の代りとして非常に賞讃される積極的手段のことを言つた以上、私は君の第二の方法に就いて一言しようと思ひます。

君は「民主的管理同盟」(Union of Democratic Control) が民衆に外交の事實とやり方を調査する權利を與へる目的を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

以て成功した宣傳のことを言はれました。吾々は民主的管理同盟を創設した、心情と氣力の人であるイー・ディー・モレルに對して、最高の尊敬を拂つてゐます。そして私は彼を「英國のロマンロオラン」と呼んで、私の探し得た最大の讃辭を公然と彼に呈するに至りました。戰爭中の彼の役は勇氣あり賞讃すべきものでした。彼は現代の最も尊敬すべき道義家の一人です。然しながら、彼が設立した機關に俟つべき結果に就いて、私がなした保留を、私は決して隱さなかつた。原則としては、民衆が共運命を導くものを管理するのは、甚な立派な事です。然し、民衆が他のあらゆる點で奴隷である限り舊い組織が他の總ての部分で動き續け暴威を振ひ續ける限り、この主權を民衆が所有し得ると想像するのは、世間しらずな事であります。秘密外交は、全體の中の一部分に過ぎません。殘りのものを生かして置いて、それだけ根こそぎにした所で、傷ついた部分は忽ちに盛り返すか 或は何か別の機關が、くつ著き過ぎた古い幾械の中で、それに取つて代るでせう。從つて「民主的管理同盟」に依つて過度に讃美された管理は、奇怪にもあらゆる部分的發議を超越してゐる問題を、解決するには全く不充分な手段に過ぎません。その解決は、實際には、單に解決しらしく見えるのに過ぎません。反對にそれを成就することは亦、將來の改良の準備ともならないでせう。何故なら、似而非改良は政府の體系を强固にし、一層活氣あらしめ、それに民主的自由主義の道德的幻影を齎し、改良家の努力に反對する一層の悶著力を與へます。而も底の方では何物も變化してゐません。

親しきロマン・ロオラン君、君に與へた一般的な批評に依據するため、君の書翰の中に見出した、積極的秩序の斷定にのみ、私は立脚します。君は、國際的資本主義から反對された單純な反對說であり、且つ民衆的人類的な基礎に生活に、各人及び萬人の努力に、立脚した社會の、理論と實際とを、廣大な平衡を得た全體の中に包含してゐる、萬國共產主義を批難されます。君は、共產主義の外に獨立してゐる、理性と良心とに從つて一の社會主義の原理の結構を備えた學說を持つてゐるわが「クラルテ」を批難されます而もそれは、「如何なる形に於ても暴力は不可ない」といふ曖昧な訓言の名を以て、同じ樣に曖昧な方法を過度に賞讃するためです。この方法は、結局は、斷片的で不充分であり、實際は、この方法からも暴力を排除することは出來ずまた他のものから支時されないならば、それは到達迄と實

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

際的意味を持たないものであります。

私は回答を命ぜられた制限以上に進みました何卒怒らないで下さい。其上、讀み返して見て、前に言つたことを繰返すより外には、全然何もしてゐないのを認めました。——これも亦恕して戴きたい！……君は私が平等の選手だと言はれましたが、では君はむしろ自由の選手です。事實この公式は、恐らく、吾々が代り代りに役を演じて爲した所の、また精神の二個の基本的傾向の間に荒れ狂つたこの論爭の總てを要約するものでせう。悲夫！自由は本質的に空想的性質のものです。それは詩人の富です眞の自由、完全な自由は決して問題となり得ず、只最大限が問題となる限り、自由は絶對的價値を持たないものです、暴力と同じ樣に、自由はあらゆる狀態に餘りに易々と適應せられる言葉です。悲慘と戰爭の煽動者である帝國的資本主義が、餘りに大なる自由に立脚してゐるため、人類努力の束を少數の個人が捩り取り、獨占し、私人の目的のために利用するに至ることを、指示するには大きな才能を必要としないでせう、若し君があらゆる部分を以て新社會を建設し得るとしたなら、君は眞の自由に從つて、即ち、各人に氣儘勝手を容して、それを打建てられますか。確に否です。何故なら、斯の實現が直樣無秩序の中に崩壞しないためには、新しい種の人間を製造しなければならないから。それは、新社會を作るより遙に困難な事です。自由は消極的な力です自由は專政主義から既成法規を引拔く必要がある時にのみ存在するのです。平等は、反對に制度の部分內に、正確な科學的觀念を持ち來る言葉であります。平等は完全に存在し得るものであり、ものでなければなりません。それも固より、個人々々の平等を空想的に考へようとせず（この考は社會的見地からは何の爲す所もない。）單に共通の正しき法の前に於ける、各人の權利の平等でなければならないと言ふ條件付なのです。自由の使者屢々どんなに寬大であり崇高であらうとも、自由は取扱ふに危險な力です。何故なら、際限なく、もつと適切に言へば、形なく、放縱ですから。制限せられた積極的な平等は、團體的建物を建てるには、最上の材料です、平等は少しも割引せずに言へば、言葉を、事物の中に移すのです。

君は、私が君を「無政府主義者且つブルジョア」として取扱つたのを非難されました。不愉快な事を言つた」か如何かと言ふこの種の議論を君の樣な人に向つて仕向けるのは私としては子供らしく滑稽です。私の目的は決し[illegible]的に

惡意を示さうとか、君を傷けようとか、言ふのではありません。あの時に言つたことは、私の考へでは、眞面目な嚴肅な現實に關係してゐるのです。是等二個の言葉の初めの方に關しては、その言葉で侮辱となるのでは無いと言ふのに、吾々は一致するだらうと思ひます。私は多くの無政府主義者の友を持つてゐますが、その人達が、人道的な理論を實際に行ふだけ、益々私は尊敬するのです、然し私は、純粋に感傷的道德的であり、余りに非組織的である理論に纒る危險を、その友達に嘗て隱したことはありません。私が「ロオランディスム」と呼んだものは、他の人が無政府私義的な精神狀態と言つてゐるものを、正確にさしたものです。私はこの接近は出來てゐるものと信じます。ブルジョア資本主義の野蠻な不統一を許さない敵でありながら、無政府主義者は單に個人的發議の不充分な武器を以て戰ふだけであり、且つ、總て組織せられたものを、專政主義と壓制の形式に過ぎないと言ふ口實の下に、難詰するのです。誠實な信念は總て尊敬すべきでありますが、そこから多くの不幸が生じることも出來ます。この信念は時に壯嚴な個人的犧牲を產みますけれども、それは再建することを知らず、また再建することの出來ない崩壞の恐れがあります。

私は亦、吾々が防禦する完全な共和的學說に反對して、君が集められた論議は、ブルジョア論客が用ひるのに似てゐるとも申しました。私がさう言つたのは、それも亦正確だからです。何よりも先づ現存の事物の秩序を維持しようと欲する側の人々から、この種の反對論を聞いたのは確な事です。

君が禮儀ある反對者として、然し現代に起つたこの少數なる實現家の反對者として、引受けようとせられる不統一な同意の性質に關して、誤解しない樣にして下さい。君は君の精神の如く崇高な純粋な人々だけを有することは出來ないでせう。君は亦、何よりも實際的精力に恐れを抱く保守的な人々をも、引つくるめて言へば、現實主義者の讚歎すべき感覺を以て、現時の最も眞面目な力强い大事業は、ロシヤ革命の經驗の評判を惡くすることだと理會してゐる總ての人々をも、有せられるでせう。

君は、都合の好い、そしに實現せられる危險のない、人道的な夢を作ることに有頂天になつてゐる半官由主義者や半平和主義者をも有せられるでせう。彼等は半官的會議で地團太踏むことを好み、現實に眞理を賭することより、寧ろ世界的搾取の友愛を準備することを好む輩であり、「何處

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

までも」正義を執つて身を危くする人々を嘲笑し、且つ無人根性だとなして、己の有害な無能を自ら赦す輩であります。然り、この事は存在して居たが故に、また同じく、この事は一の意味を持つてゐるが故に、君は自認して敵を持たれるであらうと、言はなければならない。社會主義者は過誤を犯したでせう。その學說は尙ある點に於いては、何等かの動搖を持つてゐるでせう。宜しい。然し、若しも、工業家と軍閥との寡頭政治の貪慾である帝國主義が、祖國のあらゆる口實を持つた富の壓制が、何時の日か消滅するならば、それは偉大な計算された夢である社會主義の中に書かれた、社會體系に絕えず近よりつゝある社會體系に依つて、置代へられる爲であらう。此の明白なることに味方する以上、殘餘の物が私に何程の關係があらう！

君の言はれた事——君の爲された事は——吾々にとつて常に神聖な、常に高貴なものでせう。而して、吾々は、君に逆らつて、君より更に深く進むために、それを用ひるでせう。

君に親愛の意を表します。（クラルテ十號所載）

社告

バルビユス主宰雜誌 **クラルテ**（佛文）

一箇年　五圓四拾錢

半　年　參圓拾錢

右購讀の取り次ぎに應ず

希望者は住所姓名を明瞭に（楷書）で記載し、誌代と共に本社まで申し込まれ度し。

第一回締切

八月三十一日

牛に牽かれて

さあ、かうなつたら運命だ
　牛に牽かれて行くさ
行けるところまで行くさ
　おい兄弟、
遠慮することはないんだ
　死のうと生きやうと
俺達ちのことは俺たちできめるんだ
　默つてゐれば眼をつぶされた
サムソンのようなものだ
　おまけに俺達は雑草のこやしに
ひからびちまうぞ
　弱りきつてゐる骨でもなげかけ
さあみんな
　一しよによつかかつてくれ
その時すきは自然と動くのだ
　おい兄弟
もう一息だ

穴明共三

シベリア通信

勞農政府の「新政策」に就て

△「勞農政府の旗色があやしくなつた」と云ふ詞は白色新聞が盛んに嬉喜して傳へた所で彼等は彼の「新政策」は全く勞農政府が赤色の旗を伏せたのであると唱へて居る、然し赤大根が所謂あやしくなつてから已に一ケ年に垂んとするが依然として政權は崩れず赤軍の脫營說も日々其虛說があつた事が明となつて來る、然も土地は依然として國有工場は大部分は國有、個人に貸下げたのも依然政府と勞働者の監督權は解かれない、食料券も前と同樣、且モスコーの無線電信は日々全世界に向てプロレタリアートの建設事業を報じて居る、何が果して白色新聞の喜ぶべき根據となつたのか、彼等にして眞にパトリオトであるならば自己の背後にある外國の援助が薄くなつた時こそ嬉喜すべきであらう。

△然しレーニンは勞農會議に於て事實自から政治に於て失敗したと述べ會議を解散してまで其新政策案を通過させた然らば失敗であつたらうか？　夫はブルジュアの云ふのとは大分意味が違ふレーニンの云ふ失敗は勞農政治後自體の失敗ではなく其方法を誤つたと云ふのである。

その方法とはあまりに極端に舊ブルジュアを排斥した爲に專門家まで追ひ出して了つたから經營上經驗のない勞働者を以てすべての事業乃至行政に就かしめた爲め圓滑に行かず、手違ひのみ續出し、果ては國家の收入の途さへ絕へんとし到底政權を支へる事が出來なくなつたから、專門家を再び迎へ舊經驗のあるものは專門家として採用すると云ふのが新政策の精神である。此新政策實施の結果政府の重要の地位にも舊官吏を用ひ、舊裁判官辯護士等も採用し、軍隊の幹部も多くは舊帝制時代の將校である、又工場の一部を舊持主に返還した。

△然し乍ら此等は單に其職務上の經驗を採用したので軍事は戰爭屋として、

官吏は國家の事務員として、工場の舊持主は經營部長として採用したまで丶其勞農政治其ものには何等の變りはない、彼等は勞働者及農民に依て組織される勞農會議の命に絶對に服從し一寸の異議を許さない只從來彼等智識階級は第三階級として食料券に大制限を加へられて居それを普通にしないまで丶ある。

△然し例へば方法のみにした所でレニンの云ふ通り失敗は失敗である、然らば其失敗は何に起因するかと云ふに、外國の封鎖に堪へる爲め急速なる內部の整頓を要した事が第一である、無產階級が教育がなかつた事が其第二である、而して惡分子の混じて居た事が其第三である。

外國の事實上の封鎖は今云々するまでもない、佛國の頑迷、英國の虛僞、日本の出兵、等之である、佛國は波蘭芬蘭を始め所謂新興のバルチック同盟國を煽動して反抗せしめ、英國は自國勞働者の口を押へんが爲に通商協定まで結んだが、それは一片の紙片でロンドンに保管された露國金貨を盜む事より外に何も考へては居ない、米國に至ては露國が全然其政治を變更せずんば殆と御隣の惡口も云へない程事實上の內政干涉をして居る。

△無產階級が教育が無かつた事は全く舊露國が彼等の學問する事を許さなかつたからである、彼等は革命前までは只生活にのみ追はれ自己を顧みる餘裕は無かつた、之は彼等否全世界のプロレタリアートに取つて一大悲劇である。

革命前まで露國農民は一郡に於て五名以上其子弟を大學に入れる事を許さぬと云ふ珍法律があつた。彼等無產階級にかくして其の教育を防げられ只官吏が來た時に腰を四十五度に屈する事より外に知る事を許されなかつた、其結果は團結を缺き卑劣になり、愈々政權を奪つても之を運用する事が出來なかつた。

△勞農政權內に惡分子の多かつた事は爭はれない。夫には最初破壞時代に囚人を解放しブルジュアの爲に苦しめられた一切のものを解放し且共力したが其內には(否大部分かも知れぬ)貪慾な非道な眞の惡人が少くなかつた。彼等は自由と吾儘とを區別し得ない手合で愈々建設事業に入つた時も火事泥を働く事のみに忙はしかつた。夫が爲に最も共力團結を要すべきプロレタリアート獨裁政治は大なる困難を感じた。

尚一つ注意すべきは猶太人である。

彼等は從來宗教上及政治上常に排斥され殊に權力者からは蛇の如く嫌はれた爲め自然プロレタリアートと步を同じふしたが夫は只革命まで丶建設事業には

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

最も大なる障害となつた。

抑々吾人の考では勞働運動には宗教的色彩は禁物である、蓋し現在の宗教は千餘年の間常にブルジュア乃至權力階級に利用されその武器とされ教典までが一部ブルジュア的色彩を帶びて居る事は爭はれない。故に根本精神は別として現在の儘では受け入れる事は出來ない、此點に於て猶太人は大なる障害である。（重平生）

片山潜氏の日本政局觀

六月十五、六日頃何故か片山潜氏が莫斯科から知多に到達したやうだ。十七日の「ダリタ」は同氏の語る處として次のやうな日本政局觀を發表してゐる。

高橋内閣の沒落と加藤内閣の成立は單に日本の支配政黨内の人物の更迭としてのみ看過すべきものでない。今次の更迭は日本を殆んど破滅に導いた軍閥の横暴が遂ひに國民の激昂する處となつて國民各階級に亙つて、底深き動搖を惹き起したことに原因するもので時節柄極めて徴候的な現れである。

今日日本の國際的孤立の立場、商工業の慢性的衰微、必需品に對する投機の流行、苛歛誅求、一般的失業及地主の零落等悉く軍閥の放恣、專横の結果である、加之、此の四年間、國民の膏血を搾れる數億の金と幾多の國民の生靈を徒らなる犧牲となした西伯利出兵を思へば日本國民の武斷派に對し抱く憎惡、反感は意外に深刻なものであることを察知し得るであらう。一、二年前に於ては武斷派の此犯罪的政策に對して反對したのは僅か智識階級の少數一部に過ぎなかつた、勞働階級の活動的部分及有產階級は全く軍閥の政策を支援し少くとも待機的態度を持した。

然るに今日に於ては武斷派の其外交上、軍事上、幾多の失敗を暴露した結果、日本國全般に亘つて反對の聲を聞くに至つた。

今や「軍縮」てふ標語に日本の政黨は結束して反動的政黨たる政友會すら此大勢を如何ともなし得なくなつた。

民衆の此の廣汎なる不滿と反感に激成され形勢は重大化し遂ひに生殘りの元老、貴族院其他少數の特權者のみで構成されてゐる日本の支配階級をして何等かの對策を講ぜねばならない羽目に導いたのである。

之れが今次政治的色彩に於て純然たる官僚的且黨外的なる加藤内閣の出現の所以である。然れ共、斯の如き内閣の組織も只だ表面、形式上の問題にて新内閣の背後には依然政友會がある。而して政友會は目下の重大な時機に際し公然と責に任ずることを回避する爲めに海軍閥及上院の代表者よりなる内閣を擁立したのである。（云々）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

論叢

ごろつき食倒し論

——平林君に一言——

中西伊之助

僕はむづかしい議論はできない男だが、一寸、平林初之輔君に一言したい。同君は本誌の六月號の文藝運動と勞働運動と云ふ論文で『實際、社會主義運動の中に働くことのきらいなごろつきや、食ひ倒しがまぢり込むと同じやうに階級藝術運動の中にも文藝のいろはもわきまへない連中が……）以下略）』云々と云つてゐる。前以て斷つて置くが、

僕は右の後節のことなどはどうでもいゝのだ。そして僕が近頃小説染みたものを書くからと云つて、なにも僕がそれをヒガンで下のやうなこ云ふのでは決してないことだ。——たとへまた僕達のことにした所が、僕は現代の文藝なんてものを、ブルジョア文學者の神さまのやうには心得てゐないのだから——。問題は前節にある『實際、社會主義運動の中には、働くことのきらいなごろつきや食ひ倒しがまぎり込むとは、なんと云ふブルジョア的な口吻だらう！。

僕は決して平林君の小股をすくつて快としてゐるのではない。プロレタリヤは飽くまでも共同戰線の上に立つべきものだと心得へてゐる。しかしながら、平林君がプロレタリヤ階級の戰士として僕は尊重したければしたいたけ、かうしたことは云ひたいのだ。事實、ブルジョア的眼光をもつて今の社會運動を見れば、平林君の云はれるが如き人々があるかもしれない。しかし、僕等はプロレタリヤの感情からすれば、僕は到底そんな輕薄な概念で片づけてしまふに忍びないのである。平林君の云はれる如き人達は、現在僕達の周圍にうよ〳〵してゐる——僕も恐らくその人であらうさうした失業勞働者は、悉く餓死か、破壞か、二中一を擇ばなければならない悲しい人々である。はつきりと現代組織のからくりが解つて、もう資本主義生産に携つて働くことさへできない悲しい人々の群である。彼等は單なるオブロモフではない。むしろセヰリオフに近い人々である。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云つてもいゝしかし僕等は自らの怯懦を知ると同時に、その人々の怯懦を責めることはできない。僕はその人々と手を握つて泣くことはできても、手を拂つて蔑しむことはできない。――その人達は、過去數年間のあの階級戰の先頭に立つて、みんな勇敢に働いた人々の零落の群であるのだ。平林君は、果してその人々を指して、ごろつきと云ひ食ひ倒しと云ふ理由を見出すことができるか？　零落の人々の群にゐて悲憤してゐた・そしてそんな社會を破壞したい。またその人達の中には左程にニヒリスチツクにならなくても、まだ資本家の下に働いて妻子を養ひたいと思ふはいくらもある。けれど、資本家聯盟は、斷じて彼等を工場に門より一歩、入れない――僕は曾てこのことを同一の批評に對して雜誌社會主義で植田好太郎にも云つた――僕は平林君にもつと、プロレタリヤ運動の現實に接して貰いたい、そして僕はむしろ現代の社會に、そのごろつきや食倒しの益々多くなることを望むのだ。三十年一日の如く勤續して、五千、一万と云ふ貯金を殘して、プチ・ブルジョア的な心持になりながら、勞働運動の「勞」の字を聽いても外方を向いてしまふ勞働者はかなり多い。そんな「勤勉」な勞働者がいくらゐても、勞働階級の解放は到底行はれない。僕は資本家に首を馘られ、投獄せられ、そしてはつきりと現代組織を透視したごろつきや食倒しの失業勞働者が世の中に充滿せんことをどんなに望んでゐるだらう！

　こんなところで云ひ足すのは一寸へんだが、ついでだから云ふが、本誌で、曾て某氏は僕が市電のストライキに味噌をつけたと云はれたやうだが、僕個人の批評ならば、甘受するが、しかしこれなどはまだ　ほんたうの革命的階級戰の眞諦を理解されない人の考へ力だ。どうかプロレタリヤの藝術を强調しようとする方々は、もつと　深い進出が望ましいと僕は思ふ。

中西氏に答ふ

平林初之輔

　大抵の非難には默つてゐられる程僕も修業をつんできた『文藝運動と勞働運動』に對する中西氏の批評も相手が別人なら有難くお受けしてをいて差支へないのである。併し相手が日本に於ける勞働運動の一先覺者であり、プロレタリヤ運動の一鬪士であり、多くの點に於て僕等の先覺と信じて疑はざる中西伊之助氏であつて、しかも氏の批評が、或は懇々として敎へ、或は嚴然として叱正し、或は浩然とし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て歎息され、凡ゆる點に於て親切を極め、好意に滿ちたものである以上、そして最後にあまりに甚だしい誤解である以上、おまけに編輯者からわざ〳〵僕の手許まで中西氏の原稿が廻送された以上一言挨拶して中西氏の誤解を解く責任があるやうに感じられる。

問題の文句は『社會主義運動の中に働くことの嫌ひなごろつきや食ひ倒しがまじりこむ如く……』といふ一句である。僕は急いで原稿を書くので、これまでに、あとから訂正したくなるやうな不用意な文句を書いたことは屢々ある而し、この一節は今でも少しも訂正する必要を感じない。文字通りの意味で今なほさら信じてゐるのである。ところが誰が讀んでもわかりきつた平明なこの文句の中から、中西氏は一ダースばかりのすばらしい概念をひつぱり出された。何にもない袖の中から一ダースも卵を出して見せる手品師のやうに。

中西氏はまづ、この文句を讀んで『何といふブルジョア的な口吻だらう!』と概括的な第一矢を投げつけ、次に僕(平林)が『ブルジョア的眼光をもつて今の社會運動を見て』ゐるものと斷定し、『僕等(中西氏)プロレタリヤの感情からすれば到底そんな輕薄な概念で片づけてしまうに忍びない』と自らの立場を表面され、一轉して、僕の例の文句を『失業勞働者』『餓死か破壊か二中一を選ばなければならない悲しい人々』を意味するのだと獨斷し、この獨斷を僕に無雜作になすりつけて、なすつけられた泥人形の『平林』に向つて平林君は果してその人々を指してごろつきと言ひ食ひ倒しといふ理由を見出すことが出來るか?』と色を作してきめつけられる。かくして泥人形の『平林』は參つた。生きた人間の平林は參らぬ代りに自分が『泥人形』でないといふことをわざ〳〵辯明する『責任』を脊負はされた。僕が、中西氏のいふやうに『現實』を見損つて『輕薄な概念』に走つたか、或は中西氏が周章てゝ千慮の一失の誤解をやられたかは何人の判斷にでも僕はまかせる。

實を言ふと辯明するよりもあの文章をもう一度讀み直していたゞくだけの勞力をおしまれなかつたら誤解は氷釋する筈だ。僕は『失業勞働者』と『ごろつき』とを混同する程の血迷ひ方は決してしなかつたつもりだ。中西氏自身で勝手に二つの概念を結びつけて、こん度は自分でこしらへた假想敵に向つて批難を浴せかけられるのだ。

しかしおのぞみなら辯明する。第一に無論あの文句は『失

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

業勞働者をさしてゐるのではない。こんなわかりきつた誤解をしたりそれに答へたりするのは吾々の恥辱だ。失業勞働者は誰でも知つてゐる通り、資本主義經濟組織に必然的に伴ふ犧牲だ。しかも失業によりて資本主義社會のからくりが最も直接にわかるから、失業者の中に最も革命的分子が生ずることさへあり得る。その失業者が勞働運動の障害になるといふやうな理屈を創造する程僕の頭は獨創的でない。

次にあの文句は中西氏の批難するやうに概念ではなく事實を指してゐるのである。不幸にして社會主義者と名乘つてゐる不良青年組や、何ぞと言へば日本刀を振り廻すやうな連中のあることを吾々は耳にしてゐる。しかもその背後にいかさま師がひそんでゐる場合のあることも聞いてゐるそれが爲めに健全なる勞働大衆に社會主義が如何に誤解され、從つて社會主義運動が障害されたかも知つてゐる。殊に社會主義運動に古い歴史を有する歐米諸國ではこの種のいかさま者が風向次第で社會主義者になつたり、反動派の手先になつたりした例がいくらもある。マルクスが『賴み手のない辯護士、患者の無い醫者、田舍新聞のもぐり記者其他々々とこれ等いかさま社會主義者の合成分子』を指摘したのでもそのことは知れる。

『現實』を尊ぶ中西氏が僕の文句を『現實』のまゝに解釋し文字通り『ごろつき、食ひ倒し』と解釋されたら、こんな下らん論爭は起らずにすんだらう。ところが氏はどうしたものか雪と墨、鷺と烏ほどにもつかぬ『失業勞働者』といふ『概念』を『ごろつき』といふ現實の中から引つぱり出したゝめに、無益に憤慨し、切齒し、罵詈し憐憫する必要が起りひいて『泥人形』ならぬ『現實』の僕自身もそのまきぞへを食ふべく餘儀なくされたのである。『概念』を排する中西氏が『概念』の像となつたわけである。

併し勿論これは千慮の一失である。弘法にも筆の誤りがあるのだから神ならぬ中西氏に解釋の誤があるのは怪しむに足らぬ。しかもそれは僕に『プロリヤ運動の現實に接して貰ひたい』といふ親切あまつての誤解であるから僕は有難く中西氏の批評は受ける。そして僕は實際直接勞働運動に携はつたこともなく、またその能力も覺束ないから、その點に關しては指導されんことを希望する。たゞ僕も『失業勞働者』と『ごろつき』との區別がつかん程血迷つてはゐないからその點は御安心が願ひたい。最後に同志中西氏の健在を祝つて妄言を擱く。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

批評

猶太人と世界革命

眞白な表紙に日の丸が染つてゐるだけでこの雜誌の性質が充分に解るであらう。その名は「極東」ハルピンは埠頭區の極東公論社から發行されてゐる。東京雜誌で言つたら花は櫻木人は「男」湯と言つた程度である。僕は偶然、その「極東」なるもの丶六七月合併號を手にしたのであるが、その中に收められてゐる「猶太研究」を興味をもつて讀んだ。その研究には大分コーヘンの「新猶太生活」の引用も多いやうだがとにかく日本語で書かれたものとしては可成り詳しく且つ相當に新らしいところまで書かれてゐる。その上、この研究は、どこから出て宣傳だか知らぬが、猶太人の運動に各種異つた政見の色合をはつきり區別させて置いてあるところは偉い。ことに、その運動の極左黨である「ブンド」を忘れずに紹介してくれたことは有難い。それによつて、猶太運動にも資本主義猶太人の運動と、プロレタリア猶太人の運動とが立派に對立してゐることを明かにしてゐる。これまでの猶太運動研究者は主として、新國家建設をモットーとしたシオン派の運動のみを紹介したのに、こんど世界共產主義をモットーとする「ブンド」を紹介したことは、例へその紹介の範圍がいさゝか狹かつたにもせよ、そこへ眼をつけただけは喜ばしい。

第三インタナショナルの記錄を讀まれた諸君は、常にその諸大會に「ブンド」の代表が出席してゐることを記憶されたであらう。「猶太研究」の無名氏によれば「ブンド」とは、一八九七年に創設された Allgemener Jüdischer Arbeiter-Bund in RusslandPolen und Littauen の略稱であつて、絕えずロシア猶太人の居住地域に社會主義の宣傳文を送り熱心宣傳の結果、一九〇五年には既に三万人の黨員を有するに至つたが、無論今ではモスコウの萬國共產黨に屬してゐる。そして、その宣傳は下の如きものである。

イ、今日の社會は「ブルジョアジイ」と「プロンクリア」との二階級に區別することが出來る　そして、猶太國を復興

し政府を樹てんとするものは(シオン派)貧民擁護の假面を被れる資本家の手先である。猶太人の全勢力は資本家打破に集中しなければならない。

ロ、「パレスタイン」に猶太國政府を建てんことを劃策せる「ロイド・ジョージ」、「バルフオーア」、「ミルラン」等は猶太人を盲人と認めるであらう。

ハ、猶太人は須らく資本主義と戰はねばならぬ。

ニ、猶太勞働者を擁護するものは「ブンド」以外にない。かの「シオン派」なるものは唯英國の利益を主眼として猶太人の利益を無視し、勞働者を奴隷視しつゝある。吾々は飽まで彼等を排斥しなければならない。

かく說明し來れば、猶太運動には立派にカピタリストとプロレタリア二派があるではないか。それだのに、本研究の無名氏は猶太人運動であれば盡く世界革命の陰謀であるかのやうに斷定してゐる。大日本帝國にだつて立派に共產主義者が居るといふことに不思議がないとすれば、猶太人だからつて　　世界の資本主義と戰ふことに何等不思議があるものか。

陸軍のプロパガンダよ、共產主義者大杉？が大邸宅を構へてゐるとか、また、日本の共產主義者の國籍を剝んで盡くロシアへ送つて仕舞へなんてな馬鹿氣た結論を止し給へ。もしも、そんなことが出來るものなら、喜んで飛んで行く者の日本帝國に多いことを君らは知るまい。(小牧)

『實感』主義者林癸未夫君

——中央公論七月號——

▲久し振りで中央公論を手にしたので寢轉んで讀む。卷頭論文『階級鬪爭思想と勞働組合運動』(林癸未夫)が先づ目につく。仲々の美文で音吐朗々誦すべしだが、どうしたものか半頁か一頁で身は華蜀の國に遊んでしまふ。せめてこれだけでもと刻苦慘膽やうやく目を通したが、やはりその道の達人だけあつて得る處も尠くなかつた。紳士閥御用學者(學者?)の新戰術を明にし得たのは先づ以つてその最大收獲だらう、限られた紙數であるから以下簡單に正體を明にしてみる。

▲癸未夫君は先づ大戰勃發によつて『五十年のインターナショナル運動は束の間に壞滅し』てしまひ『資本主義の憎惡も、階級間の反感も忽ち雲散霧消して、殘つたものは

唯これ「感情中の最愚なるもの」と誰かゞ名付けた愛國心の亢奮だけであつた』と喝破して第二インターナショナルの日和見主義者などもを完腐なきまでにやつつけてゐる。實にレーニンの文章も亦及ぶところではない！ 併し乍ら我が林君はそれだけを以て滿足する程のお人善し（？）ではない凡ゆるインターナショナル運動、凡ゆる社會主義運動のなすなきを潮笑してゐるのである！ 自己の墓穴を掘りつゝある現代のブルジョア階級の『痴態も固より嗤ふべきではある』が『バロメーターの示度を誤視して暴風たちどころに來襲すべしとの警報を發し、自ら風神にでもなつた積りで、風袋の底が拔けてゐることに氣の付かない社會主義者の焦燥も亦た亦憫むに堪ゆるものである』と頗る巧妙な（！）比論を以つて凡ゆる社會主義者を警めてゐる！

▲『試に思へ』！ 何故獨逸の社會民主黨は『始めて政權を掌握したる曉に、多年の主義綱領に背いて、半熟不徹底の黃化政策に甘ぜなければならなかつたか』。『何故に一九二〇年三月に於て、英國坑夫聯合會の直接行動案は……廢棄されなければならなかつたか』『何故に一九二〇年五月の……ＣＧＴの總同盟罷業が無殘なる失敗に了らなければならなかつたか。』また〳〵ある。一九二〇年九月の伊太利赤化運動の失敗勞農政府の資本主義への逆轉、三角同盟の失敗。一體これらはどうした事か？ 林君は云ふ、これは單に反政動策の結果ではなくて、社會主義者や共產主義者は『それよりもつと大きな理由を彼等自身の裡に有つてはゐなかつたか。惟ふに勞働者の大衆は社會主義の信條を未だ共實感の中に捉てゐなかつたのである』！ こゝに林君の『實感』主義が生れる！ 勞農革命はどうであつたか？ それは露國勞働者の大衆の『實感』ではなかつたか？ 癸未夫君は露國プロレタリアの共產主義的『實感』に比して歐米プロレタリアの『實感』の如何に貧弱なるかを警しめてゐるのだ！ 「飛んでもない！」と林君は云ふだらう。「露國勞働者の大衆の全てが勞農革命を逐行すべき「實感」を有してゐたのではないぢやないか？」と。そうだ、林君によると『若し形に於て彼等（社會主義運動の中心となつてゐる少數の指導者）に率ひられつゝある幾百千万のプロレタリアが眞に共指導者等と感情を等しくするならば、社會主義運動の實果は、今日吾等が見る處のものよりも、遙に〳〵多大でなければならない筈であつた」のだ！ 世の共產主義者諸君は笑ふだらう「プロレタリアの全部が自覺するならあたりまへの事だ、「遙に〳〵多大な許りぢやない、今日からだ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて『社會主義運動の實果(!)』はあがるんだ」としかし諸君よ、もしプロレタリアの中に一人の林癸未夫君型がをるとすればその人は永久に『其指導者等と感情を等しく』しないであらう！その人は永遠に反共産主義者であらう！

▲林君は云ふ、『プロレタリアを動かすもの は智識ではなくて、實感である』ところで『勞働者の日常生活に於ける實感の範圍』は主として、眼前の賃金や時間』の問題である故に勞働組合(それは『第一に其目的が勞働者の實感に直接觸れる所にあるから』)は『社會主義的思想の侵入を回避しやうとする』從つて米國では『社會主義を憎むことと資本主義に劣らざる米國勞働聯合會が生まれ、始めて(!)健全なる『Y・』發達を遂げることができた』のである?! 從つて又、トーマスのおかげで英國は三角同盟罷業による『慘憺たる階級鬪爭の渦中に投ぜ』られる危機を免かれたのである。ゴンパス君よ！、トーマス君よ！ 悲しむ勿れ、時に日本に癸未夫なきにしもあらずだ！ 『實感』主義者、林君は自己の說を直接勞働者の說によつて確なるべく五月二十發行『勞働者』掲載の一節を拔粹してゐる。即ち『勞働者には勞働者としての實感があると、だが、林君よ、我が『勞働者』の諸君の『實感』はたゞの『實感』ではない。それは食ふにパンさなくなつて見給へ、もう默つてはゐない。……ぐずぐず吐すな、やつつけろい——と云つたやうに、すべてはおしまひである』種類の『實感』なのだ！ 林君よ、君は英國三角同盟加盟者の中に或は米國勞働聯合會員の中に、この種の『實感』を有するものが皆無であつたと斷言し得るか?! 勞働者の實感によつて生れた勞働組合は更に勞働者の『實感』によつて赤色組合になつてはならぬと君は斷言し得るか? 君よ、いゝかげんに『實感』主義の假面をぬぎたまへ！

▲今や假面を剝がう。(枚數がなくなつてきたから殘念乍ら急がう) 林君によると『過去の勞働組合運動大部分は階級鬪爭ではなく單に雇傭條件の改善を目的とする』ものであつたから『之を一箇の社會現象として見るならば』『それは全く階級として利害を超越したる、個人對個人の鬪爭と看做すべきものである』(!) 從つて例へば都市に電車從業員の同盟罷業があれば『當事者以外の勞働者を含む公衆』たる『市民』の苦痛は莫大なものである。そこで『勞働組合運動の社會道德』の問題が起つてくると癸未夫君は云ふ。そしてその答へは簡單である。『勞働爭議の原因としては、非違が工場主にあらうとも、被傭者にあらうとも、彼等は何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れもそれがために爭議に無關係なる公衆の安全を危殆に陥らしむべき權利を有するものではない』又『元來公衆の立場から見れば勞資の鬪爭は私鬪(!)である』『從つて公衆の安全を尊重することが爭議當事者當然の社會道德として遵奉されなければならないのである』そうしてこの『公衆の立場から』見る標準は『眞に、公正不偏なる形態』でなければならないのだ(!)階級超越主義者、社會本位主義者人心改良主義者、『市民』主義者『公衆便所』主義者『實感』主義者たる林癸未夫君は愈々本音を吐く、曰く『現在社會は勞働者のために存しないやうに、資本のためにも存しない。……階級鬪爭の慘禍から社會自らを濟ふの途は、只各人が全體としての利益を一部の利益の上に置かねばならぬ(!)そして『勞働組合運動を階級鬪爭思想の浸潤から庇護(!)して現代社會生活の欠陥を各人の理性と愛情とによつてのみ革新しやうと志す者は、深く思ひを玆に致さなければならない』(!)かく君は結論してゐる。

▲總勘定しやう。我が林癸未夫君は『星』を伴侶とする我が賀川豐彦君よりは偉い。君は『頑迷な』國粋保存主義者の樣に露骨に反動的言辭を弄しないし、豐彦君の如き勞働者それ自身を侮辱する樣な『勞働者崇拜論』をも高唱しない。君の新案特許『實感』論は遙に右二つより偉れてゐる。全く之は君の實感だらう! 君は勞働者の『實感』でスタートを切り『過去勞働組合』を巧妙に踏み越え、直ちに勞資超越の絶體境に悟入して、中央公論卷頭に納つてゐるのだ! そして眞のプロレタリアの『實感』がどうあらうとそれは幾百千万のプロレタリアの『實感』でないとして嘲笑してゐるのだ! 新案特許『紳士閥御用學者用勞資協調鼓吹新戰術』の正體依而如件。(日野樹)

新進戲曲作家總評(一)

『ふたば集』第三卷嫩會同人編

この總評は、近時四方八面から、我も〳〵と無暗やたらに名乘りを擧げて罷り出た夥だしい戲曲作家の群を、片つ端から吟味して行ふとするものである。若芽のやうな勢ひを以つて現はれ出た新しい若い作家達が果して新しいゼネレーションを作つてゐるものであるかどうか、亦、それを作るに足るだけの熱と力と意味とを持てゐるものであるかどうか、以下手近に眼に觸れた戲曲から、順次、これ等のことを検討してゆきたい。(洋文、孝丸)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『ふたば集』（第三卷）

岡本綺堂門下の嫩會同人十名を悉く網羅して、各々『いまだ一度も世間へ發表されなかつた』然しながら『皆相應の自信』を持てゐる新作を一編づゝ提出して編んだのがこの一卷である。從つて、この會の同人全體の作品を一擧に吟味するには、この一卷は最も便利な、或ひは最も適當なものである。

『虛無の果』――新原爽亘。

全くなつてゐない。何かあり相に見せやうとして、その實何もない。恐ろしい見掛倒しの戯曲である。愚劣といふより外に云ひやうがない。黃色い菓子粉をふんだんに投り込んで、色だけやたら滅法黃色くして　その雞卵も牛乳も少しも這入つてゐない粗惡な大道のアイスクリームを喰はされたやうな感じだ。批評のしやうがない。

『山本勘助』――額田六福。

喜劇となつてゐる。なる程單なる一個の喜劇として、喜劇を唯「笑ふ劇」として、ぽかんと見てゐるならば、これは如何にも面白いものに異ひないが全體として、この喜劇は吾々に笑ひのかはりに憤りを與へる。それも、作そのものに對する憤りではなく、作者の態度に對する憤りである。即ち作者は、主人公の山本勘助――彼は跛で目つかちである――をカリカチユアライズするよりも以上に、村の民衆を飜弄してゐる。作者は、一個の「英雄」勘助と共に、民衆の無智を嗤つてゐる。

それが本當の喜劇である限り（過去の日本に現はれた數多くの所謂喜劇はてんで問題でない）唯人間の無智に起因する誤謬や、シムメトリーを缺いたところから起る滑稽さなどを描いて、笑ひの飽滿病を起させればそれで良いのではない。自分は、本當の喜劇にこそ、本當の民衆の演劇をより多く期待出來ると思つてゐる。チエホフの或るものを見るが良い。モリエールの或るものを見るが良い。

要するに額田君の『山本勘助』は、過去の時代に屬すべき寧ろ封建時代に屬すべき戯曲である。いつそ默阿彌式に、『不具者之譽甲斐之旗擧』とでもして、『何某之丈』のために書き下ろしとでもした方が、作者のために安全であつたらう。額田君ともあらうもの、眼先の見えないこと夥だしい哉だ。

『場末の春』――中野實。

聊か、とつて附けたやうな箇所がないでもないが、全體としては先づ無難に近い方であり、人生に對する作者の眼

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

もかなり正確であると云へる。が作者の態度には、實に飽き足らないものがある。人生の悲慘事、不合理に對して、作者はたゞ「咏嘆」してゐる。其處には何らの憤りも何らの反抗もない。全體のセンテイメンタルな（或ひはヒステリカルな）調子と云ひ、咏嘆的な調子と云ひ、何處となく、吉田絃二郎の小說を脚色したら、こんなものが出來やうかといふやうな感じを起させる。

人生の不合理や不條理を見て、唯これを如實に描き出すならば、それは必ずしも惡いとはいへない然し作者がその蔭に在つて、徒らに咏嘆してゐるのを見ると、これを鞭達して奮起せしむるよりも、先づその意久地ない面に唾したくなる。

『北國夜話』――中島俊雄。

讀み終つて、たゞ『オヤ〳〵』と嘆聲を洩らすのみ。この作の根本的缺陷は「藝術」といふものに對して、作者が全然アナクロナウスな解釋を下してゐることとた。名人氣質といふものを描くのが惡いといふのではない。が、この戯曲の主人公面作師の藝術に對する熱も、全く附け燒き刄の熱であり、「女の誇り」といふものに對する宮司の娘の言葉も、唯空虛そのものである。要するに愚作といふの外はない。何のために、こんなくだらないものを眞劍になつて書いたのだか、作者の心が分り兼ねる。こんなものを書いて、『相應の自信』を持つてゐられるのなら、全く天下泰平だ。

『手帳』――柳田顯道。

これ又、何處から何處まで、何一つ取柄のない、愚劣そのものゝ標本である。新聞記者と貴族との、長たらしい退屈至極な會話の强續――さうだ連續ではなくて强續だ――の外に、一體何があるか。現代に生を享けてゐる青年でありながら（この作者も恐らく青年だらう）わざ〳〵こんな材料を捉えて來て、こんなぐうたらな書き方をする作者は、幸ひであると羨むべきか、不幸であると憫むべきか、自分は知らない。

『われから』――海野昌平。

ルイ朝時代の佛蘭西に於ける宮廷貴族の言語同斷な享樂生活――それと好個の對照をなすものは、日本の王朝時代の公卿貴族の生活である。彼等の享樂生活を描かうとならば、作者が作者の生きてゐる時代と、取材との關係を明確にしてこそ意味がある。即ち其處に、作者の正確な批評が行なはれてゐなければならない。この意味に於て、この戯曲は全くノンセンスである。近衞の中將、上臈、殿番の衞

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

士、これだけの登場人物と、二三の會話とを見れば、この作の無意義なものであることが直ちに了解出來る。

『精靈舟』――小林宗吉。

ちよつと面白いものだか、主人公の漁師豊吉が、アテイストのやうでもあり、さうなやうでもあり、其處のところのケジメがついてゐないのが飽き足らない。無理にケジメを附ける必要はないと云ふかも知れないが、第一これ程な內容を(內容は實に良いものだ。)何故こんな風にぼかしにかけるのか。折角の良い內容が死んで了つてゐる。寧ろ直截に眞向から描いた方が、遙かに効果があつた筈である。この戯曲の中へ出て來る人物の全てに、自分は好感を持つことが出來る。先祖の位牌を入質して米に替えるなど、それが偶像崇拜から一歩も拔け切れてゐない無智な漁師の仕業であるだけ、それだけ凄い感じを起させる。唯繰り返へして云ふ、作者は確に表現の仕方を誤つた。けれども、この短い一篇は、本集中の他のいづれのものよりも、優れたところを持つてゐることだけは事實た。この作名の今後のものに多少の期待を掛けておきたい。

『明石の巻』――大村喜代子。

その量に於て、その大掛りな點に於て、本集中最も雄なるものであらう。源氏物語の中の明石の巻に材を取つたものである。正直のところ、自分は最初、かなりの期待を以てこの作に臨んだのだ。この作者のものは、ずつと前の『女性日本人』に出た『花束』といふのを讀んだことがあるが、新派の中の最も甘い最も愚劣なものよりも以上に甘いものであり愚劣なものであるに驚いたものだ。然るにその作者のものに何故期待を以て臨んだかと云へば、取材が取材であるだけに、そして作者が女性であるだけに、「女」を奴隷以上に思はず、「女」を性慾の放散器以上に扱はない「源氏の君」に對して、所謂目覺めた現代の女性が、如何に反叛の精神を見せてゐるかといふことに興味を惹いたからである。ところがこの期待は、古い言葉だが、見事に裏切られた。其處には何の新し味も、何の反抗もなかつた。それどころか、作者は稀代の淫蕩貴族「源氏の君」に媚をさえ呈してゐる。こんなくだらない頭をした女性が、最高學府を出た新しい時代の婦人であり、この女性を生んだことを母校の名譽の如く心得て、目白の學生共が大騒ぎをして臍ぎ廻つてゐる以上、一方に幾ら、「女性の奴隷的境遇よりの解放」「暴君男性に對する反叛」を叫ぶものがあつても、前途は轉た遠い哉と思はざるを得ない。

喜代子夫人に白す。こんなものをせつせと書いてゐる暇があつたら、君の手近な周圍に、如何に多くの君の同性が虐げられ辱しめられてゐるかを、もつと眼を明けて見給え

『寂寥の國』――菊岡進一郎。

新劇に對する菊岡君の抱負と研究とは時折り人傳てに聞き及んでゐる。モダウエルのあの大部分な『今日の劇場』をコクメイに譯出した程斯界の篤學者であることも知つてゐる。が不幸にして自分は、君の劇作の實際方面には今日まで接してゐない。本集のこの戯曲が自分にとつては最初のものである。そしてその最初のものを拜見するに致つて、自分は君の遺憾なきマンネリズムに遭遇したものである。然り、この戯曲は、マンネリズムそのものである。敢て云ふならば、この種の材料を描いたものゝ中で菊地寛や、久米正雄のものよりも巧みである。がたゞそれだけである。實のところ、前半を讀んでゐるうちには、「死」といふ一個の否定出來ない人生の事實に向つて、主人公達の氣持がどう動くか、それに對して作者の氣持がどんな風に働きかけるか、さういふことにかなりの興味を抱いてゐたのだ。が讀み終つて失望したのは、看板にこけをどされて、早計にも中味を信じやうとした自分の不明の致すところであつてこの作者の罪でないこと無論である。作者はそんな眞見なことを思ひ詰めてゐたのでもなんでもなく、唯ちよつと、放蕩者に同情を寄せて見たゞけのことである。それにも拘らずこの作中から嚴粛な「死」の問題を捉まふとした自分が耻かしい。そしてこの作を眞面目に批評することも耻かしい！

『果し合ひ』――森田信義。

形式や、筋の運び方などには、何處となくストリンドベルヒを想はせるやうなところがある讀んでゆくうちに、一種の不安と凄味とを起させられるやうな點など、特にさうである。然し茲で自分がストリンドベルヒを引き合ひに出したのは、單に技巧の上からだけである。ところがこの戯曲の技巧上の生命は、この不安と凄味とを以て、讀者を(若くは觀衆を)ぐん／＼引つ張つて行く所に存してゐるのだが、實は少し頭の良い讀者若くは觀衆なら、又多少でも科學的な頭をしてゐるものなら、この戯曲のヤマは、最初の方の恂造の臺辭ですぐ分につて了ふ。

そこで、この作の中心思想はといふに、それは一言にして云ふならば、理智と感情の闘ひである。然も作者はそのいづれにも軍扇を擧げてゐない。作者は未解決のまゝで投り

出してゐる、事實作者には解決出來ないのだ。解決すべく聊か問題の方が勝ち過ぎてゐるのだ。然しそれはそれで良い。戯曲の提出した問題が、その戯曲によつて解決されねばならぬといふ理窟は毫もない。人物はみんな相當に生きてゐる。しづ子の度外れたヒステリカルな調子も、この戯曲としては決して不自然ではない。先づ大體に於て無難な作と云へやう。

以上で本集中の作は全部盡きたのだが、自分はこの十人の作者の中から、多少でも未來を期待し得るものに、小林中野・森田・の僅かに三君しか見出し得なかつたことを自分ながら情けなく思ふ。全體として、吾々の期待すべき若い人々が、吾々に用のない過去時代の老朽作家達の若い頃の作よりも遙かに時代遲れであり、遙かに劣つたものであることを云つておきたい。然も老朽作家達の若い頃よりも今日の時代の方が、現實は遙かに動いてゐるのだ。(孝丸)

『明石の巻』――大村嘉代子。

『思へぎ都住ひの人間のあはれさよ、彼等は控ぢや道ぢやと樣々の柵をつくつて、我が魂を我としひたげて苦しんでゐる、彼等は自然の美しさを知らぬのぢや、わが本來の魂の尊さを知らのぬぢや』から言つて田舍女のもしほを愛した蕩兒源氏が、もしほが、戀の一徹から許婚を殺したのを見て『今まで尊しと見た本來の心にも人間の醜さがあつた』と言つて都へ歸つて行く――全くいゝ氣なものである、この哲學を作者が大發見のやうに見せびらかしてゐる、そして源氏のやり方に一々御最な理窟をつけてゐる、全く冷汗ものである。

四五年前左團次の懸賞脚本に應募した時分僕などもこれに類似した哲學をのべたてゝ得意がつたものだ、今この脚本を見て、その昔を思出して、我ながらぞつとした、全くありがたくない脚本である。

『寂寥の國』――菊岡進一郎。

菊岡君、いかんながらこの作は駄目だ、溫泉の女中がやつて來て心中話のあつたことを話す、そこで男は急に死ぬのがいやになる、これは新劇の第一次方程式だこれでは全く批評のしようがない、ぐん／＼讀ませる簡潔で精彩な筆を持つてゐる君が、こんな淺いものを書くなんて少し情けない。これぢや菊地寛の溫泉場小景を笑へないよ。

『果し合ひ』――森田信義。

らい病に苦しめられてゐる一家の悲劇である、而し悲劇

の表現として少し饒舌に過ぎてゐる。だから重苦しい事件であり乍ら脅迫される何物もない。それに非常に無理がある。これ等の缺點は微細な心理を洞案する力の不足から生じてゐる。絶望の父、醫學上の立場から一歩も出ることの出來ない兄、結婚が出來ないために自殺する娘、――あまりに型にはまりすぎてゐる。そして作者はます／＼型にはめやうとして努力したやうに思はれる。この作者は堅實でうはついたところがない、それに一生懸命である。今の境地を飛越えることが出來たらいゝ作品を書くかも知れない、かういふ作品は平凡で、ありふれて僕等には少しくあきがきてゐる。

『山本勘助』――額田六福

實に達者である、一氣に讀ませる、なか／＼うまいものだ、而し結局新劇ではなくて舊劇である、見てゐる時は笑つても、後にがつかりする作品である。

『場末の春』――中野實。

この作者はきつと若い人だらう、ひどくセンチメンタルだ、而し今によくなるだらう。この作品なども、感傷にボヤされないでもつと深く見ることが出來たら、一寸澁い味のいゝ戯曲となつたに違ひない、たゞリアリズムに墮す氣味があるのが、この作者の將來に對して一番危い點だと思ふ。

『手帳』――柳田顯道。

洒れたかはつた(但し日本だけのことで)作品である。主人は全く失敗だが、記者がなか／＼面白くかけてゐる小間使との會話なんかうまいものだ。

が、結局それだけだ、作者はこの作品で作者の才を我々に見せたに過ぎない結果に陷入つてゐる。一つの事件を(令孃の家出)遙かに黑幕に隔てておいて、記者と主人の微細な心理を表現せうとしたものらしいが、それが半ば才の自由な使驅に墮してゐる。

この作者は一番未來あるやうに思はれるが、一番あぶない作者である、大きな問題に正面から取組んで行くことを心掛けるといゝと思ふ。

『精靈舟』――小林宗吉

面白い題材ではあるが、人物をはつきりつかんでゐない爲に、存在がうすい感がする。豐吉が見る父の精靈は少しおかしい、一體に表現に舊劇臭味があつて、材料の新味まで失つてゐる傾がある。(洋文)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

才人佐野袈裟美君の小説

――熱風五、六號所載――

私が佐野袈裟美君の小説を見るのは、これがはじめてである。或は處女作ではないのかも知れないが、私はこれを佐野君の處女作と思つて讀んだ。

六月號熱風所載の小説「暗い海」も七月號同誌所載の劇「猛火」も、要するに場面こそ變りがあるけれど、人物の性格は同一人物である。だから私はこの二個の作品を一緒にして、私の思つただけのことを言はせて貰はう。

作者がこの作品のなかで言はうとしてゐることは、明瞭すぎる程に適確に語られてゐる。それだけに藝術品としては、小さく纒まり過ぎて終つたそして作品を讀み終つた。後に、讀者の頭に印象されるものは、作者の主義主張であつて、藝術品としての餘情が少しも殘らない（但しこれは作者に言はせれば、そんなことは何うでもいいことであるかも知れないのだが）。だから藝術品としてよりも、一個の理論を聞かせられたやうに、讀者の頭には響く。佐野君の作には、聰明な理知が感情を押殺して終つてゐる恨みがある。

丁度それは、吾々がアナトル・フランスの諸作に、接した時と同様の感じであると云ひたい。

「暗い海」の主人公純一は、何處までも自分の氣の儘に直ぐに進んで行く進んで行きながらも、決してそれは盲目的に進んでゐるのでないことが感ぜられる。果して彼は最後になつて、女だけを殺して遁げて終つた。そして其後と雖も決して彼は、遁げ得られる限りは遁げ廻つて、決して彼は自ら死ぬやうなことはあるまい、と云ふ觀念を吾々讀者の胸に抱かせる。それと同じやうに「猛火」のなかの主人公眞次に就ても、同樣のことが思はれる。この劇の最後に至つて主人公は女を押倒すところで幕切れになつてはゐるがこれが今暫らく續いたとしても、主人公の眞次は決して死なない、と云ふ安心の疑ひを吾々に抱かせる。彼は家を燒き、女を殺した後で、やはり純一と同樣に、自分だけは猛火を潜つて遁げ出すに相違ない。純一にしろ眞次にしろ、自分達に對する征服階級の滅亡に殉死する程に、お芽出度く出來てゐないと云ふことを思はせる。

この觀念――思想――想像を讀者の胸に植えつけるだけでも、「暗い海」や「猛火」は新興藝術として存在の意氣あることを思ふ。然し私の欲する所は、もつと蹈え立つやうな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

感情の動亂が欲しかつた巧みに纏められ、作者の主張は、はつきりと感ぜられるにしても。それは理詰で押されて行くのであつて、感情方面からは動かされて來ない恨みがある。

しかし私は佐野君の生活のなかに流れてゐる、「生命力」の脉搏を、この二個の創作によつて感得することが出來たのを喜ぶよしその流れは未だ小さく、脉搏は未だ微弱ではあつても、軈ては大きく強く、鳴り響くであらうことを信ずるから。

理智の皿に感情を盛つて、巧妙に料理するのはよい。然しその皿に盛られたものの熱を、その料理によつて冷すことには、私は贊成でき難い。何故なら、私は藝術には、理路の明晰よりも、感情の熱化を求めるからである。（三郎生）

人道主義の藝術と惡魔主義の藝術

——再び有島武郎谷崎潤一郎兩氏の藝術を評す——

人道或はそこから生れる「理想」の感激や觀念は、實際、高貴なものであり、貴族的である人道に依つて高くエレヴートされた感激の生活、高貴なイデーの世界の生活、それが藝術の世界の生活であると考へる事に、必ずしも反對するものではないが理想や觀念は、畢竟するに生活に取つて一種の偶像である。偶像は生活を硬化させるものである。個人を殺すものである。嘗て人類は斯うした理想や觀念の要求から、生活の偶像即「神」を造つた。そして、如何に多くの個人の生活が、この神の奴隷となり犠牲となつて、殺され來つたか？ 人間は自らその理想や觀念に依つて神を造り、そして自らその神の奴隷となつた！ 而もその神を造る最初の目的は、自らがその神の奴隷たるべくして造つたのではなく、各自がその現實の生活に役立たせんが爲めであつた。然るに、何故に彼は神の奴隷となつたか？ それは彼がその理想觀念を偶像として硬化させたからである

吾々は理想や觀念を現實の生活から遊離させて、それを「神」として硬化させて持つて居る事に、何等の意味をも感じ得られない。若し人間が生活の便宜上、神と呼ばるべきものを造つたとしたならば、その「神」の意義は、吾々がそれに仕奉することに在るのではなく、それを吾々の生活に奉仕させる事に在るのでなければならない。そして、吾々が神を生活に奉仕させた場合に、それが吾々の生活に役立たなくなつたならば、吾々は速かにそれを拋棄すべきである。神の死滅である。理想の破滅である。偶像の毀壞であ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。

人道主義者、理想主義者の生活が、近代的色調を濃厚にし、深刻にし、昂上して行けば個人主義、現實主義が、生活の特色となつて來る。そして個人主義、現實主義の生活を徹底させようとする者は、誰れでも、さうした近代的な個人主義、現實主義の生活徹底を許さない實現の社會、制度乃道德と、必ず衝突を成し、鬪爭を起さずには居られないであらう。それは、吾々の現在の文化乃至制度は元、貴族が「神に奉仕する」生活を最も好い生活であると考へたその精神に依つて造られた文化乃至制度の硬化したものであるからである。現在の資本主義制度は、實にこの貴族文化の最も極端に硬化した最後の拔け殼である。現代に於て、資本或は金は、實にこの神の變形である。金が神に代つて、今、生活の至上權を握つて居るのである。近代生活に於けるインデイヴイジユアリズム(或はパーソナリズム)、リアリズムは、必然的に、現代の資本主義と反撥する。この近代的リアリズムとキヤピタリズムとの鬪爭、近代的個人主義とコンマシヤリズマとの衝突、そこから吾々のリアズムの文藝、社會文藝は生れる。

併し、このリアリズムの精神が現實の社會に容れられなければ、その生活は革命の形式を取るか、デカダンの形式に出でるか、どちらかである。が併し、多くの文藝家、藝術家は實行能力に於て缺けて居る。そして革命は最も實行的なものである。故に、多くの藝術家は革命の道を取らずに、デカタンの道を行く樣になるのである。實行家を以て任ずる者は革命の方へ行き藝術家を以て任ずる者は藝術の方へ行くが好い併し、如何に藝術の方へ進みたくも、藝術をやるには生活にそれ丈の餘裕を持たなければならない。だから生活に保障のある有島氏の如きは、デカタンの藝術家たる傾向と可能性とを多分に持つて居るものと云はなければならない。生活に保障のない者は、落着いて、藝術の世界に遊んで居られない不安と焦燥を持つと云つて、革命は藝術よりも一層大事業である。空つ手で出來るものではない。資金を要する。何うしてその資金を生み出すか?元々、資金が十分あれば革命よりも藝術の方が安全だからその方へ行く。愈々金が得られなければ、危險安全の坂を通り越して、或る者はバクーニンの樣に革命に急ぎ或る者はドストイエフスキーの樣に藝術に專念するであらう。こゝ迄來れば、もう理窟ではない。「必要」が最後の審判である。必要だから革命をやり、或は藝術を製作すると云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

事になるのである。同じくリアリズムの道を歩むにしても藝術は貴族的であり革命は平民的である。貴族的な有島氏がその貴族的傾向をリアリズムに徹底させれば、矢張りデカタンの藝術家たるより外はあるまい。

若し谷崎氏に就て云ふならば、谷崎氏のニヒリズムは慥かに革命的であり、その悪魔主義は慥かに平民的であつて頗る僕等無產者の氣持に近い所があるが、何としても、あの藝術至上主義の殿堂——象牙の塔とか云はれる所に閉ぢ籠つて居たんでは、人間としての谷崎氏はさうでもないが藝術家として氏には、一寸近寄れない樣な氣がする。悪魔主義は實に好いが、折角の悪魔も、象牙の塔から出て來たロマンティックな悪魔と、この現實の社會制度を背景にして出て來たリアリスティックな悪魔とは、その性質に於て力强さに於て大變な相違がある。

谷崎氏のニヒリズムがもつと現實的なものになると、ブルジョア文化の否定と云ふ事になり、それが一層積極的なものになると、資本主義制度の破壞にまで行かなければ收らなくなる。そしてそのニヒリズムが無產階級のものである時その悪魔主義は、ブルジョア或はブルジョア文化に對して、慘忍、酷薄、無情、冷嚴なものとなつて、非常な創造力と魅力とを持つ樣になるであらう。

只、漠然、悪魔主義と云つた所で、それは相對的な意味を持つて居るから、海のものとも陸のものとも付かない正體の曖昧なものである。プロレタリアから云へば、ブルジョア程悪魔的なものはない。勞働者から云へば資本家ほど悪魔的なものはない。寧ろ、現代に於ては、漠然、悪魔主義と云へば、資本主義のことであると云つても好い位なものである。資本家は勞働者の生血を搾り取る悪魔である。その意味に於て、悪魔主義の藝術は即資本主義の藝術である。僕等はブルジョア文化に對するニヒリズムと、ブルジョア制度に對する復讐的悪魔主義を要求するブルジョアの悪魔主義は、是迄でも、現在でも、多過ぎる位有るが、プロレタリアの悪魔主義は缺けて居る。非常に缺けて居る。僕等はプロレタリアの悪魔主義を要求する。

悪魔主義は決して悪魔的なものでも何でもない。今のブルジョア社會に於て、ブルジョア文化、ブルジョア道德、ブルジョア制度——兎に角、支配階級たるブルジョアの生活意識感情に反いた事をやれば、それは悉く悪魔的行爲とされる。それ故に、○○はブルジョアに對する大叛逆の罪

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

として問はれる。併し、それは、プロレタリアとしては、當り前の事をしたと云ふに過ぎないのである。今のプロレタリアが、人間としてどんな當り前の事をしても、それはブルジョアから惡德として排斥されるであらう、だから、プロレタリアが、今の所、人間として正當に生きるが爲めには、如何んとしても、惡魔主義の生活に據らざるを得ないのである。藝術も亦この惡魔主義から發生する。惡魔主義は、畢竟、時代に對する叛逆主義である。革命主義である。

谷崎氏が若し無産階級の立場から藝術を製作することを是認し、そしてそれを可能とするならば、今度は、この意味の惡魔主義が氏の藝術のモツトーとなるであらう。(光造)

唯一の女流作家

――村の反逆者を讀む――

こゝに三人のすぐれた女流作家がゐる、一葉、俊子、市子――と、僕が批評家で近代女流作家論をやるなら先づ冒頭にかう書くこの三人の內一葉は死んでゐない、俊子は啞になつたボーカリストだ、たゞ神近市子のみ吾々に多くの期待と樂しみを與へる。

日本の批評家は馬鹿だ、そろひもそろつて馬鹿だ、彼等は一人だつてすぐれた作家を見出したことがない、彼等は武者を罵つた、そして今では武者に一も二もなく頭を下げる、淳の技巧が何うの、寛のテーマが何うの、彼等はあきもしないで同じことを繰返してゐる。

日本で一番幼稚な作家は寛だ、彼はテーマがなければ小說も戲曲も書けない、人生は無制限だが、いかんながらテーマには制限がある、今や寛のテーマは品切となつた「改造の岩見重太郎」がその證據だ、洋行がその證據だ、彼は外國にテーマを探しに行かうとしてゐるのだ。

里見淳ほど技巧の下手な作家がない、その理由は說明が出來ない、感ずることの出來る人にだけ、彼がまづい技巧の作家であることが首肯される、彼に依つて表現されたものは殆んど歪である、彼には自然性が理解されてない、人生の一部分しか消化されてゐない、だから彼の藝術は不具である、屋上が堂々として土臺ができたらめである。

彼は實に少しか持つてゐない、その少しを正直に吐き出してゐると、彼も獨立した一個の泉であるかも知れない、だが彼はさうはしない、彼は手品を使ふのである、手品に

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

依つて愚かな批評家の眼を眩惑するのである。手品は藝術の表現とはならない。それは最も幼稚で愚かしき技巧である。

神近市子に對して多辯饒舌な日本の批評家は實におとなしく沈默を守つてゐる、これが女性に對する彼等の禮儀かも知れない。なる程、彼等がお世辭をならべるには市子の藝術は冷たく見える（冷たい女程面白くないものはない）そこで彼等はもつと若い、感傷的な女流作家や女流詩人、歌人をさわぎたてる、その方が賑かで、色氣があつて面白いのである。

「村の反逆者」にはいつてゐる七篇の作品の內、戲曲の「夜の謎」が一番好きだ、（長篇の村の反逆者はまだ讀んでゐない）囚人の生活を書いたものである。この戲曲は非常に宗敎的であるが、嗅味はない、人生に對する熱愛、なやましい生活に於ける人間同志の結び合ふ魂の深さ、闇に輝いてゐる光――さうした作者の思想感情を語つたものであるが倉田百三の戲曲に見る、感傷的な人類愛や、誇張された昂奮は少しもない。

この作品には概念的な描寫は少しもない、此の種の作品に見る監獄の取締や監部長などは大抵惡人なものであるがこの戲曲では、何れも優しい心を持つた思ひやりの深い人のみである、ことに藤田といふ監部長の、久野といふ女に對する批評をきいてゐると、いろ〳〵な意味で一寸頭が下るやうな氣がする。

佐々木の話に依るとこの戲曲は作者の處女作であるといふことだが、約束の多い戲曲を少しも破綻を見せないでこれまで表現したことは、一つのおどろきである。作者の明晰な心の注意が、隅から隅まで行屆いてゐる、微細な心理の動き方が簡潔な言葉でたくみに表現されてゐる。

全くたくみである、而しそれは名譽であつて不名譽ではない、深い表現のたくみは、作者の感情が純粹に燃え上心が隅から隅まで行きとゞいたときに於てのみ遂げられるものである。舞臺の結果から考へてもこの戲曲は、日本で珍らしい程、靜かな面白い戲曲である。寛の幼稚な寫實の戲曲や百三の淺薄な戲曲が盛んに上演される今日、にの戲曲が無視されてゐることは實に奇怪である。日本の新劇の人々も餘りに迂遠だ。

この戲曲は（作者のあの事件だなと思はせる）事實の興味をひくと同時にそこに缺點がある、先づ信子の入獄の顚末がほんのり匂つてゐるだけで、それ以上はつきりしない、

これはこの戯曲とは深い交渉がないのだからいゝとして、信子が藤田と話す、××事件は、ある人には、よくわかりきつたことで、ハ　アと思せるか、ある人々には全く文字通り××である、これは戯曲の核心と沒交渉であるとは言へ、その會話がはつきりしないといふことは、大きなきづである。この缺點は恐らく作者にもはつきりわかつてゐることだらうが、冗漫を恐れて、くわしく說明することか出來なかつたのだらう。

小說では「野之村行」や「雄阿寒おろし」が面白かつた、作者の熱情と、明晰から來る觀念の冷たさが、はつきりはいつてきて氣持よかつた。「ある鼻の改造」は面白くない。

この作者に對して自分はもつと澤山言ひたいのだが、今は暑い、この作者は秋にふさはしい作者だ。（洋文）

地平社と四十年社

「――星製藥樓上――」

地平社の展覽會は、死んだ高間筆子氏の遺作を陳列されたので、重にその方を見るのを目的として行つてみた。

他の同人諸氏には、佐竹德次郞、和田垣良雄、關口隆嗣の諸氏などがあるが、其他殆んど見るべき人がない。此處にあげた數氏の如きのは、兎に角上手いには相違ないが、何となく人の心をひく力の乏しいのは何うしたものか例をひくならば、關口氏の「臺灣スケツチ」、「赤屋根の學校」、「午後の日をうけた丘」など、上手いとは思ふが、それもさう思ふだけで、栓を拔いてから二時間も三時間もたつたビールのやうに、シユツ〳〵と沸きかへる熱と泡がない。日本の畫家の大部分が陷つてゐる弱點だが、此處から一步脫出しなければ駄目だと思はれる。

高間氏の遺作は、全部で五十點程も集められてゐた。それ等の作品を、ずつと最後まで廻つて來で見ると、男子連の繪が酷く見劣りするのに驚く。それかと言つて、高間氏の繪が、日本畫壇の驚異といふのでは勿論ない。彼女の作品は總べてが未成品のやうだ僕は先頃、朱葉會の批評を書いた中で、矢張り高間氏の繪が他の出品者達のよりも勝れてゐたこと、但し未完成の人であるが故に、未來を待ち度いことなどを書いたが、此處に列べられた繪を見ても、矢張りそんなやうな感じがした。が、自からの意志で死んで終つて見れば、惜しいとは思ひながらも、それまでの人だつたなと思ふより仕方がなくなつて來る。彼女の繪は、淸澄な、大膽な、多少痛快な感じがした。けれども、色彩は

餘りに生で、運筆は時々當て欲つてゐない。「女の習作」などを見ると、こんな氣持でゐたら矢張り生きてゐられなかつたゞらう。死ぬより他に道がなかつたゞらうと思はせる節があるのは事實だ。僕は、數點のデッサンが一番好きであつた。

× × ×

地平社とは違つて、四十年社の方は多少見るべきものがあるだらうと思つてゐた。ところが、その期待が可なりなものであつたせいか、實際のところ酷くがつかりして終つた。

全體としての感じは、萬氏などを別にしては、その餘りに僕等の氣持と緣遠いことである。それは舊藝術の概念やら、それでなくとも自分の腕に引きづられて、彼方へ行つたり、此方へ來たり、ぐる／＼とどお／＼廻りをしてゐる様子、それは何と言つても動かせない事實だ。もう此處まで來れば、後は頭の問題だ。人間の問題だいとふ氣がする殊に片多氏などでは、その感が深い。氏などは、繪筆にかぢりついてばかりゐないで、もう人間を作ることに努力すべきだと思はれる。

全體の批評はこれ位ゐにして、個々の批評に移る。

神津港人氏では、滯歐中の繪五點があるが、氏などの繪を見てつく／＼思ふことは、何うも藝術家としての素質の問題にまで及ばねば解決がつかないやうな氣がする。繪に嫌味はないが、見方が淺薄で、一番概然的だ。

金澤重治氏では、技巧が達者で、相當に努力してゐながら、感じが枯渇してゐて、かさ／＼してゐる。

萬鐵五郎氏では、「桑柴行人」、「對話」、「はねつるべ」、「月」をとる。所謂日本畫の上手い人は多いだらうが、この數點は又面白いものである。「砂丘の家」や「桃」は何うも着色が氣になる。兎に角、この中では、異論もあるだらうが氏のものが一番好きだ。油繪三點では、「桑の芽」をとる。

片多德郎氏では、――氏も所謂日本畫を物してゐるが、「春雨渡頭」など、成程器用には相違ないが、器用以上に出でないもので、何うも感服しない。

矢張り油の筆をとらすれば上手いものだとは思ふが、氏のこの頃の作品は、何う考へてみても邪道に陷り込んでゐるやうだ。技巧の極北に行つて、思想のどんづまりに墮してゐるかと思はれる。此處まで來れば、もう何うにも仕樣がないだらう。一度繪筆を捨てゝ見るのも一案かも知れない。牡丹の花は紙のやうであり、叩けばかん／＼音がしさ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うだ。

佐藤哲三郎・清原重一、大江九二太郎の諸氏のものは、あまいといふの外何物もない。

熊岡美彦氏では、總べての繪に、牧野虎雄氏の模倣のあとが歴然として見えるのは先づ第一の難だ。その模倣にしてもが、牧野氏よりも遙かに下手い。「漁村の午後」などを見ると、意識的にやつたところは仲々上手く牧野ばりに出來てゐるが、船尾の太陽に當つたところなど、無意識でやつたらしい部分など、ちぐはぐで直ぐ繪を描かれた動機までが眼について厭になつて來る。強いて、好きな繪をあげれば氏の生地である「子供」であらう。

三國久、御厨純一氏の繪については、何も言ふことがない。（弘二）

映畫『人生の行路』

――金春館上映――

『なんだか大に騷いで見たくなつてきた！』一見冷たい理智そのものゝやうに思はれる正俊がめつたにないこと昂奮してから言つた。

『大に騷がう！』

騷ぐと言つたところで、お互ひに金のないことがわかつてゐるから、孝丸は噴笑しさうにして應じた私は默々として二人の間に狹つてゐた。

銀座の夜店は歸支度をはじめて、人影もまばらになつた初夏の夜、ビヤホールから出て來た三人はその時、ぶらりと巷に立てる者、であつた。それは六月一日、『人生の行路』を觀てから、その映畫に依つて誘はれた感激が醒めきらず、かへつてめい〳〵の心持には生ビールの簿い醉ひに曝發を要求する或るものが呼び起されたからである。

とにかく、最近私はかなり名映畫なるものに接したけれどもこれと言つて、自分の心持にしつくりと溶け合ふものがなかつた。今、批評を書かうとする私に、『人生の行路』を觀た夜の印象だけが、他からぬきんでゝ幾らか鮮に浮き出して來たのは、それだけ自分等無産者の胸に喰ひ込むなにものかゞあつたのだと言ひ得るではないか。

原作者、トムギヤロン氏は、『人生は泡沫の如し』と言つたのであるかも知れない。しかし、映畫そのものは、たゞそれだけのものではない。最つと深い内容を持つ。

或る場末の木賃宿に、漂然と姿をあらはした、ヒラリートルフレイカイトは、『人生は泡沫の如し』と觀じた敢果な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さと、淋しさから作者が産んだ浮浪漢そのものであるかも知れないが、私達には、虐げられた者、世に入れられない者、が曳いてゐる暗い淋しさとして非常な興味を惹かれたのである。

漂然とあらはれたカイトは、先づ木賃宿にごろ〳〵してゐるあぶれ者たちに對して、猛然と何ものにも屈しない强さを見せる。何時の場合でも餘裕綽々とした、征服者そのもの丶姿である。人生の行路に横はるどんな障害でも、彼の鐵腕に依つて打ちひしがれ、彼が生れつきの賢しさに依つて、わけなく乘り超えることが出來るやうに見える、彼にとつて欲して得られない何ものもない彼は生きることに如何なる場合でも束縛を感じてはゐない。彼が眠る時、大空は彼を保護する屋根であり、草原はあたゝかい寢床であるやうに見える。

映畫の最初、私たちも、此のカイトのやうに自由と解放の境地に餘裕綽々と生き得られたらと思はないではゐられなかつた。少くとも、彼は最初幸福者であつた。自分の行爲に惡なるものを意識してゐなかつた。自然そのもの丶如く生一本な、純一な、感情は少しも害はれてゐない。私がつねにプロレタリヤに見出す神そのものだ。

しかし、彼が、クリスピン卿の一人息子ヒルデブランドとなりすまして、その家に乘り込んでクリスピン卿の姪、ナンシイ嬢に接してから、人間が人間として見出す美にすつかり打たれてしまつた。

ナンシイ孃には既に婚約者がゐる。カイトは最初からそれを知つてゐた、それだから、彼の純一さでは、それより一歩進んで戀の勝利者にならうとする欲求の狂ひのまに〳〵行動することが出來なかつた。相手には婚約者がゐるそれは絶對である。だからその美の前にひざまじくより仕方がなかつた。

此の場面まで來て、カイトの本來の正體があきらかになつた。彼は生れながらの自由兒といふよりも、虐げられた者の通有性を持つた、放浪兒であつたのである。

カイトが戀に執すれば執するほど、私共の眼に虐げられたもの丶いぢけた精神をはつきり映した。

何といふことだらう。あれほどの强い男が、戀人の手を握ることさへし得なかつた。すなはち戀人の眼の前にあらはれると、すぐに彼は階級意識をはつきり感ずる。さうしたいぢらしい姿としか私たちには映らない。被征服者のいぢけた根生がすぐにあらはれる、自分は貴族の息子でない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ことの意識がはたらく。貴族の娘に戀する資格があるかと思ふ貴族の娘は、てんで浮浪漢など相手にするものではないと思ふ。彼の正直さは、かうしたつまづきに泣かずにゐられない。彼は戀人の足下にひれ伏すやうにして、此のなやみに悶へる訴へかね、打ちあけかねて悶へる。

彼はやつぱり貴族の生活に窮屈を感じないではゐられなかつた。彼は形式的な生活に堪へられなかつた。やつぱり大空の家が戀しかつた。木賃宿に巣喰つて、ゆる〳〵手足をのばしたかつた。戀も叶はない――それで永居の必要があらうか。クリスピン家を拔け出して彼は幾何もなく木賃宿に歸つた。

木賃宿に戻つてから、大の男のカイトがナンシイ孃を思ふ有樣は、まつたくの小兒にかへつたすがたである。兩眼からはふり落つる涙を拭はうともしないで、戀人の美を描く。そして、彼は戀人が婚約者と抱擁するのを最後まで眼のあたり見た。貴族の娘は最後まで　カイトのふところに飛び込んでは來なかつた。彼は自分のさうした運命に對して、憎惡も反抗も呪咀も持たなかつた。虐げられた生活者にとつて、さうした運命をあたりまへのことゝするあきらめが先入觀念となつてゐたからだ。彼の住み心地のいゝところは、大自然そのものであつた。彼の從者のやうに心服してゐた男が、彼の手に抱かれながら、誰一人顧るものもない荒野原に死んでゆかうとした時、カイトは、思はず『日が暮れるやうだ』と言つた。すると、其男は最後の息を引き取らうとしてゐながら、『いゝえ、夜明けです。最う間もなく夜が明けます』微にかう言つて眼を瞑つた。

『夜明けです！』深甚の意味を此の言葉から汲み取らねばならない。

虐げられた者の持つてゐる善良さは、何時の場合でも征服者の前には弱くなる。それだから征服者には利用され勝である。が、此の善良が、あきらめに行かず、反抗に燃えあがるほど强いものはない。

カイトのあの鐵腕に、あの賢さに、此の反抗が加つて、猛然と立つたならば、虐げられた者の通有性である、奴隷根生からわれ自らを解放しようとして振え立つたならば、どんなに强い男として吾々の前にあらはれて來るだらう。彼の善良さは、決して遊戲的なブルジョアの生活を憧憬しないだらう。先づ、なによりも革命家の群れに飛込むに違ひない。（賢三）七、三日

世界欄

飢ゑたるロシアの救濟と虛構記事

飽くまでも腐つた根性の持主はブルジョアとそれの走狗である黃色新聞である。この頃ヨーロッパでロシアの飢饉救濟を防害することを目的に、根も葉もないことを書き立てることが流行り出した。やがてその流行が、未だこれといふ仕事もせぬ日本にも來ぬとも限らぬ……さて、ブルジョア新聞はどんな嘘を言つてゐるか。それはかうである。ブルジョアの御用新聞の言ふのに、ロシアに送つた物資の十分の七は事實飢民に與へられず赤衞軍のものになつてゐるといふのであるが、これに對してナンセン博士は「かくの如き手段で同情心を鈍らすことは飢民に手をかけて殺すと同意味の罪惡である」と抗議してゐる。ナンセン博士の組織する團體はバルチツクや黑海諸港及びポーランド國境からの輸送に關しては在ロシアの救濟委員から都度明細な情報が來てゐるのである。ナンセン博士は勞農政府からちやんと、輸送に關する保障を得てゐるのであるから万々間違があらう筈はない。勞農政府はナンセン博士に對して一切の責任を有してゐるのだ。その上各國の赤十字社や救濟會は物資到着の際嚴密に數量を檢査してゐる。かくして、一旦檢査された物資は倉庫に納められるのであるが、そこには飢民救助國際委員會の代表者もしくは委任者の外何人も出入を許されてないのだ。人の仕事の邪魔する奴は犬に喰はれて死ねばよい。

エス・エル黨四十七僞士の裁判

ところ變れば品變るといふが、世の中に不思議が多い。日本にとつての二十一箇條は支那及び歐米列國に對して救ふ可からざる拙惡外交のシムボルであり、愛國社會主義者にとつての二十一箇條は主義者として頭の上らぬ條件であるのだ。四十七士も櫻の國日本にとつてこそ、主從關係の存在する間、武士道の譽れであらうが、ソヴエット・ロシアに於けるエス・エル黨四十七僞士は反動運動の手先として末代に名を汚す僞士のシムボルである。

エス・エル黨の四十七士とは何か。社會革命員であつて、聯合國の手先となり共產ロシアを轉覆しやうとした、ケレンスキイの下廻りである。デニキンの下廻りである。ユデニッチの下廻りである。コルチヤックの下廻りである。セミヨーノフの下廻りである。ウランゲルの下廻りである。彼等の中にレーニンやトロツキイを暗殺し、また、クロンスタドの暴動を煽動しやうとしたものがあつたが、皆失敗に歸した。何んと諸君、それでも社會主義者と稱してゐながら、ブルジョア以上の敵ではないか。で、名こそ社會革命黨といふが本質に於てはブルジョア政府の急進社會黨位のところの者たちだ、こんな下手人たちであるから勞農ロシアはその四十七名といふものを收監した。當然のことだ。ところが、これと同樣の主義者は必ずしもロシアのみに限つて居るのではない。第二インターナショナル

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の死藥者たちはかういつた手配の變節漢たでちある。これらのブルジョア共はメンセヰキが四十七士を裁判するといふことを聞いて默つて居れぬといふのだ。彼等の仲間のためにロシアへ來て辯護しやうといふのだ。諸君、勞農ロシアであればその自由を許してやつた。諸君、ベルリンにも、ミユンヘンにも今日尙ほ多くのコムユニストは反動社會主義者のために投獄されてゐるのに、これらの國でその裁判に、ボルセヰキイの辯論を許してやつた事實があるか。

この四月、ベルリンの三派會議で、第二と第二半と第三とがブルジョアの總攻擊に對抗するために、プロレタリアの共同戰線と計畫したのを故意にその計畫を水泡に歸さしたのは「ベルギイ國王の國務大臣ヴアンデルヴエルド」一派の第二インターナショナルであつた。そして、第二インターナショナル側の共同戰線に反對の主なる理由はソヴエツト、ロシアが彼等の仲間エス・エル黨員四十七名を迫害したといふのであつた。圖々しいではないか、國務大臣、社會主義者ヴンデルヴエルドはモスコウでそれらの仲間の辯論をしたそうだ。それを許したロシアもロシアだがモスコウまでよく行けた厚顏無恥な奴だ。ソスノウスキイはベルリンでこの時事問題を「社會主義者と共産主義者の對話」として面白いことを書いてゐる。その一節を紹介する。

共産主義者――と言つたわけでエス・エル黨の根膽は撤頭撤尾レーニンやトロツキイを暗殺する計畫であつたのさ。

社會主義者――そうか、小汚い話だ！

共産主義者――モスコウの革命裁判所はヴアンデルヴエルドの前でその眞相を明かにするのさ。もし、それが事實だとすれば、君はどう考へる？

社會主義者――そんな奴等のために第二インターナショナルには入つてゐてもらふ餘地がないよ。

共産主義者――そうだらうつて、そうなると、第二インターナショナルもあんな奴等の口實に共同戰線を態々たたき壞さなくたつていいやうなものだが。それに、エス・エル黨は一九二〇年限り第二インターナショナルと手を切つて第二半に入らうとしてゐるが第二半が未だ未だそれに承諾を與へぬそうぢやないか。

社會主義者――たまらないよ、エス・エル黨員はどんな氣でゐるのか、また、彼等の首領たちのタクテイツクについて、どう考へてゐるか、かうなつたらどうも解らない。あきれらあ。

共産主義者――君は社會主義の首領たちがこんなことで共同戰線をめちやくちやにするのがいいと思ふかね？ それよりは……

社會主義者――實際そうなるといいんだがね……

共産主義者――また會ふよ。

赤色スポート・インターナショナル

この赤がブルジョアの天下である間此社會にあるものでブルジョアジイの獨占でないものは殆んどないといつてもいいがスポートも皆金御多分に洩れない。どんなスポートでも皆金持ちの坊ちやんたちの遊び道具でプロレタリアはたゞたまに塵やホコリを吸ひ乍ら見てゐるだけだ。スポートはそのいい例だ。おまけにスポートをやつてる連中の中にはブルジョア精神が横溢して間接にブルジョア制度擁護の青年運動となつてゐる觀がある。彼等のスポートの中には軍體思想(資本主義的精神の涵養のための鼻持ちのならないものさへある。スポートのクラブの中にも共産主義的精神をもととしたものが當然生れねばならぬとの抱負で起つたのが赤色スポートインターナショナルの運動だ。昨年から着々活躍してゐる。現にロシアの青年の間には眞のスポートが一つのプロレットカルトとして重大な價値を持つてゐる。話は違ふがボーイスカートの如き

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も既に新しい赤色ボーイスカートが生れてゐる。こう云ふ方面は未開拓であるが馬鹿に出來ない問題だ。ギリシヤでも羅馬帝國でもあれ程になつたのは青年のスポートが變つて力があつたではないか。僕たちは早くブルジョアに利用されない様な眞のプロレタリアのスポートクラブをつくらねばならない。

純粋プロレタリアの戯曲

——革命詩人マルセル・マルチネの五幕物『夜』——

プロレタリアよ、兄弟よ、平和の裡に殺され戰爭の裡に殺され、工場に於て殺され、鑛山に於て殺され、塹壕に於て殺され、劍によつて殺され、銃によつて殺され、水によつて殺され、埃によつて殺され、疾病によつて殺され、牢獄に於て殺される兄弟よ。

プロレタリアよ、兄弟よ藝術の名によつて毒され侮辱された兄弟よ、『大家』の名によつて戯曲（或ひは僞曲）の中に、小説（或ひは小窃）の中に嘲弄の的とされし兄弟よ、玆に兄弟の戯曲がある。玆に君達の聽くべき『夜』の叫びがある。玆に人類の『夜』がある。戰爭の『夜』がある。

革命文學（革命文學者といふべく彼は餘りに革命家である！）マルセル・マルチネの新作五幕物戯曲『夜』は、眞にプロレタリアの戯曲である。

戰野にあつて、革命に眼覺めた兵卒は叫ぶ

『さあ來い、俺達ば今幾万となく集合して完全に武裝してゐるのだ！俺達が望みさえすりや凡ゆるものを打つ倒すことが出來る！』

『さあ團結！…………だゞやりさえすりや良いんだ！』

ロマン・ロオランの『革命劇』以後、始めて佛蘭西に現はれた、或ひは始めて世界に現ほれた、最も偉大な民衆革命劇はこれである。

レオン・トロツキーはこの戯曲を露西亞に於て上演すべきことを約した。僕達は『種蒔き』の次號に於て、その一部を紹介し、追て全譯を發表することにする。

種蒔き社出版だより

カール・ラデック

無名の英雄（飛び行く種子第三號）

七月號が出せなかつたのでカール・ラデックの（無名の英雄）を號外として出しました。暗示の深かい面白い短篇です。眞理に忠實なプロレタリア（即ち無名の英雄）の優しい、強い感情がよく出てゐます。表紙のプハリンがかいた（ベルリン三派會議のカール・ラデック）のカルケチュアもなかなか面白くできてゐます。（一部二錢郵税五厘）でお送りします。

金子洋文著

生ける武者小路實篤（四六版百三十頁）（定價九十錢）

それから別紙廣告のごとく本社はいよいよ出版を實現することにいたしました。初めは金子洋文の生ける武者小路實篤を出します。洋文程武者氏を理解し武者を評論にふさはしい者は日本にゐないでせう。革命精神に焔え立つてゐる彼が、武者氏を如何に觀、如何に解剖したか、頗る興味ある著書です。最早活版所に出ました。おそくも九月上旬諸君の眼にふれることでせう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

地方欄

復活した秋田

野口君が革命歌のベラを電車内にくばつて起訴されて以來、土崎港は火が消えたやうに元氣がなかつた、今まで新地や湯屋で盛んにうたはれた革命歌もばつたりやんでしまつた前衛は賣れても種蒔く人を買ふ人は一人もゐなかつた、港生れの小牧、賢三、洋文の名が出る度に、誰でも見たかつたに相違ないが、警察の眼がこはかつた、種蒔く人を買つたら最後、刑事(イヌ)が小うるさくつきまとふので、少し氣の小さい人は買へなかつたのだ。

それでも一部二部は本屋で賣れた、秋田市からこつそり買つて來て、皆が集つて讀んで燒いてすてる、こんなことまでやつたらしい連中もゐた。ところが何うしたものか、六月になつてから急に港の青年は元氣になり出した。新地で再び革命歌はうたはれるし、ある月のいゝ晩などば夜の二時頃まで河で革命歌を連呼してゐた仲間がゐた。

この晩、種蒔く人のサアクルとにらまれてゐる七八人の連中は、洋文君の家に集つて御詠歌をうたつてゐたのだ、私もゐた。（洋文君の弟が死んだので、皆がくやみに行つたのだ）自分達は河からきこえてくる革命歌をきいてびつくりした。皆顔を見合せた、それから微笑した。自分達は靈前で御詠歌をうたつてゐるのが革命歌を合唱してゐるのかわからなかつた。

野口君は出版法違反で二ヶ月をくつた。勿論控訴した。控訴に際して種蒔き社から布施辯護士を送ることになつたことに對して、港の人々は非常な好奇心をもつて論じ合つてゐる。罰金刑ですむといふ人、一ヶ月だといふ人、執行猶豫だといふ人、まち〳〵である。

布施辯護士は今度の判決を怒つて、無論無罪だ、重くて罰金刑だと言つて力んでゐるとの評さがひろがつてゐるが、僕達も二ヶ月には全く憤慨したものだ、聞くところに依ると秋田のめい〳〵法官連中は、初めての問題だつたのでめいめいの頭をあつめて苦心の結果二ヶ月と決定したのださうだ。かういう問題に對しては秋田のめい法官達は常に失敗ばかりしてゐる、ことに伊藤といふ檢事は味噌ばかりつけてゐるので、笑ひ者となつてゐる。

いゝ例證では焼打事件だ、首魁三名に對して、檢事は一年を求刑したが、無罪となつたそれにこりずに、檢事は眞赤になつて仙臺まで事件を持つて行つたものだ、そこでは破棄いゝ面の皮である。こんな譯でかういふ事件は仙臺まで行くと、距離に比例して刑が輕くなるといふのが、今港の人の頭に觀念となつてしまつた、多分野口君も無罪か罰金位ですむことだらうと思ふ。

五月號の種蒔く人は太陽堂一軒だけで七部賣れた、秋田も夏になつて漸く復活したわけだ、種蒔く人万歳！同人の奮闘を祈る（TK生）

松江だより

先頃人間社同人詰氏が出雲へ來られて松江で講演會をやりました

この地方では純文藝の講演は稀しかつたので大入滿員約千餘の聽衆がありました、菊地(寛)、久米、田中(純)、その他、二人の講演がありました、歐州文壇の最新傾向といふ題が僅かにありましたので、私の讀みたくて、まだ一作も見てゐないイバネスの作物の話も出ることゝ期待して、私も出かけました。

然し中央から來た諸君が私達には黴臭くなつてゐる人々や傾向を事新しく、得意で話してゐたのには驚いたより、馬鹿々々しくなつたわけでありました。

クラテル運動に就ても（それは餘り話した人はありませんでしたが）誰にもわかるであらうやうな誤解がありました。

ひどい言分ですが、人間社諸君に文壇のブルジョア連といふ呼びかけをしてゐる一般の世人が、素人の人々が、諸君より餘程人間的で物がわかつてゐるさうに思つたのであります型の如く菊地氏の一高式な文藝の必要と價値といつたやうな話があつて高等學校の生徒諸君を喜ばせたこと一通りではありません。

失戀屋の行商を初めた久米氏――先生がお人よしなたけ――婦人席の視線を集めたのも申すまでもありません。

尤も松江は山陰でも殊に卑俗低調な土地でありますので、そこの春秋會とかいふ劇の研究會――といふと大變ですが毎月の雜誌に出てゐる倉田氏あたりの作品を朗讀する位な集りであります――の連中が主として斡旋してゐましたから山陰が、出雲が、ひどく子供の或は老邁の地方に映つたのにもよりませう。

然しどんな卑俗低調なところでもそれに和して調子を下ろすといふことは人間社の主張とその稱呼とに矛盾するものであります少くともそんな心持の作品には私達は何物も期待は出來ません。

出雲は斬髮屋の子僧でも古事記位は讀んでゐます、魚屋の若いものでも歌俳と活花位は心得てゐます。前者は國柄により後者は松平不昧以來の風流によります。

それで困ることも多い代りに何か大きく啓蒙されさうなものもあります。

私はかうした土地の人々が先頃の講演會のやうな浮ついたものに浮れ出すことをおそれます。

ロシア飢饉のため
秋田の青年奮起す

種蒔き社同人及愛讀者諸君僕たちはロシア饑饉の慘狀を默視することが出來ず非常な意氣と決心で、奮起しました。種蒔き社支部、勞農社、はまなす社、街道社、文化教會、少佛教會、眞言會等の人々それに婦人團體中等學校の生徒まで加はつて活動し初めました、たゞこの擧を拒んだのは人道を保護する筈の官憲のみです。

先づ僕達は當港(秋田縣土崎港)の祭典を利して二ケ處に慈善バザーを開きました。それに依つて吾々は豫期以上の大成功を收めました。第一の日の賣上高は九十餘圓、翌日は百五十九圓、合計二百五十餘圓を突破しました吾々は實に喜びました。第二日の夜の十二時うづたかく積んだ金札をローソクの灯で勘定してゐた席へ、種蒔き社から送られた皷舞の電報を見ました。吾々は嬉しさと、感謝といろ〱な氣持で涙を流しました。

僕達は今度の試みで非常に勇氣を得ました。僕達は人間の眞心を知つたのです、同胞の餓死に對して無關心でゐるのは人間でありません、僕達は官憲から威嚇されました。而し僕等は恐れない。僕等はそれよりロシアの同胞がバタ〱餓死することが恐しいのです。

七月二十六日から愛國婦人の支部會に慈善鍋を持出ます。僕等はもつと〱活動します種蒔く人愛讀者諸君、諸君も人々と協力して飢えたる同胞のために働いて下さい。今僕等が默つてたら、日本はいよ〱軍國主義の國にされてしまひます、軍人で汚した日本を僕等の眞心で淨めたいものです。(七月廿三日)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

瞽人

藥品工場から

M生

苦勞して夜學校を出てから滿三ケ年近い。

何と云ふ平凡な單調な俺達の生活、情熱も感激も干枯らび果した生ける屍の樣な周圍の奴等、金儲けと女の話より知らない洋服細民まだ熱い血汐の漲ぎつてゐる筈の俺迄何だかそんな渦に卷き込まれて此儘固定し仕舞ひそうだ。燃ゆる樣な一瞬間の感情の滿足に全生命を捧げて永遠の生を味ひたい。

先月來の社員の昇給話が流れた理由が聞いて呆れる。二三の者が勤務中碁をしてゐたのが折柄巡視?中の重役の氣に觸つたのだつてたつたそれ丈の理由でほんのそれは目先の事だが我々の生活の安定は否決されたのだ、俺達の階級の奴等が平生無智だとか何んだとか蟲ケラの樣に馬鹿にしてゐる職工だつて生きんが爲には勇敢にストライキでも何でもやつて戰鬪するぢやないか。何日かだつてあんな下らない重役の訓示それも家康の歌か何かを引張り出した低級な話を學士とかの御歷々から我々一同迄謹聽させられた。

おまけに其重役は大ブルジョアの鑵詰男爵の養子とかで何でも贈賄とかで疑獄事件に引掛つた奴だ。此間一寸した事で怒つて技師を叩き殺して死ぬと暴れたそれは發作的だつたにしろあの職工長丈の熱情もないのだ。皆が結束したら重役位如何にだつてヘコませる。然しかつて工場に罷業の無かつたのを自慢にしてゐる位だから仕方がない。職工は多く田舍出の農村子弟や素人でも出來る樣な仕事が多いせいか他處の熟練職工の樣にはまだ〳〵階級意識に目覺めてゐない、然しそれ丈俺のなすべき事は多い樣な氣がする。今日も亦夕方職工が一人揚水ポンプに油をくれてゐて右手をやられた、二本の指が齒車の爲にグデヤ〳〵になつてフンダリとして挽き肉の樣な赤白い肉を見た時は此間死んだ細井和喜藏氏の或る器械を憶ひ出してもう一杯になつて何とも云へない氣持になつた其男は近い中に結婚するそうだづたとか、俺はとめどもなく淚が流れた。此間も一人亞鉛のドロ〳〵熔融した中へ片足を突込んだ其時の一人の事務員の云ひ草が癪だ。

「あんな處へ足を突込むのは今迄にない事だ、本人の不注意だ、白業自得だ」となる程本人の不注意もあるだらうが誰が好んで突込むものが、一寸したお互の過ちが其時の偶然さや境遇によつて思はぬ怪我をするのだ、何も結果の大小に依り過失の根本原因を云々すべきものぢやない。我々が一寸した不注意で風邪をひくのと同樣だ。人間なら誰にもある事だ。先月だつたかまだ若い鮮人がやはりかなり熱した藥液の中へ落ちて大火傷をして未だに醫師へ通つてゐる。工場には故國を後に農業を捨てゝ働きに來てゐる。鮮人がかなりゐる。其他一寸した生傷なら殆んど毎日さ、皆誰の爲にこんなに迄苦しんで働くのか。藥品を作る人間が病氣の際藥がろくろく呑めなくて我々の生活に何の關係もない金持の樂隱居が危篤になると注射だ博士だと新聞迄盛んに書き立てやがる。こんな事は如何考へたつてあり得ない事實だ、酸氣でボロボロの衣服をまとひむせ返る樣な藥品の臭に苦しみながら頭髮を粉末だらけにし乍ら、毎朝

らなぎを食つたり毎夜若い女に伽をさせるとか云ふ社長である處の八十爺の爲に働かねばならない理由が何處にある。職工が鉛毒になつても會社の醫師は買收されてゐるからほんとの事は云はない。仕方がないから本人は他の町醫師に見せて職業病の證明をとつたりして何時もこつ稽な押問答をしてゐる。鼻の中を眞赤にしたりのどが甘たるくなる程光明丹を吸ひ込ませてそれこそ禁物の赤色濃厚な仕事物（光明丹と云ふ奴は赤色の重い細微な粉末て厚いラシャの帽子でさへ通す位だから建物は何處もかも眞赤だ）で一日働かせて牛乳を一合呑ませて其筋とかへは立派に鉛毒豫防の申告をしてゐる、一年一包の職工慰安日とは名はかりで少しばかりの酒肴を出して重役や幹部の奴は別室で料理屋の女中とふざけてゐる。近頃は職工教育とかで何とか文庫や低級な講談本を讀ませて野郎同士豚の樣に寢かせてゐる。社員連は重役と職工の間をうまく立ち廻つてやれ球戯だテニスコートだ大弓だと社費を融通し遊ぶ事ばかり考へてゐる、俺はもう所謂サラリーマンには愛相がつきた、然し俺も尖張り月給鳥とかの中の小鳥さ、まあ當分現在の境遇で出來る丈の事はしよう。決して勞働者の指導者振つたりしないで共に努力しよう。あゝ赤夜業の機械運轉の音が響いて來る同じ夜同じ屋の下に一部の男女は肉と食物に飽滿してゐるのだ。

一九二二五月二十二日夜。

――（府下の或藥品工場にて）――

焰

滿洲にて　高橋純二

焰はさかんに燃えてゐる
ぬけ出でんとする希望を抱く心の焰は
自由の光を仰ぐために、鬪はんとする心の、
反逆の焰は、今猛烈に燃えてゐる、
縛れ、打て、しいたげて見よ！
だが、俺はな益々力が出るんだぞ
俺も貴樣と同じやうに…………
宇宙を形成してゐる一分子なんだ
だから、俺に貴樣と同じ享樂が出來得ない筈
はないんだぞ、
自由を憧れ、權利を主張するに何の不條理が
あるか
やるならやつて見よ
だがなあ、よく聞いておけ、このまぬけ奴。
俺達が何時までも貴樣等の云ふやうにならな
いといふことを…………
俺のからだは俺のものだ
俺のからだは貴樣のものぢやないんだぞ、
俺には俺の自由がある
貴樣の持つてゐる權力は俺にも持てる筈だ、
…………今に見ろ…………
人類が人類を殺す現在を
どうして肯定出來やう？
仇敵に對する俺の復仇の焰は
烈しく、さかんに燃ゆる
焰は俺の魂なんだ
ぬけ出でんとする焦燥の露はれなんだ
この焰で、すべてを燒きつくす
冬枯れの野原へ火を放つた如くに
そして、生れ出ずる若草に何物かを期待する

一九二二、六、五

靑十字とは？

田治郎

國法に於ては既に五十年前に（明治四年）解放せられてゐるにも拘らず、今日でも尙ほ、特殊部落民として、社交上に於ても結婚問題に於ても、職業上に於ても其他總ゆる場合に、蔑まれ迫害せられて、彼等の蒙る痛苦の如何に甚大なるかを想へ。

生物を憐み、腥氣を忌む佛教傳來の思想上より、職業的に誤られたる彼等。しかもその職業たるや、同じく佛教傳來の爲めに、失業の結果餘儀なくせられたるものである。住む

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に家なく、耕すに田なき、當時のプロレタリアが生きんが爲めには、職業を選ぶの餘裕なくして、陷りし彼等の窮地を想へ。

朝鮮民族の孫なるの故を以て、差別をなすならば、○○○○○○○、漂流、放浪、流轉の故を以て、差別を爲すならば、今日の都會住民の大部分は何と見るや皮革業に從事するの故を以て、差別をするならば、現代の皮革會社の社長、株主諸君は、これを何と見るや。罪人の孫なるの故を以て、差別をするならば、今日の前科を有する人並に其の子孫は何と見るや。

笑ふ可きかな！　因襲的妄想をすてよ！

肉を喰ふとか、不潔なるが故にとか、細民なるが故にとかの理由を以て、差別をするならば、敢て問ふ。プロレタリアの勞働失業者は、思ふやうに入浴せんとするも經濟許さず洗濯せんにも差替へなく、淸潔を欲するも住居の餘裕なく、勢ひ不潔に陷る。長き間の社會の壓迫と結婚とは彼等をして非衞生の生活を營ましめ、病者を多く出した。團結力の强大なるは反抗心の結晶である。

聞け、差別徹廢の眞の叫びを！

來れ、靑十字の標語の下に！

懲うした僕は熱烈なる人道主義者、靑十字の木本正胤君の事業を紹介する。靑十字社は大阪市南區天王寺公園前である。

吾々の生活

生駒雷遊

小說『彼の死。』を拜見しました。事實の事としか思はれません。吾々の間には恁ふした悲劇の實例が幾らもあります息もつかずに讀されました。先づはお禮まで

本屋へ十二度通ふ

K.　生

舊き凡ての慣習を打破するところに我が種蒔社の光彩がある。その論文に小說に批評にブルジョア共は戰慄してゐる。一友人曰く、今月の一日から十二日本屋へ通つたが未だ出ないよ。と。

六月號が五月の中旬に出で、七月號が六月の中旬に出るのがブル共の雜誌だ、六月號だから六月に出す處にプロの雜誌たる所以だらうと言つたら、併しいつでも一日發行と書いてあつて十五日頃だよ、にギャフン。

たつた八十圓の生命

M　Y　生

俺達にほんとうの事を敎へて吳れる本は幾らも有るが何づれを讀んでも六ケ敷しくて俺達の樣な無學者には一つも其の意味を解する事が出來ない。けれど俺達には色々のけいけんがある俺は幼ない時から家が貧しかつた爲め人の恐るゝ礦山でブルジョアや智識階級等の想像の出來ないありとあらゆる苦しい仕事をして來た。或る時は俺達の仲間がダイナマイトの爲め身體はコッパみぢんにくだかれるまで一生を虐たげられ通しで尙其の上此の世に見にくき死骸をさらしに生れたが如く又俺のタッタ一人の弟は年もわづか十五にて文明の利器とか何とか云ふ捲揚機械に夾まれて死んでしまつた、其の時礦山より貰つた金は工場法とか何とかに依つてその日給金の百八十日分とかで驚くなかれ八十何圓かで有つた。安い命ちだ、工場法とか礦山法とか云ふのは勞働者の爲めに有るのでは無く資本家の爲めに有るのだと俺は思つた。此の礦山と云ふのは有名か無名か知らぬが代議士淸炭翁の經營になる九州の田舍にあるのだ。其れから俺は急に炭坑が否になつて九州の水でカミナリさまを作る會社にと商賣がへをした此處が又キケン千萬た所で赤靑桃と並ぶ電線に一寸でもさはつて見ろ、たちまち仁王樣のまねをして目ロ……と所きらはず赤や靑のクワエンを吹き出して左樣ならとも云はずに地獄とか極樂とかに行つてしまう。俺達は何處に行つても安心の出來て仕事する所はない、唯だ至るところ待つて居るのはキケン、壓制、貧棒とがつきものだ。此の樣に苦しんで恐ろしい目に

合つて働いてもやはり食や食すだ。
同じ苦しむなれば赤や青の何かを吹かされない前に俺の心が赤く燃て居るのを幸に[illegible]
[illegible]。今迄苦しめられた御蔭でたとへ無學でもほんとうの事を知つて居る。

或る少女へ

和田信義

私は絶えず怒つてゐるのだ。

君はまだ知らないだらうが、私は今の世の中が氣に入らない、一つだつて私の心にかなふものはない。

人から支配され、人から命令されて、それに少しの不平もなく生きてゐる人たちの多い、こんな世の中が、私にはどうにも憤ろしくて仕様がない。

人から犯されどほしに犯されてゐても氣の付かない憐れなロバたちよ、羊の群れよ、それでもお前たちは自由に生きてゐると思つてるのか。

私はそれが悲しいのだ、それを思ふとほんとうに怒らずにはゐられない。

君はまだ誰れからも犯されない尊い少女だ、君だけは、せめてそのありのま〻のかあいい姿で、ほんとうに自由に生きなければならない。

君のほんとうに好きな男と一緒になり、君がほんとうに愛し得る男と一緒になるためにも君の姉妹やお母さんを喜ばせるためにも、はた凡べての人間の幸福を獲るためにも、君は雄々しく悪魔と闘はなければならない。

まことに君はさうなりたいでせう、そして、君は僕を——私を知つてゐますか。

[illegible]。

さあ今こそ私は語らふ。

（一九二一、一二、九）

ペコ君の記事から

うつろぎ生

府中の小作組合動くの中の「……昨秋の府中町小作争議を實地見た人は五百餘名の組合員が秩序整然一絲亂れぬ鮮やかな態度で大デモストレーションをやつつけた……」を讀んで首を一寸傾げた又先を讀んで見ると賀川の死導振と天地の差かあると有つたから尙首を傾げざるを得なかつた、僕は事實を見ないから大きな事は云へぬが指導者こそ變れとも大差はなからうと思われる、勞働者のデモストレーションがブル式なオ上品で營養不足の顔を千万ナラベテ秩序整然一絲亂れぬデモストレーションが何になるものかそんな事で驚く様な又グラック様な社會ではない勞働運動が秩序整然一絲亂れぬを喜ぶのわブルが喜ぶのみで我々勞働者にわ無用の長物だ、又或る一節「……ブルジョア階級の御用を勤める警察の方さへ地主よりも小作人側に同情と厚意を持たしたと云ふのは眞實の前にわ一切のものが頭を下げずに居られないと云ふい〻證據だ僕は此の所を讀むと、いひ知れぬ氣分になつた勞働者の要求は常に正しいのだそれを今更ら此の小作人の要求が眞實でブルドックが同情と厚意を持つたと云ふのはなんだか其の邊てチョチンを持つた様でいやでたまらなかつた。小作人の一絲亂れぬ運動は警察（ブルドック）が喜ぶのは必定だ、そうして此のブルドックは他のブルドックより少しオリコーなんだ一絲亂れぬ運動をした小作人の願を入れねば後日彼等小作人が革命的運動を起す心配があるから一絲亂れぬ運動でなくてわならぬ様だと云ふ觀念をあたへ同情と厚意を持つた用な振りを見せたのだあ〻恐ろしい事だ。

小作人の要求をチビリ／＼と聞き入れさせていつまでも資本主義の中に迷せ資本主義と云ふ大なる社會政策でグイ／＼と多くの勞働

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

者を社會のどん底にタヽキつけるのだそうしてブルジョアが何に程社會に毒害を流すかを知らしめざる様にいつまで無自覺のまゝに置き自己の思ふまゝに絞搾するのだ、無產階級に同情顏するヤツはプロレタリヤに取つてわ爆彈よりも危險なり、いかに同情顏するといへど我々が徹底的運動を起したらまさか我々に味方はせまいやはりその本性を現す事は暗夜に光を見るよりあきらかだ勞働運動は我々勞働者自身の運動なんだ烱けちがいの人達らの同情顏なぞにわ心を向けずに自己の思ふまゝに一直線に進むべしだそこに始めて勞働運動の威力を示す事が出來るのだ我々の資本主義に對する反逆心はブル達ちにわ知る事の出來ぬ信仰感情を有しすべてを話したら彼等は驚くだらう我々には絶對に妥協の道わない我々は彼等と戰い要求が通つてもそれは只敵に近づいた一歩で決して勝利でないプロレタリヤが解放されて初めてそこに勝利が有るのだ故に僕は此の記事を見てペコ君がいかなる考へで書かれたかは知らぬが此んな記事は注意して！ 他の方法で書いてもらいたい種を蒔いても蒔き方が惡いとやはり良い實を取る事が出來ぬからネ

自由何處に存在する

鹿島篤

俺が或日スクールで
現内閣痛罵の演説をやつたら
教師の奴は
神經過敏の官權の様に
蔭で迫害と壓迫の手を延ばした
此の莫迦げた人間が低能兒が
自由を標榜する學校に存在してゐる

×

自由は何處に存在する
博奕打がドスとピストルで喧嘩した
片方の奴が國粹會とやらで
[illegible]
弱き民衆の前には猛虎の如き官權も
暴徒の前では猫の様に
おとなしく喧嘩を放任してゐた

×

千万の貴いプロレタリアの生命と
蟲けらにも劣つた魂のブルジョア一人と
どつちが大切だい
請願巡査の一人でも憎く資本がえらいのかい
勞働者が生活の眞理を擁護すれば
會社は首でめしが食へない
それぢや自由は何程(いくら)で買へるのだい

×

自由を愛する人間等よ
だがブルジョアを除いた人間等よ
一度入つて御覽よ
監獄改め行刑所に
どうせ自由がえられないなら
だが御待ち――俺は默つてゐられない
革命の光榮の下に自由な公平な境地を造らうよ

こぼされた種

生

蒔かぬ種は生えない。そが成長すると否とに關係なく、我々種蒔く人は、絶えず、種蒔く事を怠つてはならない。五月二十正日我々の一行は成長すべき種を蒔く爲めに、H市に潜入した。

社會問題講演會と云ふ名を以つて思想畑を耕し、其處に良い種を蒔く爲のであつた。

旗は何者かの暴力に依つてもぎ取られたけ

此の旗の爭奪戰のあつた瞬間に我々は二名の負傷者を出した上、傷ましくも敗亡した。丁寧に蒔かうと思つた種子は不幸にして蒔けなかつた、が旗の爭奪戰の演ぜられた爲めに種子は其處にコボサレた。此のコボサレた種子の成長を祈りながら一行はH市を引き上げての歸途A市に途中下車。コボサレた種子の成長を祈願すべく？K神社に參詣を思ひ付いた。

階級意識に眼覺めよ

萩野幽香

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

俺の働らいて居る××店には四百人程の若き男女が蠢めいて居る。無知な彼等の多くは唯「若さ」のみを讃美するかの如くはしやいで居るだけで全部なのが氣の毒になる。眞實に自分達の生活なり社會を考へて見やうともしない。哀れなる動物よそれは此處だけでは無い。現在の日本の「若き者の世界」の殆どがさうなのだ。我々若者の世界からもつとセンチメンタリズムを抜き無知から解放されなければ我々は救はれない。そしてもつと自我意識と階級意識に目覺めよ。

ブルの毒手

岩田生

神經衰弱にかゝつてゐるやうな私の村にも先年からマッチ箱見たいなユーロッパンビルデングが建てられました。それがブルの毒手なのです。村民は目前の幸福に汲々としゐますそして小作料云々は、個人的に問題にしてゐるやうです。

プロの叫び

岡山　寺田路郎

夜毎暗いガスの光の下に、露店を出してはプロの叫びをあげてゐます。何處へ行つたつて、ブルの奴の横暴は變りません。

彼等は誇らしげに、まばゆいダイヤの光つてゐる時計屋のショーウヰンドーに、豈の様に、明るい呉服屋に品定めはしてゐますが、薄汚い私達の露店には、視線さへ向けないのです。

私のこの言葉は、決して悲鳴ぢやありません。絶叫なんです。眞剣に人生に生きるものの正當なる叫びなのです。

だらけ切つた氣分、もう生活に疲れてしまつて、ブルジョアを憧れる弱者が、ウヨウヨと蟲のやうに居ります。私はそれ達を見るとある呪はしさで、泪ぐましさを感じないわけには行きません。

私は力強く大地を踏みしめて、何處までも叫ぶ義務を感じます。

日本といふ特殊國に生れた悲しみを超越して、特殊國に生れたが故により熱烈な、ある反逆力を持ち得ることを喜びます。

[illegible]。私達は人類の使命を果さなくちやなりません。

――動　靜――

白像（八月號四十錢）知名無名雜居のところは八月號丈に暑苦しい。而し若い連中の元氣だけ流石に涼しい、六號は一寸たまらない（東京府下代々木初ケ口五九八新文藝社）

水平（七月號五十錢）佐野草の特殊部落解放論が眼につく。（京都上京區鷹野北町八水平社出版部）

黒濤（一部五錢）ルクスやレーニンが何とゐかさうが、クロが何と云ふが俺達には用はないと言つた風な元氣な主義の小新聞紙月一回（東京府下世田ケ谷池九四一二其社）

無産階級（七月號三十錢）福田馬鹿博士が痛快にやつけられてゐるゝ雜誌だ（東京府下代々木幡町幡谷四〇其社）

高原（七月號六十錢）横組の洒れた雜誌だが中味は元氣だ若い女性にもてるプロレタリア雜誌（深川區西平野町十七其社）

飢えたるロシアのために

前略弊亭の濟躍貴下のお眼に止り御鳳聲に接し感謝に不堪候、扨て飢えたるロシア救濟のために種々熟考したる結果、貴下經營の科學食料品會社の食料を飢えたるロシアに送るべく決議仕候、若し廣告のごとく一度食したる時は三日間も空腹を感ぜざること眞銘なれば取敢ず一噸だけは寄附下され度此の際飢えたるロシアのために御願申上候。（赤爺）

科學食糧品會社々長殿

元銀座種蒔きバー

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會主義講座（三）

古代の社會主義

——プラトンの共産主義と アリストテレスの個人主義——

今回は古代希臘に於ける共産主義に就いて述べよう。

狹小な土地と僅かな人口とを以てして、幾多偉大な思想家藝術家を輩出した古代希臘は、歴史と一の驚異である。就中プラトンとアリストテレスは最も偉大であつた。歴史を通じて最も大きな影響を人類に與へたプラトンは、亦實に共産主義の思想體系を作りあげた最初の人であつた。

プラトンは西紀前四二八年に生れ、三四七年に七十九歳で死んだ。貴族階級の出であるが、プラトンといふのは變名であつた。（共産主義者にとつて、變名は付き者らしい。例へばレーニンの本名は、ウラヂミイル・ウリヤーノフである。）プラトンは希臘時代の主な教育即ち體操とか音樂とかを習ひ、美を愛する調和的な人物であつた。

プラトンの哲學を全體的に述べる事は出來ないが、彼の哲學は一言すれば觀念論理想主義である。プラトンは觀念（イデア）といふものが、精神の構成よりも想像の發明よりも以上のものであると考へた。物は總て觀念が基になつて出來てゐる。例へば櫻の花が美しいといふのは、櫻の花に美といふ觀念が宿つてゐるからだ、とプラトンは考へた。然し物は觀念或は理想を不完全に現はしてゐる。例へばテーブルを取つてみる。テーブルには、異つた形や大きさや長さを持つた、色々なのがある。それらは觀念を完全に現はしたテーブル即ち理想的なテーブルの、樣々異つた不完全な現はれである——とプラトンは考へたのである。

この考から、プラトンは理想的社會を構成した。言ひ換へると、最高の秩序と美と正義とを實現すべき社會の觀念社會の理想を形造つたのである。では彼の理想社會とは如何なるものか。

先づプラトンは社會を以て完全な個人即ち有機體の如きものと考へた。プラトンに從へば、人間の精神には三つの部分がある。第一の最高の部分は理想を表はし、第二番目は氣概（勇氣と心情）を表はし、第三番目は物欲を表はす。そこで人間の精神が完全な秩序をなすには、下等な精神即はち物欲とか氣概とかが、高等な理性に從はねばならない。

同樣にプラトンの理想國家の社會組織も三階級から出來てゐる。精神の理性に當る第一階級として、國家を治める

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

智者があり、氣概に當る第二階級として、武士があり、物欲に當る第三階級として、生活の物質的方面に從事する勞働者とか職人がある。そして、國家を治める者が哲學者である時、初めて純粹の觀念(イデヤ)を實現した社會が出來ると考へた。

プラトンはまた社會は財產を共有にせねば秩序と調和を持ち得ないと考へた。單に財產ばかりでなく、女も子供も共有にせねばならぬといふ、今日の共產主義も及ばない完全な共產主義を唱へた。

プラトンは國家を以て最高の道德を表はすものだと考へた結果、私有財產を否定した。共同團體は共通の利害の上に立たなければならない。誰も利己主義的であつてはいけない。この利己主義を絕滅するには、私有財產も無くさねばならないと考へた。

然しプラトンの共產主義は貴族的なものであつた。プラトンもアリストテレスも奴隷のない社會を想像することが出來なかつた。だから奴隷にとつては共產主義はない譯である。只上層階級だけの共產主義で、彼等だけが調和的な生活をするに過ぎない。職人や農民や勞働者にとつては何でもない。だから、それは、不平等の上に立てられた奴隷制度の共產主義である。

然るにプラトンは婦人を男子と平等に見た。勿論男女の生理的差異は認めてゐるが、其の差異は婦人が全ての職能につく事を妨げるものでないと言つた。法官にもなれば、都市の防禦の任にも當れると言つた。男女の能力には只程度の差があるだけで、根本的な差はないと言つた。古代にあつてはこの思想は甚だ進んだものである。今日大學の先生方にも尙この考へに至らない人が多いのだから。

プラトンの共產主義は單に生產及び所有の上の共產主義は單に生產及び所有の上の共產主義でなく、また消費の上の共產主義であつた。都市即ち特權階級は共通に所有し、共通に生產するのみならず、公共的な食事で、共通に等しく消費せねばならないのである。

以上の簡單な叙述で見ても、プラトンの理想國家が空想的方法の全ての特徵を持つてゐることを、讀者は知るであらう。

プラトンは全理主義者であり、道德論者であつた。プラトンは人も知る通りソクラテスの弟子である。ソクラテスは一冊も書物を遺してゐないが、合理的道德の最初の教育家であつた。その教育方法は問答法で、街路とか廣場とか

人の居る所では何處でも構はず、人に話しかけて產婆が子を生ませる樣に、人の思想を引き出した。ソクラテスの根本思想は、「德」といふ精神的性質の集合體は吾々に依つて達せられるものであると言ふのだ。この思想に立脚してプラトンは理想國家を描いたのである。從つてそれは主として理性に依るものであつた。

プラトンの共產主義は當時の希臘のデモクラシイに對する反動であつた。西紀前四世紀の頃、希臘ではデモクラシイが勝利を占めた。然しそれは今日吾々が言ふブウルジヨア・デモクラシイであつた。階級鬪爭は、後に說明するが、希臘に存在してゐた。數度の戰爭の結果、澤山の成金が出來て、それが權力を得たのであつた、で人民議會といつても單に中產階級が參ずるだけで、人口の大多數ぬ奴隸は全然除外されてゐた。プラトンの貴族的共產主義はこの中產階級のデモクラシイに對する反動である。

空想的特徵は、殊にその理想家の實現に關しては著しく現はれてゐる。プラトンは善良な專制君主を求めて、その理想を實現しようとした。偶々シラクウサの王に招かれて行つたが、王が自分の理想を行ひさうにないので、そこを去つてしまつた。

次に吾々はプラトンの弟子のアリストテレスの思想を見よう。

共產主義に反對する議論の中で、アリストテレス程明快に高尙に聰明に議論した者は曾てない。爾來二十五世紀も經た後に、この事を考へると、社會的な意味で眞に吾々は恥づかしい。若しアリストテレスの『政治學』の第二篇をハアバアト・スペンサアの『國家對個人』に比較して見る時には、師プラトンに多大の尊敬を拂ひながら反對したアリストテレスの共產主義反對論が、近代の大哲スペンサアの反對論より遙かに優れてゐるのを見出すであらう、其の他政治屋或は著述屋等——例へば獨逸進步黨の領袖オイゲンリツヒタアの如き、或はイヴ・ギヨオの如きは——語るに及ばず、更に日々片々たる新聞雜誌に現はれる、通俗反對論の如きはてんで問題にならない。

プラトンは理想主義主義者であつたが、アリストテレスは何より現實主義者であつた。彼は曾て出でた誰よりも百科全書的な學者であつた。西紀前三八四年に生れ、三二二年に死んだ。王の侍醫の子であつたから、貴族ではないが、知識階級の出である。アリストテレスは當時の知識を全て

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

有してゐた。傳記によると、著作は四百程で一千卷に及び四十四万五千二百七十行となる。その中四十七だけ殘つてゐる。彼はアレクサンダア大王の教師であつた。

アリストテレスは現在の科學の大部分に名を與へた。經濟學、政治學、心理學、數學、動物學等である。彼は當時の學を全て取入れ、尙自己の創見を附加した。その影響は中世紀の全體を蔽うてしまつた。で彼の教理から脫するためには、まつたく知的革命を必要とした。その學說の中吾々に興味のあるのは國家の概念と共產主義に對する爭論である。

アリストテレスの國家の概念は今日のブウルジョアのそれより遙に優れてゐる。次に『政治學』冒頭の定義をあげよう。

「全ての國家は明に一の組合(アツシエーション)である。且つ全ての組合が然る如く、その結合は利益に依る。人間は個人的利的の見地からでないと、何も爲ない者であるが故に、全ての組合が利益を滿足させる事を目的としてゐるのは明白である」

これは全然近代的な思想である。或はマルクス的といつてもない。社會は、かのルツソオが言つた樣に、決して契約の上て出來ては居ない。社會は利益に立脚してゐる。マルクスはこの利益を定義して、生產の利益と言つた。

然しアリストテレスの國家の概念と、マルクス及び吾々の社會の概念とは次の點で異つてゐる。マルクス及び吾々にとつては、社會は歷史的產物であり、時と共に發達するものであるが、アリストテレスは、恰もブウルジョア御用學者と同じ樣に、不平等な現在の社會組織を以て、自然の產物だと見た。從つて全ての自然の產物と同じく、その社會は永久的であると見た。

アリストテレスは言ふ「自然は婦人及び奴隸の特殊な狀態を決定した。』或は、「國家は自然から出來た。」

アリストテレスが奴隸制度を永久的と考へたも一つの理由がある。それは、或る少數の優れた者が科學を研究し、或は美を鑑賞することの出來るためには、他の者が汚い仕事やひどい勞働をせねばならぬと言ふのである。

此の如く階級永久說を持つてゐたに拘らず、アリストテレスは、機械の時代の來る事を豫感してゐた。その時には尨大な勞働が自働的に行はれ、從つて奴隸も要らなくなるだらうと考へた。彼は言ふ、「若し夫々の機具が與へられた(或は單に豫感せられた)秩序の上で、獨りでに動いたら——宛も詩人の言ふ神々の集ひに獨りで赴くデダルの像や、

ヴアカンの三脚杯の様に――梭が獨りで織り、弓が獨りで六弦琴を奏でたなら、企業家には勞働者が、主人には奴隷が、夫々要らなくなるだらう。」

機械の時代は既に來た。然し支配階級は尙も奴隷を手放しては居ない。

アリストテレスがプラトンの共產主義に對する大議論は如何なるものであるか。第一に、今日のブウルジョアと等しく、丁度『人口論』の著者マルサスの様に、制限し撲滅すべきものは、財產ではなく人口の過剩であると言つた。また、働くといふ慾望は、財產即はち個人的利益がなければ起らない。で財產がなかつたら、皆怠けてしまふと言つた更に若し私有財產を禁じたら、親切といふことがなくなりはしないか。財產があつてこそ、自分の財產を犧牲にして他人に盡すといふ親切も湧いて來るのだと言つた。

アリストテレスは極端を嫌ひ、中庸を愛した、で一方では極端な富の蓄積を卻けると共に、一方では極端な貧困も卻けた。全くそれは中產階級の哲學であつた。

彼は婦人と子供の共有には全然反對したが、この家族の問題については、後段サン・シモンの條で述べようと思ふ。

最後に二十五世紀前の希臘に既に階級鬪爭があつた事を背示すべき一節を、アリストテレスの著作から引用する。

「民主政府は危險な敵を有してゐる。それは煽動家であつて、或は富者を誣告し、或は無產の階級を富者に向つて指嗾して、政府を爆破し、顚覆ぜんとする者である。その例は數多ある。コスに於ては、彼等の不實な運動が富者の陰謀を惹起し、民主政府は倒れた。ロデスに於ては、彼等が財政を處理したため、艦長等に當然與ふべき償金を取下げさせ、且つ法律的追求で以て罰金を科し、爲めに艦長等は絕望に沈み、遂に革命を起した。ヘラクレスでも、煽動家は民主政府の崩壞を企てた。メガラでは、彼等は多數の富者を町から追放してその財產を沒收したが、富者は强勢を以て引き返し、遂に寡頭政治を建てた。同樣の事はケノフイテスの戰後、クスネスにあり、テーベにあつた。民主政府壞崩の歷史を辿る時には、殆んど到る處で、煽動家が土地法令を土地に分配する方法を發し、且つ陰謀を企てるの止むなきに階級を告發で以て追求し、富者を苦しめ、安逸至らしめ、その財產で人民に施與をなしてゐるのを、諸君は發見するであらう。」

以上で古代希臘の二大思想家の社會學說を略述した。次回は十八世紀の社會主義を說くであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

エロシエンコ著

最後の溜息

四六版美本定價一圓八十錢（送料七錢）

人類愛と社會苦を
抱き、遠く國外へ
放逐された盲詩人が
日本にのこせし
悲しき形見。
讀むものゝ胸に
大きな光明の波紋を
投じないではおかない。
水晶の如く透明な思想と
虹の如き多彩な感情
を盛つた、
童話劇及び
童話の數篇を收む。

牛込區神樂町二ノ十
叢文閣
振替東京四二八九番

表現座試驗

（九月下旬於有樂座）

作者 中西伊之助氏　脚色 京谷周一氏
舞臺監督 秋田雨雀氏　同 金子洋文氏
舞臺裝置 小生夢坊氏

赫土に芽ぐもの

上演者
佐々木孝丸　前澤未彌　津村健
小生夢坊　辻潤　金子洋文
今野賢三

その他男女多數出演します。吾々は特に三階のお客を優待し團體で聲援して下さる方を歡迎いたします。どんなすばらしい、獨特な表現をするか、樂しみにして待つて下さい、くわしいことはこの次に又お知らせいたします。

種蒔く人（九月號豫告）

—赤色プロレツトカルト・インターナショナルの運動—

世界の問題になつたバルビュス、ロオランの論爭はブルジョア文化の末路を明にした。ブルジョア文化の破綻は貴族文化にその根底に置いたところにあつた。プロレタリア文化はブルジョアジイが自惚れてゐる樣にブルジョア文化に依憑してゐるものではない。プロレタリア文化はそれ自らプロレタリア文化だ。プロレタリアの革命文化だ今や赤色プロレツトカルトインターナショナルの運動は、第三インターナショナル運動と共に、赤色勞働組合運動と共に、靑年インターナショナル運動と共に、又無產階級婦人インターナショナル運動と共に全世界革命運動としての新なる戰線を張つた。赤色プロレツトカルトの運動は、ブルジョアジイと戰線を共にするソシアルデモクラツトのそれではない。僕たちの立場は既に決してゐる。

九月號にはこの問題を纏めて紹介し同時に僕らの主張を撤底せしめやうとする。僕らは大山郁夫、小泉鐵、新居格　諸氏並びに初之輔、正俊の論文主張を發表することを欣ぶ。更に又麻生久氏が文藝雜觀の寄稿を承諾されだことを讀者諸君と共に欣ぶ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

金子洋文著（四六版百三十頁）

人と思想叢書（第一卷）

生ける武者小路實篤

定價九十錢

郵税六錢

種蒔き社は今回出版部を設け先づ（人と思想叢書）を刊行することに決定した。九月一日第一卷を發賣し順次に左記の評論を刊行する。日本を代表する思想家及作家に對して氣鋭の新進は如何に觀察し解剖するか蓋し之等の著書は混沌たる日本の思想界及び藝術を鮮明にし、擡頭しつゝある時代の革命精神を明示するものである。

第二卷　生ける長谷川如是閑……村松正俊

第三卷　生ける秋田雨雀……佐々木孝丸

第四卷　生ける山川均……平林新之輔

第五卷　生ける小川未明……山川亮

種蒔き社
出版部

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

前月號目次

メーデーの教訓（題言）……………
藝術運動に於ける共同戰線（社論）……
文藝運動と勞働運動（評論）平林初之輔
癈兵をのせた赤電車（小説）金子　洋文
恐怖の片影（童話詩）………佐々木孝丸
歸村せる村長（小説）………飯田德太郎
路傍の男（小説）…………今野　賢三
ブルジョア文藝の不倒子を突倒す
（評論）……………津田　光造
シベリア通信……………………
未明管見……………逸平　老史
ロカール・ラデック
無名の英雄（飛び行く種第三號）
ロロマン・ロオラン
アンク・バルビユス　の復製寫眞
二枚二十錢　送料二錢

編輯後記

七月號いろ〳〵な支障で何うしても出せなかつた、いつも十五日發行雜誌（一名プロレタリア雜誌）になるのも忌々しいので思ひ切つて七、八合併號として出した。少し口惜しかつたのでその腹癒せに、カール・ラデックの「無名の英雄」を號外として出した。これを七月號と思つて我慢してほしい

ロシアの饑饉に對して無關心でゐる人間の正體を知りたいものだ、神樣か、大賢か、大愚か、その正體を知りたいものだ、僕達はかういふ場合にこそ國辱といふ言葉を使ふ。

種蒔き社同人は八月中旬、秋田雨雀氏と共に、秋田縣下を一巡してロシア饑饉の講演會を開催する、讀者諸君、飢えたるロシアの同胞に對して、君の一椀を送つてくれ一回、五十錢、僅かに十錢でもいゝ君達の眞心を送つてくれ。勞農ロシアの興廢は實に僕達プロレタリアの生命、眞理の興廢に關する大問題なのだ。

本號でトロツキイの書簡を出す意でしたが一杯になつたのでその內折を見て發表します。

定價	一部四拾錢◇半年前金貳圓四拾錢◇一年前金四圓六拾錢御註文はすべて前金のこと◇代金の領收は雜誌發送を以てする◇送料內國壹錢外國四錢
廣告	廣告及廣告料については直接本社へ問合せを乞ふ
宛先	寄贈、通信購讀申込及び送金、其他本誌に關する一切の御尸向書籍雜誌等の寄贈は凡て「種蒔き社」宛
締切	每月五日

大正十一年七月廿八日　印刷納本
大正十一年八月　一日　發　行

東京府下代々木大山千四十四番地
發行人編輯人
印刷人　今野賢三

東京市神田區今川小路一丁目一番地
印刷所　同工社

東京府下代々木大山千四十四番地
發行所　種蒔き社
振替口座東京五九三八七

大賣捌　東京堂　上田屋　北隆館
至誠堂　東海堂

種蒔く人　第二年第二卷第十、十一號（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）大正十一年七月二十八日印刷納本　大正十一年八月一日發行

本號四十錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蒔種く人 第二年第二巻第十、十一號（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）
大正十一年七月二十八日印刷納本
大正十一年八月一日發行

本號四十錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA